## ライセンス認証(アクティベーション) 実装ソリューション

- ◆認証 Web サービス
- ◆認証管理アプリケーション
- ◆配布アプリケーション用認証ライブラリ(DLL)

# 認証レスキュー! 2

## ユーザーズガイド

(2.6.8)



## - 目次 -

●概要	7
●主な注目機能一覧	8
●インストールされる内容	9
●動作環境	10
●運用イメージ	11
●処理·設定一覧	12
●インストール	13
1.「Web サーバー用 PC」へのインストール	13
2.「認証業務用社内 PC」へのインストール	15
3.「アプリケーション開発用 PC」へのインストール	16
4.インストールの終了後	16
5.製品別の制限事項	17
●初期設定(Web サーバー用 PC と認証業務用社内 PC)	18
1.Web サーバー用 PC の「環境設定」処理	18
■データテーブル新規作成	19
■NR 登録ライセンスの管理	21
■NR 登録ライセンスの警告	24
■「登録」ボタン	
■データベース更新	27
■データベースのバックアップ	
■データベースの復元	
2.認証業務用社内 PC の「認証管理システム」	
■環境設定	
■認証キー作成(自動ナンバリング)	
■ラベル印刷	
●Microsoft Azure で「認証レスキュー!」を利用する方法	
■Microsoft Azure の仮想マシンを利用する	
1.仮想マシンの作成(参考)	
2.作成した仮想マシン(例)	
3.仮想マシンの開始(例)	
4.仮想マシンの接続(例)	
5.仮想マシンへの認証レスキュー!のインストール	
■Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)と SQL データベースを利用する	
1.認証レスキュー!の「Web サーバー用 PC」へのインストールを行うを行う	
2.認証レスキュー!用のデータベースを Microsoft Azure の「SQL データベース」に配置す	る42
3.認証レスキュー!の Web サーバー用 PC の「環境設定」処理を完了する	
4.Microsoft Azure の「Web アプリ 」に認証レスキュー!の Web サービスを配置する	47
5. Microsoft Azure 上で認証レスキュー!を運用している場合の Web アプリと SQL データ	ベー
スのバージョンアップの方法	
■Azure でのシステム標準時刻に関する注意点	50
●アプリケーション開発用 PC での「認証 UI ライブラリ」の利用	
■認証 UI ライブラリ関連ファイル	
■認証 UI ライブラリの利用形態による選択	
■同一 PC 内で異なるアプリケーションやオプションのライセンスを識別する方法	
■UI 系サンプルプロジェクトと API 系サンプルプロジェクトについて	
■ASP.NET 系サンプルプロジェクトについて	
■認証 UI ライブラリ機能一覧	
〈クラス〉	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

EncryptionPassword プロパティ	59
EncryptionSaltString プロパティ	60
ProductIdNumberOfDigits プロパティ	61
RentalPeriod プロパティ	62
RentalPeriodName プロパティ	63
SerialNoNumberOfDigits プロパティ	64
SetProductID プロパティ	65
SetSerialNo プロパティ	66
TelephoneNumber プロパティ	67
TrialPeriod プロパティ	68
TrialPeriodName プロパティ	69
UseCpuInfo プロパティ	
UseMacAddress プロパティ	71
VendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ	72
WebServiceBasicAuthenticationPassword プロパティ	
WebServiceBasicAuthenticationUserName プロパティ	74
WebServiceCheckPassword プロパティ	75
WebServiceTimeout プロパティ	
WebServiceURL プロパティ	77
WebServiceUseBasicAuthentication プロパティ	78
<ui 系メソッド=""></ui>	79
ActivateRegisterInternet メソッド	80
ActivateRegisterTelephone メソッド	82
ActivateRemoveInternet メソッド	83
ActivateRemoveTelephone メソッド	85
ActivateStatusCheck メソッド	86
ActivateStatusCheckOnline メソッド	88
ActivateStatusDisp メソッド	90
DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド	91
GetProxyUpdateOfExpirationDate メソッド	
PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド	
ProxyActivateRegisterExecute メソッド	
ProxyActivateRegisterFix メソッド	
ProxyActivateRegisterPrepare メソッド	
ProxyActivateRemoveExecute メソッド	
ProxyActivateRemovePrepare メソッド	
RestoreCancelStatus メソッド	
RestoreRegisterStatus メソッド	
UpdateOfExpirationDate メソッド	
· 〈API 系プロパティ〉	
APIError 列挙体	
APICertificationID プロパティ	
APICurrentExpirationDate プロパティ	
APIEncryptionPassword プロパティ	
APIEncryptionSaltString プロパティ	
APIErrorStatus プロパティ	
APIExternalLinkKey プロパティ	
APINewExpirationDate プロパティ	
APIFreeItem1~5 プロパティ	
APILicenseKey プロパティ	
APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate プロパティ	
	10 1

APIProductID プロパティ	135
APIProductIdSerialNoList プロパティ	136
APIProxyDataPath プロパティ	137
APIProxyServerAddress プロパティ	138
APIProxyServerPassword プロパティ	139
APIProxyServerPort プロパティ	
APIProxyServerUserName プロパティ	
APIReleaseKey プロパティ	
APIReleaseStatus プロパティ	
APIRentalPeriod プロパティ	
APISelectRunAppDatePathFlag プロパティ	
APISerialNo プロパティ	
APITrialPeriod プロパティ	
APIUseCpuInfo プロパティ	
APIUseMacAddress プロパティ	
APIUseProxyServer プロパティ	
APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ	
APIWebServiceBasicAuthenticationPassword プロパティ	
APIWebServiceBasicAuthenticationUserName プロパティ	
APIWebServiceCheckPassword プロパティ	
APIWebServiceTimeout プロパティ	
APIWebServiceURL プロパティ	
APIWebServiceUseBasicAuthentication プロパティ	
〈API 系メソッド〉	
APIActivateRegisterInternet メソッド	
APIActivateRegisterTelephone メソッド	
APIActivateRemoveInternet メソッド	
APIActivateRemoveTelephone メソッド	
APIActivateStatusCheck メソッド	
APIActivateStatusCheck2 メソッド	
APIActivateStatusCheckOnline メソッド	
APIActivateStatusCheckOnline2 メソッド	
APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド	
APIGenerationOfNewCertificationID メソッド	
APIGetFreeItem メソッド	
APIGetProductIdSerialNoList メソッド	
APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド	
APIGetProxyDataForRegister メソッド	
APIGetProxyDataForRemove メソッド	
APIGetProxyUpdateOfExpirationDate メソッド	
APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド	
APIGetRegisteredInfoFromRegistry2 メソッド	
APIGetRegisteredInfoFromWeb メソッド	
APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド	
APIProxyActivateRegisterExecute メソッド	
APIProxyActivateRegisterFix メソッド	
APIProxyActivateRegisterPrepare メソッド	
APIProxyActivateRemoveExecute メソッド	
APIProxyActivateRemovePrepare メソッド	
APIReadProxyServerInfoFromRegistry メソッド	
APIRestoreCancelStatus メソッド	
- · + + · · · · · · · · · · · · · · · ·	

APIRestoreRegisterStatus メソッド	225
APIRunNR2AppDateRemove メソッド	227
APIRunNR2AppDateRemove2 メソッド	228
APITrialStartDateRemove メソッド	229
APIUpdateOfExpirationDate メソッド	230
APIWriteProxyServerInfoToRegistry メソッド	233
<asp.net 系プロパティ=""></asp.net>	235
APIxError 列挙体	236
APIxErrorStatus プロパティ	245
APIxExpirationDate プロパティ	246
APIxExternalLinkKey プロパティ	247
APIxFreeItem1~5 プロパティ	248
APIxKindOfRandom プロパティ	249
APIxLicenseCount プロパティ	250
APIxNumberingCount プロパティ	251
APIxProductID プロパティ	252
APIxProxyServerAddress プロパティ	253
APIxProxyServerPassword プロパティ	254
APIxProxyServerPort プロパティ	255
APIxProxyServerUserName プロパティ	256
APIxSerialNo プロパティ	257
APIxSerialNoString プロパティ	258
APIxStartNo プロパティ	259
APIxStartFixedString プロパティ	260
APIxStepNo プロパティ	261
APIxUseProxyServer プロパティ	262
APIxUseRental プロパティ	263
APIxUseExpirationDate プロパティ	264
APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword プロパティ	
APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName プロパティ	266
APIxWebServiceCheckPassword プロパティ	267
APIxWebServiceTimeout プロパティ	268
APIxWebServiceURL プロパティ	269
APIxWebServiceUseBasicAuthentication プロパティ	270
<asp.net 系メソッド=""></asp.net>	
APIxCreateNumberingActivationKey メソッド	272
APIxCreateOneActivationKey メソッド	274
APIxCreateRandomActivationKey メソッド	
APIxDeleteActivationKey メソッド	278
APIxEditOfExpirationDate メソッド	
代理認証機能について	
	284
Visual Studio 2010(Visual Baisc 2010/C# 2010)の場合	
Visual Studio 6.0(Visual Basic 6.0)の場合	
Visual C++の場合	
認証 UI ライブラリ(DLL)を利用したコーディング 〈UI 系の場合〉	
Visual Baisc 2010 の場合	
C# 2010 の場合	
Visual Studio 6.0(Visual Basic 6.0)の場合	
Visual C++の場合	
ション・シッコ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	312

## *NEWTONE*

●認証レスキュー!で使う主なテーブルの概要	313
<認証キーテーブル>	313
<認証データテーブル>	313
<認証キーテーブル>の「プラス許可数」項目の必要性	315
<認証ログテーブル>	
●「認証管理システム」のその他の処理説明	319
■認証キー作成(表形式)	320
■認証キー作成(個別)	321
■認証キー作成(ランダム生成)	
■認証キー作成(インポート)	
■認証キー編集(表形式)	
■認証キー削除(表形式)	
■認証キー削除(個別)	327
■認証状況	
■ログの表示	
■電話認証登録の対応	
■電話認証解除の対応	333
●有効期限機能の利用方法	
◆Web アプリケーション(ASP.NET)から有効期限の更新を行う	340
●アプリケーション難読化の必要性	341

## ●概要

「認証レスキュー!2(以降、認証レスキュー!)」は、貴社のパッケージアプリケーションにライセンス認証(アクティベーション)機能を付加して運用するためのソリューションです。 認証レスキュー!では、次の3つのソリューションを提供します。

## 1.Web サーバー用 PC に対するソリューション

インストーラが SQL Server 2012 Express のインストールや認証レスキュー!用のデータベースの設定、IIS の設定を行い、認証 Web サービス、環境設定をインストールします。

稼働後は認証 Web サービスが常時動作し、インターネットを経由したお客様(エンドユーザ)PC上の貴社アプリケーションからの認証処理のリクエストに自動的に応答します。

また、同様にインターネット経由で、貴社の認証業務用社内 PC での認証管理システムからの認証状況の確認や新しいパッケージ製品の認証キーの作成などのリクエストも処理します。

## 2.認証業務用社内 PC に対するソリューション

社内 PC で使用する「認証管理システム」をインストールします。認証管理システムでは出荷前製品の認証キーの作成やプロダクト ID やシリアル No.のラベル印刷、お客様(エンドユーザ)がインターネット経由で認証登録した記録などを閲覧できます。

## 3.「アプリケーション開発用 PC」へのソリューション

アプリケーションに認証登録用 UI(ユーザインターフェース)の機能を付加するための認証 UI ライブラリ(DLL)とサンプルプログラムをインストールします。この認証 UI ライブラリ(DLL)を利用することで貴社のアプリケーションにライセンス認証(アクティベーション)機能を簡単に実装することができます。

この「認証レスキュー!」を導入することで驚くほど早く確実に、貴社パッケージアプリケーションにライセンス認証機能を実装でき、ライセンス不正利用による損害を防止できます!

## ●主な注目機能一覧

## ◆従来機能

- ・エンドユーザのプロキシサーバー環境に対応
- •PC クラッシュ時の認証解除機能
- ・オフライン時電話認証機能

## ◆拡張機能

- ・認証 UI ライブラリ(DLL)の提供
- •Web サービス用「環境設定」アプリの提供
- ・認証業務用「認証管理システム」アプリの提供
- ■マイクロソフト社クラウド Microsoft Azure 対応
- •代理認証機能
- レンタル機能
- •試用期間機能
- •有効期限機能
- ・プロダクト ID 桁数自由設定機能
- ・シリアル No.桁数自由設定機能
- ・MAC アドレス識別情報付加
- ·CPU 情報識別情報付加
- ・認証状況の Excel データ出力
- ・ログ表示の Excel データ出力
- ・認証状態オンライン確認機能
- ・認証状況およびログにエンドユーザ IP アドレスを記録

## ◆便利機能

- 各種データ閲覧時の検索条件設定機能
- ・認証キー自動ナンバリング機能
- ・認証キー一覧編集機能
- ・データベースのバックアップ(スケジュール化可)および、復元機能
- ・サンプルデータベース切替お試し機能
- ・DLL 用サンプルプロジェクトの提供

## ◆セキュリティ関連

- 環境設定でのログインダイアログ指定機能
- •DLL での貴社独自の暗号化情報設定機能
- (認証レスキュー!2を利用した他社とは別の暗号化)
- ・DLL はアセンブリ署名により偽装対策済み
- •DLL は逆コンパイル対策の難読化済み
- SQL Server の SQL インジェクション対策済み(Web サービス)
- •Web サービスのブラウザ表示隠ぺい化

## ●インストールされる内容

Web サーバー用 PC	<ul> <li>認証 Web サービス(Web アプリケーション)</li> <li>・Web 環境設定(Windows アプリケーション)</li> <li>・SQL Server 2012 Express + Management Studio</li> <li>・体験版ライセンス(10 登録ライセンス)</li> <li>※製品版の基本パックに付属する「500 登録ライセンス」はインストールとは別の形で提供されます。</li> </ul>	ユーザーズ ガイドなど
認証業務用 PC	・認証管理システム(Windows アプリケーション)	
アプリケーション 開発用 PC	・認証 UI ライブラリ(DLL)、同タイプライブラリ(TLB) ・サンプルプロジェクト(UI 系サンプル、API 系サンプル) Visual Basic 2010 用、C# 2010 用、Visual Basic 6.0 用、Visual C++ 2010 用	

## ●動作環境

## -「Web サーバー用 PC」へのインストールが対応している OS

日本語 Microsoft Windows Server 2022/2019/2016/2012 R2/2012/2008 R2/2008

日本語 Microsoft Windows 11(Home は除く)/10(Home は除く)/8.1(Pro 以上)/8(Pro 以上)/7(Home Basic は除く)/Vista(Home Basic は除く)各 x86、x64 対応

※上記 Windows OS 上の対応暦:グレゴリオ暦(西暦)のみ

## -「Web サーバー用 PC」へのインストールが対応している IIS

IIS 10.0/8.5/8.0/7.5/7.0

## -「認証業務用社内 PC」へのインストールによる「認証管理システム」が対応している OS

日本語 Microsoft Windows Server 2022/2019/2016/2012 R2/2012/2008 R2/ 2008

日本語 Microsoft Windows 11/10/8.1/8/7/Vista(x86, x64 対応)

日本語 Microsoft Windows Server 2003 R2/2003

日本語 Microsoft Windows XP(x86、x64 対応)

※上記 Windows OS 上の対応暦:グレゴリオ暦(西暦)のみ

## ・「アプリケーション開発用 PC」へのインストールによる「認証 UI ライブラリ(DLL)」が 対応している OS

Microsoft Windows Server 2022/2019/2016/2012 R2/2012/2008 R2/2008

Microsoft Windows 11/10/8.1/8/7/Vista(x86、x64 対応)

Microsoft Windows Server 2003 R2/2003 Microsoft Windows XP(x86、x64 対応)

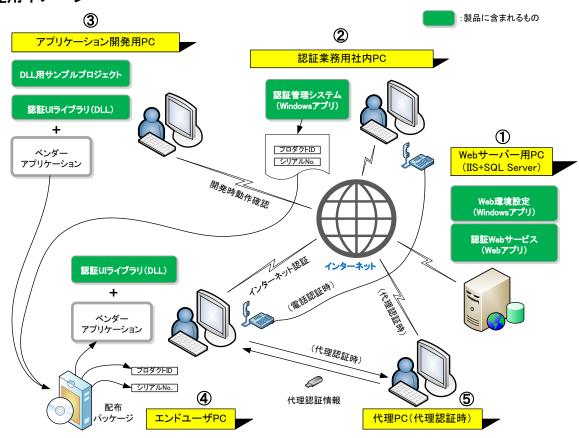
## [DLL による OS および暦対応表]

DLL	【UI 系、API 系 DLL】	【ASP.NET 系 DLL】
	Newtone.NR.dll	Newtone.NR.ASPNET.dll
Windows	日本語版および英語版推奨	日本語版のみ
対応 OS		
対応 OS 上	・ChineseLunisolarCalendar/中国の太陰太陽暦	•GregorianCalendar/グ
の対応暦	・GregorianCalendar/グレゴリオ暦(西暦)	レゴリオ暦(西暦)のみ
	・HebrewCalendar/ヘブライ暦	
	▪HijriCalendar/回教暦	
	▪JapaneseCalendar/和暦	
	•JapaneseLunisolarCalendar/日本の太陰太陽暦	
	・JulianCalendar/ユリウス暦	
	▪KoreanCalendar/韓国暦	
	・KoreanLunisolarCalendar/韓国の太陰太陽暦	
	•PersianCalendar/ペルシャ暦	
	▪TaiwanCalendar/台湾暦	
	•TaiwanLunisolarCalendar/台湾の太陰太陽暦	
	▪ThaiBuddhistCalendar/タイ仏暦	
	・UmAlQuraCalendar/ウムアルクラ暦	

## ・認証 UI ライブラリ(DLL)を利用するための開発環境(すべて日本語版のみ)

Visual Studio 2022/2019/2017/2015/2013/2012/2010/2008, Visual Studio 6.0

## ●運用イメージ



主な運用手順は次の通りです。具体的な手順は、後述します。(丸付き数字は上図の各 PC です。)

## 1.認証レスキュー! のインストールを行う

①Web サーバー用 PC、②認証業務用社内 PC、③アプリケーション開発用 PC にそれぞれインストールを行います。

## 2.インストールしたアプリケーションを使用して必要な各設定を行う

①Web サーバー用 PC と②認証業務用社内 PC で設定します。

## 3.インストールしたアプリケーションを使用して必要な各処理を行う

パッケージソフト出荷のための認証キー(プロダクト ID やシリアル No.など)を作成し、プロダクト ID とシリアル No.ラベル印刷を行います。②認証業務用社内 PC が対象です。

## 4.インストールした認証 UI ライブラリ(DLL)を利用し貴社アプリケーションに認証機能を実装する ③アプリケーション開発用 PC が対象です。

#### 5.貴社アプリケーションをお客様(エンドユーザ)へ配布する

④エンドユーザ PC が対象です。上記 4 で完成した貴社アプリケーションと上記 3 で発行したプロダクト ID とシリアル No.をお客様(エンドユーザ)へ配布します。

## 6.お客様(エンドユーザ)がライセンス認証を実行する

④エンドユーザ PC または⑤(エンドユーザの)代理 PC で、お客様(エンドユーザ)が貴社アプリケーションの認証 UI を使用してライセンス認証を行い、その内容が貴社 Web サーバーなどの認証レスキュー!用のデータベースに記録されます。

その内容は、②認証業務用社内 PC の「認証状況」処理などで確認できます。

## ●処理·設定一覧

認証レスキュー!では運用に必要な各処理の他に、ライセンス認証に関連する細かな設定が指定できます。

認証レスキュー!で利用できる処理や設定の一覧を示します。

## ◆Web サーバー用 PC

- ・Web サービスの設定
- 環境設定へのログイン設定
- データベースの指定

NR2 規定/NR2 サンプルデータ

/任意接続文字列(マイクロソフト社クラウド Microsoft Azure など)

- ・データテーブル新規作成処理
- ・データベース更新処理
- ·NR 登録ライセンスの管理
- ・データベースのバックアップ処理(スケジュール化可能)
- ・データベースの復元

## ◆認証業務用社内 PC 「認証管理システム」

- •Web サービスのアクセス設定
- ・プロキシサーバーの設定
- ・環境設定へのログイン設定
- ・認証キー作成(自動ナンバリング)処理
- ・認証キー作成(表形式)処理
- ・認証キー作成(個別)処理
- ・認証キー編集処理
- ・認証キー削除(表形式)処理
- ・認証キー削除(個別)処理
- ・ラベル印刷処理
- ・認証状況の表示/出力処理
- ・ログの表示処理

## ◆アプリケーション開発用 PC 「認証 UI ライブラリ(DLL)」の利用

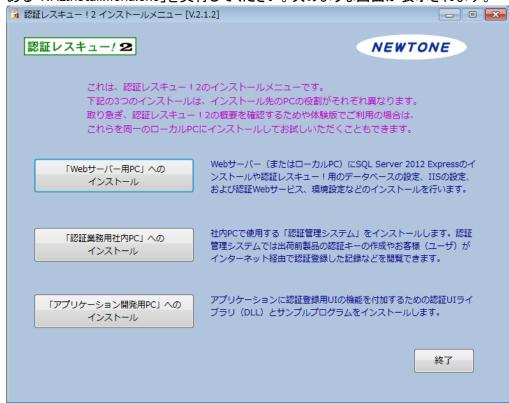
## <付属サンプルプロジェクト>

Visual Basic 2010 用(UI 系サンプル、API 系サンプル、ASP.NET 系サンプル) C# 2010 用(UI 系サンプル、API 系サンプル、ASP.NET 系サンプル) Visual Basic 6.0 用(UI 系サンプル、API 系サンプル) Visual C++ 2010 用(UI 系サンプル、API 系サンプル)

<プロパティ>および<メソッド>の各機能(UI 系、API 系、ASP.NET 系)

## ●インストール

(パッケージの場合は)ディスク内のルートまたは(ダウンロードなどの場合は)解凍したフォルダにある「NR2InstallMenu.exe」を実行してください。次のような画面が表示されます。



これは、認証レスキュー!のインストールメニューです。 3 つのインストールボタンがあり、インストール先の PC の役割がそれぞれ異なります。 取り急ぎ、認証レスキュー!の概要を確認するためや体験版でご利用の場合は、これらを同一のローカル PC にインストールしてお試しいただくこともできます。

## 1.「Web サーバー用 PC」へのインストール

Web サーバー(またはローカル PC)に SQL Server 2012 Express のインストールや認証レスキュー!用のデータベースの設定、IIS の設定、および認証 Web サービス、環境設定などのインストールを行います。

このインストールを選択するとさらに次の Web インストーラの画面が表示されます。



ここでは、「データベースのインストール」と「IIS 設定と Web サービスのインストール」を行います。

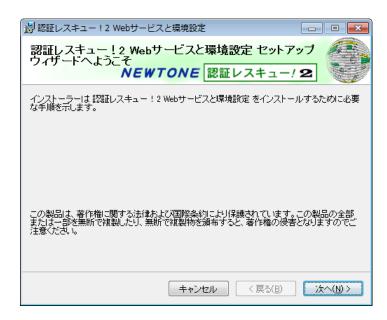
#### ・データベースのインストール

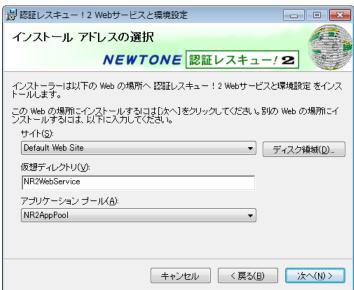
認証レスキュー!用のデータベース(SQL Server Express)のインストールを行います。日本語版か英語版を選択できます。英語の OS にインストールする場合は英語版を選択してください。また、認証レスキュー!用のインスタンスと(データを除く)データベースも作成します。既に同じバージョンの SQL Server Express がインストールされている場合は、認証レスキュー!に必要な設定だけを行います。

## ・IIS 設定とWeb サービスのインストール

認証 Web サービスのインストールを行います。Internet Information Services (IIS) がインストールされている必要がありますが、認証レスキュー! で必要な IIS の機能で不足している機能は自動的にインストールされます。以下で有効になっているボタンを選択するとインストールが始まります。選択できるボタンが無い場合は、現在の OS が対応外の可能性がありますのでご確認ください。

インストールを開始して IIS の設定が済むと確認画面の表示後、次のような「Web サービスと環境設定」のインストーラが起動されます。



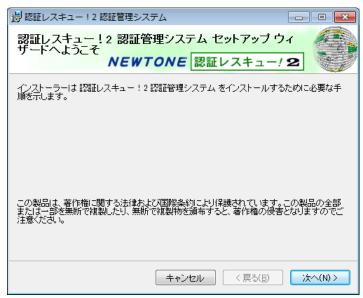


この画面では、サイト、仮想ディレクトリ、アプリケーションプールを指定しますが、通常はデフォルト(初期設定)のままで「次へ」ボタンを押します。以降は画面の指示に従ってください。

マイクロソフト社のクラウドサービス Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」に Web サービスを配置する場合は、一度この「IIS 設定と Web サービスのインストール」をローカル PC にインストールします。その後、ローカル PC の Web サービスのフォルダ内のすべてのファイルと Web サービス環境設定データ(WebServEnv.wai)ファイル(後述)を FTP などを使用して Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」に手動でコピーする必要があります。詳しくは、後述の「Microsoft Azure で利用する方法」をご覧ください。

## 2.「認証業務用社内 PC」へのインストール

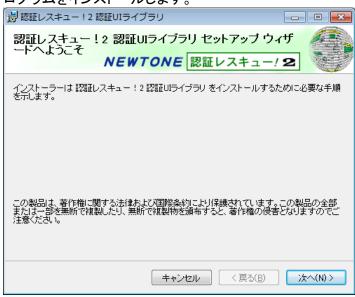
社内 PC で使用する「認証管理システム」をインストールします。認証管理システムでは出荷前製品の認証キーの作成やお客様(エンドユーザ)がインターネット経由で認証登録した記録などを閲覧できます。



インストールするには画面の指示に従ってください。

## 3.「アプリケーション開発用 PC」へのインストール

アプリケーションに認証登録用 UI の機能を付加するための認証 UI ライブラリ(DLL)とサンプルプログラムをインストールします。



インストールするには画面の指示に従ってください。

## 4.インストールの終了後

すべてのセットアップが終了すると、デスクトップに「認証レスキュー! Web 環境設定」へのショートカット、「認証レスキュー! 認証管理システム」へのショートカット、「認証レスキュー! 認証 UI ライブラリ」フォルダへのショートカット用アイコンがそれぞれ次のように作成されます。



また、プログラムメニューには次のように「認証レスキュー!」が登録されます。



アンインストールは、「プログラムと機能」または「プログラムの追加と削除」から行います。



SQL Server Express 2012 をアンインストールする場合は、「プログラムと機能」または「プログラムの追加と削除」で次の項目をアンインストールします。PC の環境によっては、項目が異なる場合があります。



## 5.製品別の制限事項

インストールした製品による制限事項は次表の通りです。

インストーラ	認証 UI ライブラリ(DLL)の制限	
1221-7	UI 系機能	API 系機能
体験版	体験版ダイアログ表示	体験版ダイアログ表示
基本パック	製品版	体験版ダイアログ表示
基本パック +API	製品版	製品版

## ●初期設定(Web サーバー用 PC と認証業務用社内 PC)

インストールが終了したら、認証レスキュー!を利用する前の各種設定が必要です。

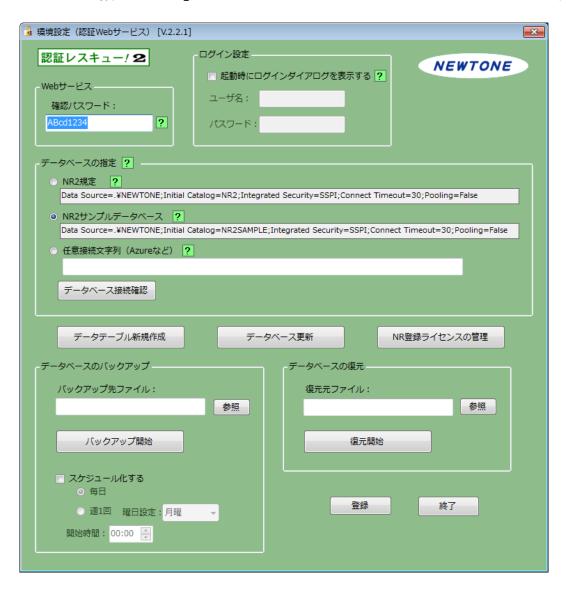
## 1.Web サーバー用 PC の「環境設定」処理

デスクトップ上の「認証レスキュー! Web 環境設定」へのショートカットを起動すると次の画面が表示されます。

この実行ファイルは、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合〉 C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2\Web\WebAdmin.exe、

<64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2\NR2\Web\WebAdmin.exe です。



ここでは、設定が必須で省略できない項目についてだけ説明します。

## •Web サービス/確認パスワード

Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。

ここでは、Web サーバー側設定アプリケーション「認証 Web サービス」の環境設定処理の Web サービスの確認パスワードと同じものを設定します。確認パスワードは必須項目です、省略はできません。

8 文字以上で半角の次の文字が使用できます。

大文字の英字(A~Z)

- ·小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=¥@<>?)

#### データベースの指定

認証レスキュー!で使用するデータベースを指定します。選択肢は3種類です。

#### NR2 規定

認証レスキュー!での規定のデータベースです。 実際の運用には通常、この「NR2 規定」を選択します。

マイクロソフト社のクラウドサービス Microsoft Azure の仮想マシン(Windows Server 2019 など) を利用する場合は、この「NR2 規定」を指定します。

認証レスキュー!では、Web サーバー用 PC へのインストール時に SQL Server 2012 Express のインストールを選択できます。SQL Server 2012 Express をインストールして認証レスキュー! のインスタンス (Newtone)を作成し、NR2 規定のデータベース (NR2)を作成します。この段階では、データベース (NR2)にテーブルはまだありません。

後述の「テーブルデータ新規作成」を実行することで空のテーブルが作成されます。

## NR2 サンプルデータベース

認証レスキュー!のサンプル用のデータベースです。簡単なサンプルデータが各テーブルに既に格納されたデータベースです。取り急ぎ認証レスキュー!全体を把握したい場合などに選択します。

後述の「テーブルデータ新規作成」を実行することでテーブルが作成され、サンプルデータが格納されます。

## 任意接続文字列(Azure など)

Web サーバー用 PC とは異なる(データベース)サーバーなどに SQL Server が用意され、そこに 認証レスキュー!用のデータベースを置く場合やマイクロソフト社のクラウドサービス Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」に Web サービスを配置し、同「SQL データベース」に認証レスキュー!のデータベースを配置する場合に選択します。

Microsoft Azure で利用する場合やWeb サーバー用PCとは異なる(データベース)サーバーで利用する場合の利用方法は後述の説明ページをご覧ください。

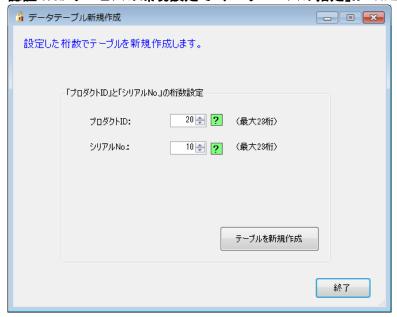
また、Web サーバー用 PC の SQL Server を利用するが、たとえばインスタンス名をデフォルトの「Newtone」から別のものに変更する場合などにもこの「任意接続文字列」を利用できます。この任意接続文字列の使用時は、テキストボックスに正しい接続文字列を入力する必要があります。

上記の設定をしたら「データベース接続確認」ボタンを押して、データベースに接続できることを確認してください。

## ■データテーブル新規作成

次に、データベースのテーブルの新規作成をします。環境設定で「データテーブル新規作成」ボタンを押します。

## 認証 Web サービスの環境設定で「データベースの指定」が「NR2 規定」の場合



「テーブルを新規作成」ボタンを押すとデータベース内に**データの無いテーブル**が作成されます。 実際のプロダクト ID やシリアル No.を含むキーデータは、「認証管理システム」のメニューの「認証キー作成」(自動ナンバリング)処理などで作成します。

以下にプロダクト ID やシリアル No.を簡単に説明しています。

#### ・プロダクト ID

プロダクト ID は、製品を表わす任意の文字列です。桁数は運用開始時に設定し、以降は変更できません。

桁数の初期値は 17 桁です。最大 23 桁です。

なお、データベースの選択で「NR2 サンプルデータベース」をお試しいただく場合の桁数は 17 桁 固定となり設定できません。

このプロダクト ID には、製品分類やバージョン、ライセンス数などを識別できる桁取りがあると管理しやすくなります。

たとえば、0000A-00002-00001 で製品 A のバージョン 2 の 1 ライセンスを、0000A-00002-00004 で製品 A のバージョン 2 の 4 ライセンスを、それぞれ示すように設定します。

プロダクトID は、半角の次の文字が使用できます。

- 大文字の英字(A~Z)
- ·小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=\(\ell \)<>?)

このプロダクト ID と「シリアル No.」で出荷時の一意の製品を示すキーとなります。

#### ・シリアル No.

シリアル No.は、同一製品の識別連番を表わす文字列です。桁数は運用開始時に設定し、以降は変更できません。桁数の初期値は8桁です。最大23桁です。

なお、データベースの選択で「NR2 サンプルデータベース」をお試しいただく場合の桁数は 8 桁固定となり設定できません。

「認証キー作成」(自動ナンバリング)処理では、任意の上位桁数の文字列を指定することができます。

たとえば、8 桁中、上位 3 桁を"ABC"と指定した場合は次のような

シリアル番号の自動作成が可能です。

ABC00001

ABC00002

ABC00003

ABC00004

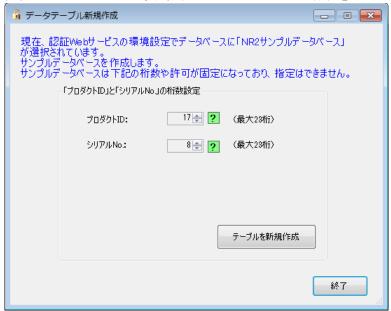
. . . . .

シリアル No. は、半角の次の文字が使用できます。

- ·大文字の英字(A~Z)
- ・小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=¥@<>?)

「プロダクト ID」とこのシリアル No.で出荷時の一意の製品を示す キーとなります。

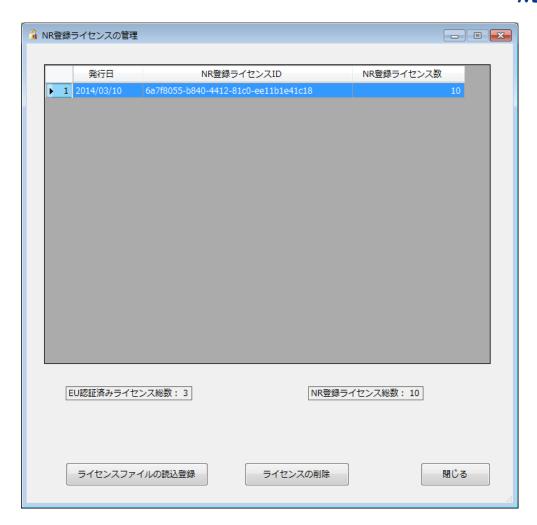
## 認証 Web サービスの環境設定で「データベースの指定」が「NR2 サンプルデータベース」の場合



「テーブルを新規作成」ボタンを押すとデータベース内に**サンプルデータが入ったテーブル**が作成されます。

## ■NR 登録ライセンスの管理

環境設定の「NR登録ライセンスの管理」ボタンを押すと次のような画面が表示されます。



この「ライセンスの管理」処理では、お客様(エンドユーザ、以降 EU)が認証登録してきたライセンス総数の確認と弊社(ニュートン)から入手いただいた NR(認証レスキュー!)登録ライセンス数を管理できます。

「EU 認証済みライセンス総数」に EU が認証登録してきたライセンスの総数が、「NR 登録ライセンス総数」に現在登録されている貴社分の NR 登録ライセンスの総数がそれぞれ表示されます。

「ライセンスファイルの読込登録」ボタンで入手した NR 登録ライセンスを登録します。「ライセンスの削除」ボタンで登録してあった NR 登録ライセンスを削除します。

貴社のパッケージソフトを EU に配布して EU がライセンス登録をした場合、貴社 Web サーバーなどの認証レスキュー!用データベースの認証データテーブルにその登録ライセンスがレコード数として記録されます。

認証レスキュー!の運用では、その「EU 登録済みライセンス」の総数以上の NR 登録ライセンス を貴社にご用意いただく必要があります。

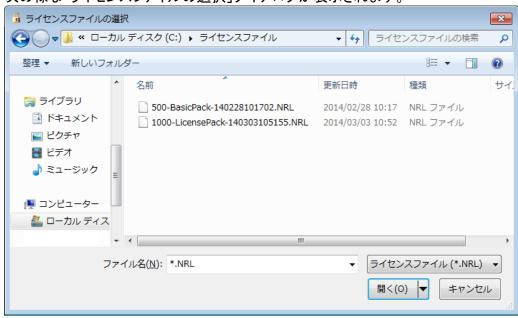
以下に NR 登録ライセンスの一覧表を示します。

## 〈NR 登録ライセンス一覧〉

種類	提供形態	想定 EU 登録済み ライセンス総数
体験版ライセンス(10 登録ライ センス)	体験版に付属	10 ライセンス分
基本パック(500 登録ライセン ス付属)	製品に付属	500 ライセンス分
1,000 登録ライセンスパック	オプション(別売)	1,000 ライセンス分
5,000 登録ライセンスパック	オプション(別売)	5,000 ライセンス分
10,000 登録ライセンスパック	オプション(別売)	10,000 ライセンス分
50,000 登録ライセンスパック	オプション(別売)	50,000 ライセンス分
100,000 登録ライセンスパック	オプション(別売)	100,000 ライセンス分
無制限登録ライセンスパック	オプション(別売)	制限なし

それではここで実際に、「ライセンスファイルの読込登録」ボタンを押して、NR 登録ライセンスを登録します。

次の様な「ライセンスファイルの選択」ダイアログが表示されます。



ここで、貴社が入手した NR 登録ライセンスファイルを指定します。

また、体験版や基本パックの場合は、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2\NR2\Web

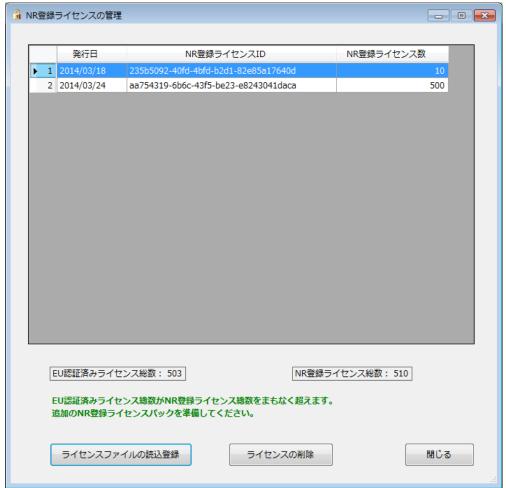
〈64bitOS の場合〉C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2\NR2\Web

このダイアログで「開く」ボタンを押すと指定した NR 登録ライセンスファイルが読み込まれ、「NR 登録ライセンスの管理」画面に反映されます。

## ■NR 登録ライセンスの警告

この「ライセンスの管理」処理で、NR 登録ライセンスに関する警告が表示される場合があります。

[1] NR 登録ライセンス総数が EU 登録済みライセンス総数の 90%を超えた場合に次のような画面のメッセージが表示されます。



この場合、各 PC での処理の動作は次のようになります。

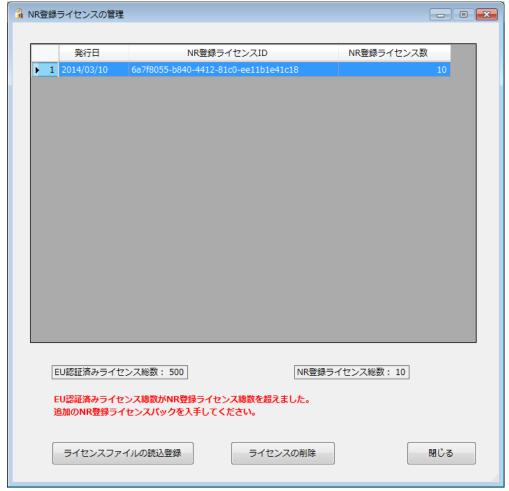
## ・認証業務用社内 PC での「認証管理システム」

認証レスキュー!用のデータベースのデータアクセス箇所では次のメッセージを表示し処理は 続行します。

"EU 認証済みライセンス総数が NR 登録ライセンス総数をまもなく超えます。 追加の NR 登録ライセンスパックを準備をしてください。"

・認証 UI ライブラリ(DLL)を使用する貴社アプリケーションが動作する EU の PC

認証レスキュー!用のデータベースのデータアクセス箇所ではメッセージを表示せず、処理は 続行されます。 [2] NR 登録ライセンス総数が EU 登録済みライセンス総数を超えた場合は次のような画面のメッセージが表示されます。



この場合、各 PC での処理の動作は次のようになります。

## ・認証業務用社内 PC での「認証管理システム」

認証レスキュー!用のデータベースのデータアクセス箇所では次のメッセージを表示し処理を中断します。

"EU 認証済みライセンス総数が NR 登録ライセンス総数を超えました。追加の NR 登録ライセンスパックを入手してください"

認証 UI ライブラリ(DLL)を使用する貴社アプリケーションが動作する EU の PC認証レスキュー!用のデータベースのデータアクセス箇所では次のメッセージを表示し処理を

"NR 登録ライセンスに問題があります。アプリケーションベンダにご連絡ください。"

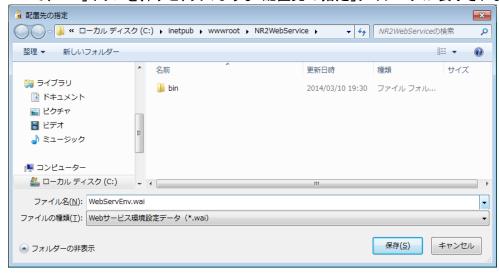
## ■「登録」ボタン

中断します。

環境設定が終了したら「登録」ボタンを押します。次のようなメッセージが表示されます。



ここで、「OK」ボタンを押すと、次のような「配置先の指定」ダイアログが表示されます。



環境設定で入力した情報の内、Web サービスの動作に必要な情報をWeb サービス環境設定データ(WebServEnv.wai)ファイルとして、この「配置先の指定」ダイアログで IIS の認証レスキュー!用のWeb サービスが配置してあるフォルダにも出力します。通常は、自動的に(例: C:¥inetpub¥www root¥NR2WebService などの)適切な出力先が表示されますので、確認してそのまま「保存」ボタンを押します。

マイクロソフト社のクラウドサービス Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」に Web サービスを配置する場合は、この Web サービス環境設定データ(WebServEnv.wai)ファイルも Web サービスと同じフォルダにコピーする必要があります。この後の「NR 登録ライセンスの管理」でライセンスを登録した場合も Web サービス環境設定データ(WebServEnv.wai)ファイルが更新されますが、更新されるたびに Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」に上書き配置(コピー)する必要があります。

Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」への配置については詳しくは、後述の「Web サービスとデータベースを Microsoft Azure で利用する方法」をご覧ください。

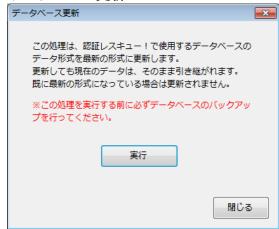
なお、環境設定で入力した情報で Web サービスの動作と関係しない情報は、Web サービス環境設定データ(WebServEnv.wai)ファイルではなく、この「環境設定」を実行している PC のレジストリに記録されます。

「保存」ボタン押下後、登録に成功すると次のメッセージが表示されます。



以下は必要に応じて行う処理を説明します。

## ■データベース更新



この処理は、認証レスキュー!で使用するデータベースのデータ形式を最新の形式に更新します。更新しても現在のデータは、そのまま引き継がれます。既に最新の形式になっている場合は更新されません。

## ■データベースのバックアップ



この処理は、認証レスキュー!で使用するデータベースをバックアップします。 「バックアップ先ファイル」を指定して「バックアップ開始」ボタンを押すとすぐにバックアップが実行されます。定期的なバックアップを設定するには、「スケジュール化する」をチェックしてバックアップする間隔を指定します。

## ■データベースの復元



この処理は、バックアップしてあるデータベースを復元します。 「復元元ファイル」を指定して「復元開始」ボタンを押すとすぐに復元がが実行されます。

## 2.認証業務用社内 PC の「認証管理システム」

デスクトップ上の「認証レスキュー! 認証管理システム」へのショートカットを起動すると次の画面が表示されます。

この実行ファイルは、インストール先がデフォルトなら、

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2\InsideSystem\InsideSystem.exe、

<64bitOS の場合〉 C:\Program Files (x86)\Pownone\NR2\NR2\InsideSystem\InsideSystem.exe です。



「認証管理システム」のメニューが表示されますが、最初に行うのは「環境設定」処理です。初期状態では他の処理は選択できません。

## ■環境設定

「環境設定」ボタンを押すと次のような画面が表示されます。



ここでは、設定が必須で省略できない項目についてだけ説明します。

#### •Web サービス/URL

認証に関するシステムを Web サービスとして提供する Web サーバーの URL を指定します。 以下にいつくか例を示します。

★自 PC のローカルホストの Web サーバー(IIS)にアクセスする場合:

http://localhost/Nr2WebService/Service.asmx

★自社 Web サーバー(IIS)にアクセスする場合:

例えば、URL は

http://www.newtone.co.jp/Nr2WebService/Service.asmx といったものになります。

この、「www.newtone.co.jp」部分が貴社の Web サイトになります。

★クラウドサービス Microsoft Azure の仮想マシンを利用する場合:

例えば、URL は

http://newtone-nr-2019-1.westus2.cloudapp.azure.com/Nr2WebService/Service.asmx といったものになります。

この、「newtone-nr-2019-1.westus2.cloudapp.azure.com」部分が、貴社の Azure ポータルの「仮想マシン」の「基本」の「DNS 名」に表示されているものとなります。

★クラウドサービス Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)に配置した Web サービスを利用する場合:

例えば、URL は

http://Newtonejp.azurewebsites.net/Service.asmx

といったものになります。

この、「http://Newtonejp.azurewebsites.net」部分が、貴社の Azure ポータルの「Web アプリ」の「基本」の「URL」に表示されているものとなります。

## ・Web サービス/確認パスワード

Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。ここでは、Web サーバー側設定アプリケーション「認証 Web サービス」の環境設定処理の Web サービスの確認パスワードと同じものを設定します。

確認パスワードは必須項目です、省略はできません。

- 8 文字以上で半角の次の文字が使用できます。
- 大文字の英字(A~Z)
- ・小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=¥@<>?)

上記の設定をしたら「Web サービス接続確認」ボタンを押して、Web サービスに接続できることを確認してください。

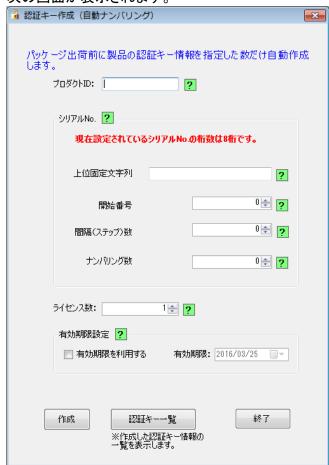
「登録」ボタンを押して設定を保存します。設定内容はこの「環境設定」を実行しているPCのレジストリに保存されます。

## ■認証キー作成(自動ナンバリング)

次に、認証キーを作成します。3 種類の作成方法がありますが、ここでは自動ナンバリングで作成します。

「認証管理システム」のメニューで「認証キー作成(自動ナンバリング)」ボタンを押します。

## 次の画面が表示されます。



「作成」ボタンを押すと認証キーが作成されます。

「認証キー一覧」ボタンを押すと作成した認証キーの一覧が次のように表示されます。 3 認証キ−−覧 パッケージ出荷前に作成した認証キー情報を表示します。 日付: □ 指定する 2016/03/28 □▼ ~ 2016/03/28 □▼ ? (未入力:指定なし) プロダクトID: ? (未入力:指定なし) シリアルNo: 先頭指定文字列: 検索実行 有効期限利用 有効期限 プロダクトID シリアルNo. ライセンス数 プラス許可数 日時 2014/02/24 15:8 2 00001-00001-00001 A0000002 2016/05/31 2014/02/24 15:38:00 3 00001-00001-00001 A0000003 0 2016/05/31 2014/02/24 15:38:00 4 00001-00001-00001 A0000004 1 0 2016/05/31 2014/02/24 15:39:00 5 00001-00001-00001 A0000005 1 0 2016/05/31 2014/02/24 15:39:00 6 12345-12345-12345 1234ABCD 5 0 2018/03/31 2014/03/25 18:17:00

以下に各項目を説明します。

## •上位固定文字列

上位固定文字列は、シリアル No.において任意の上位桁数の文字列を指定する場合に指定します。

たとえば、8 桁中、上位 3 桁を"ABC"と指定した場合は次のようなシリアル番号の自動作成が可能です。

ABC00001

ABC00002

ABC00003

ABC00004

• • • • •

## -開始番号

開始番号は、シリアル No.において連番を自動付番する場合の最初の数を指定します。「間隔(ステップ)数」や「ナンバリング数」とともにシリアル No.の自動付番時の必須項目です。

たとえば、8 桁中、上位 3 桁を"ABC"と指定し、開始番号を 1、間隔(ステップ)数を 2、ナンバリング数を 5 とそれぞれ指定した場合、次のようなシリアル番号が自動作成されます。

ABC00001

ABC00003

ABC00005

ABC00007

ABC00009

終了

## -間隔(ステップ)数

間隔(ステップ)数は、シリアル No.において連番を自動付番する場合の付番間隔を数で指定します。「開始番号」や「ナンバリング数」とともにシリアル No.の自動付番時の必須項目です。

たとえば、8 桁中、上位 3 桁を"ABC"と指定し、開始番号を 1、間隔(ステップ)数を 2、ナンバリング数を 5 とそれぞれ指定した場合、次のようなシリアル番号が自動作成されます。

ABC00001

ABC00003

ABC00005

ABC00007

ABC00009

## ・ナンバリング数

ナンバリング数は、シリアル No.において自動付番で作成する(シリアル No.の)数を指定します。 「開始番号」や「間隔(ステップ)数」とともにシリアル No.の自動付番時の必須項目です。

たとえば、8 桁中、上位 3 桁を"ABC"と指定し、開始番号を 1、間隔(ステップ)数を 2、ナンバリング数を 5 とそれぞれ指定した場合、次のようなシリアル番号が自動作成されます。

ABC00001

ABC00003

ABC00005

ABC00007

ABC00009

#### ・ライセンス数

ライセンス数は、製品のライセンス数を指定します。

たとえば、1 ライセンスなら 1、5 ライセンスなら 5 と指定します。「認証キー作成」(自動ナンバリング)処理でライセンス数を指定する場合、1 度に作成する自動付番内に異なるライセンスを指定することはできません。

ライセンス数は、「プロダクト ID」や「シリアル No.」などとともに認証キーテーブルの項目のひとつです。

## •有効期限設定

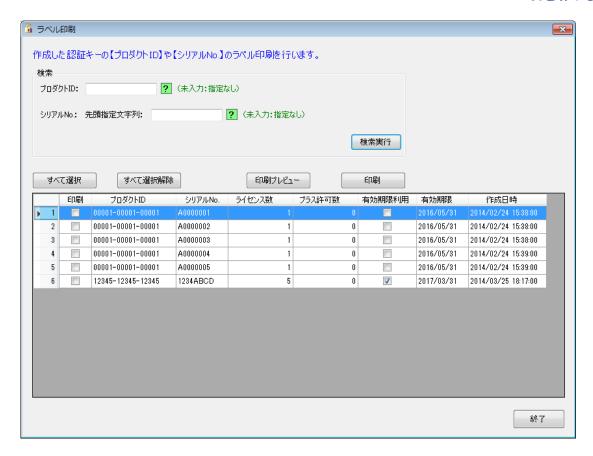
製品の認証登録後、無期限で使用できるライセンスではなく、特定の有効期限まで使用可能とするライセンス形態にする場合はこの設定を行います。

有効期限後も継続して使用可能とする場合の有効期限の再設定は、認証管理システムの「認証 キー編集(表形式)」処理を利用します

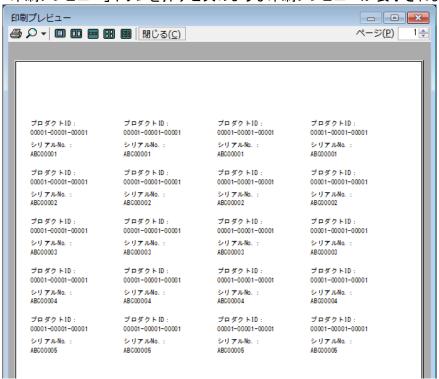
#### ■ラベル印刷

次に、お客様(エンドユーザ)にアプリケーションを配布するために、前工程で作成した認証キーから プロダクト ID とシリアル No.のラベルシールを印刷します。

「認証管理システム」のメニューで「ラベル印刷」ボタンを押します。



ここでは、必要に応じて検索条件を入力して「検索実行」ボタンを押します。 表示された認証キーの一覧に対して印刷する対象にチェックをつけます。 「印刷プレビュー」ボタンを押すと次のような印刷プレビューが表示されます。



ラベルシールは、このようにプロダクト ID とシリアル No. が横にそれぞれ 4 枚ずつ印刷されます。 その 1 行分にはすべて同じ内容が印刷されます。

奇数行目のプロダクト ID と次の行の偶数行目のシリアル No.で対となります。

同じラベルシールが 4 枚あるのは、それぞれの利用目的があるからです。たとえば、次のような用途です。

- 1 枚目:パッケージ内の CD(DVD)ジャケット(ケース)添付(貼付)用
- 2 枚目:パッケージ内のユーザ登録用紙添付用
- 3 枚目:出荷指示書添付用
- 4 枚目:注文書控え添付用

## ・用紙の仕様

このラベルシールの印刷用紙は、一般的な市販のラベルシール用紙を想定しています。 具体的には、次の仕様です。

用紙サイズ:A4

ラベル数:横4×縦9=36 面 ラベルサイズ:45.7×25.4mm

余白:上 31.8mm/左 10.2mm/右 9.5mm/下 36.6mm メーカ例:ヒサゴ「A4 タックシール」GB871 など

## ●Microsoft Azure で「認証レスキュー!」を利用する方法

ここでは、「認証レスキュー!」をマイクロソフト社のクラウドサービス Microsoft Azure で利用する方法について説明します。

「認証レスキュー!」を Microsoft Azure で利用するには、次の 2 種類の利用方法があります。 Microsoft Azure の仮想マシンを利用する方法と Microsoft Azure の Web アプリと SQL データベースを利用する方法です。

前者の仮想マシンを利用する場合は、自社サーバーへのインストールとほぼ同様の手順で「認証レスキュー!」の利用開始ができます。

後者の Web アプリと SQL データベースを利用する場合は、前者に比べ稼働前の手順が少し複雑です。

Microsoft Azure での運用コストは、両者とも各環境のスペックの選択やオプションによりますが、例えば、最安価の選択をした場合は下表の通りほぼ同様と思われます。

## Microsoft Azure 運用コストの最安価の例:月額

利用方法	リソース		計
仮想マシンを利用	仮想マシン		
	レベル:Basic		\$13.19
	インスタンス:A0		
		\$13.19	
Web アプリと SQL デー	App Service	Azure SQL Database	
タベースを利用	レベル:共有	サービスレベル : Basic	\$14.39
	インスタンス:D1	購入モデル:DTU	
	\$9.49	\$4.90	

マイクロソフト社 Azure 料金計算ツールサイトより(2022 年 2 月時点)

## ■Microsoft Azure の仮想マシンを利用する

まず、貴社がマイクロソフト社に申込み、Microsoft Azure の「仮想マシン」機能が使用できる状態が必要です。Microsoft Azure の申込みなどにつきましては、マイクロソフト社の情報をご覧ください。

ここでは、貴社がすでに Microsoft Azure の「仮想マシン」を使用できる状態を前提としています。

## 1.仮想マシンの作成(参考)

Microsoft Azure ポータルサイト



<b>≡</b> Microsoft Azure	Ø リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)	
ホーム > リソースの作成 > 仮想マシンの作成		
Linux または Windows を実行す 自のカスタマイズされたイメージを使	ク 管理 詳細 タグ 確認および作成 する仮想マシンを作成します。Azure Marketplace からイン 使用します。 [基本] タブに続いて (確認と作成) を完了させ るか、それぞれのタブを確認してフル カスタマイズを行います	とて既定のパラメーター
プロジェクトの詳細 デプロイされているリソースとコストを 用して、すべてのリソースを整理し、	を管理するサブスクリプションを選択します。フォルダーのよう 管理します。	なリソース グループをぐ
サブスクリブション * ① 	(新規) リソース グループ 新規作成	×
<b>インスタンスの詳細</b> 仮想マシソ名 * ①		
地域 * ① 可用性オプション ①	(US) West US 2  インフラストラクチャ冗長は必要ありませ	h
確認および作成	< 前へ 次: ディスク >	

## 2.作成した仮想マシン(例)



## 3.仮想マシンの開始(例)

## 仮想マシンを開始します。



## 4.仮想マシンの接続(例)

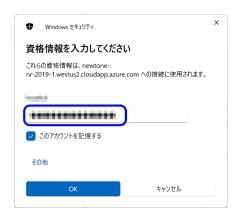
仮想マシンに接続をします。 ここでは、RDP(リモート デスクトップ)を選択します。



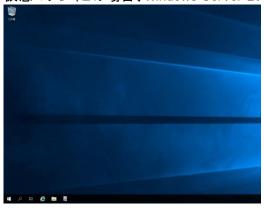


VNWinServer2019....rdp





仮想マシン(この場合、Windows Server 2019)のデスクトップが表示されます。



## 5.仮想マシンへの認証レスキュー!のインストール

入手した認証レスキュー!がパッケージの場合は、ディスク内の全フォルダの全ファイル、ダウンロードなどの場合は解凍したフォルダにある全フォルダの全ファイルを、仮想マシンの任意のフォルダにコピーしてください。全体で 2GB 以上ありますので通信環境によっては時間がかかる場合があります。

次に、コピーしたルートフォルダにある「NR2InstallMenu.exe」を実行してください 通常通り、認証レスキュー!のインストーラで「Web サーバー用 PC」へのインストールを行います。 以降の手順は、本操作ガイドの<u>「インストール」の「Web サーバー用 PC へのインストール」</u>と同様で すので、リンク先をご覧ください。

「Web サーバー用 PC へのインストール」が完了するとデスクトップに「認証レスキュー!2 Web 環境設定」のショートカットが表示されます。



これで、Microsoft Azure の仮想マシンへのインストールは終了です。

## ■Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)と SQL データベースを利用する

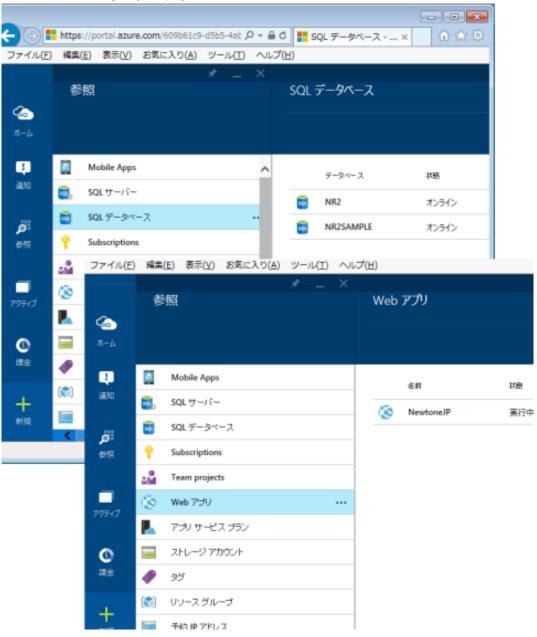
まず、貴社がマイクロソフト社に申込み、Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」機能と「SQL データベース」機能が使用できる状態が必要です。

Microsoft Azure の申込みなどにつきましては、マイクロソフト社の情報をご覧ください。

ここでは、貴社がすでに Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」機能と「SQL データベース」機能を使用できる状態を前提としています。

下図は、Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」機能と「SQL データベース」機能を使用している場合の Web 上の管理サイト画面の一例です。

## Microsoft Azure ポータルサイト



## Microsoft Azure ポータルサイト(旧)



以下の手順を行います。

## 1.認証レスキュー!の「Web サーバー用 PC」へのインストールを行う

仮のサーバーPC、またはローカル PC に、前述の「Web サーバー用 PC」へのインストールを行います。

2.認証レスキュー!用のデータベースを Microsoft Azure の「SQL データベース」に配置する

認証レスキュー!用のデータベースは前述の「Web サーバー用 PC」へのインストールで「データベースのインストール」を行うと(まだテーブルデータの無い)データベースが作成されます。「データベースのインストール」では SQL Server 2012 Express + Management Studio がインストールされます。Microsoft Azure の「SQL データベース」への認証レスキュー!用のデータベースの配置には、この Management Studio を利用すると簡単です。

以下にその手順を示します。

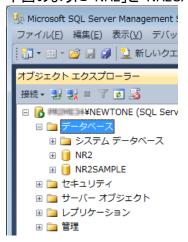
スタートメニューから Microsoft SQL Server 2012→SQL Server Mnagement Studio を選択します。



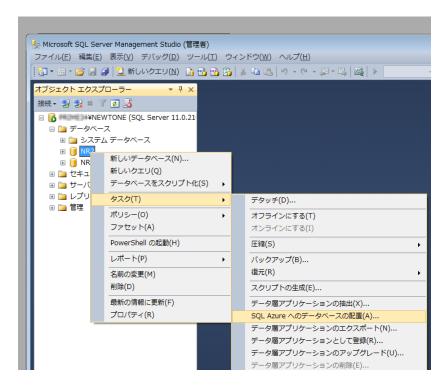
「サーバーへの接続」ダイアログで NEWTONE インスタンスを選択して、接続ボタンを押します。



下図のように「NR2」と「NR2SAMPLE」という2つのデータベースがあります。



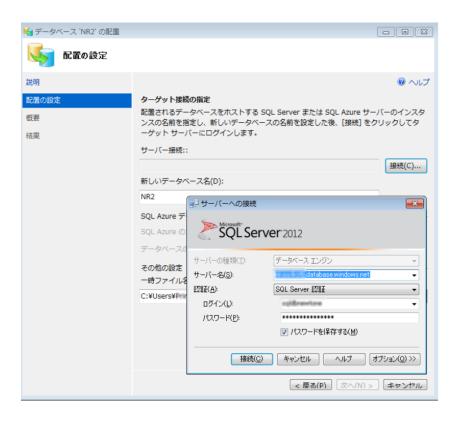
たとえば、データベース「NR2」を Microsoft Azure に配置(コピー)する場合は、オブジェクトエクス プローラーの「NR2」上で右クリックしてコンテキストメニュー内の「タスク」→「SQL Azure へのデー タベースの配置」を選択します。



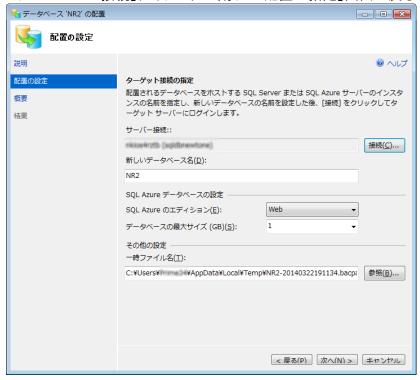
下図のようにデータベースの配置ウィザードが表示されます。 この画面の説明にあるように Microsoft Azure の SQL データベースのアカウント情報を準備します。「次へ」を選択します。



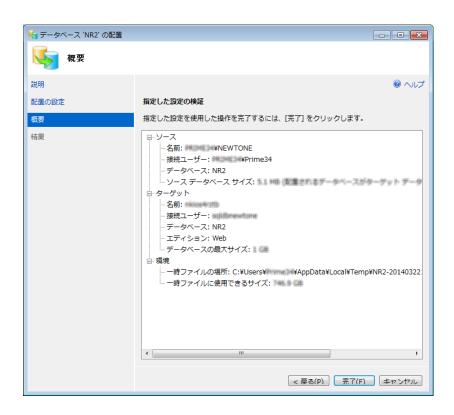
下図で、サーバー接続の「接続」ボタンを押して、「サーバーへの接続」ダイアログが表示されるので、サーバー名や認証(方法)、ログイン(名)、パスワードを Microsoft Azure の SQL データベースのアカウント情報から入力して、接続ボタンを押します。



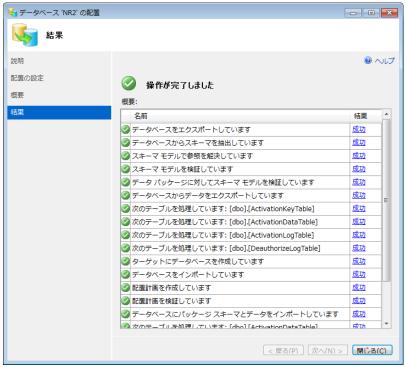
「サーバーへの接続」ダイアログが閉じて「配置の指定」画面に戻るので「次へ」を選択します。



次に表示される「概要」画面で「完了」ボタンを押します。



配置(コピー)中は「進行状況」が表示されたあと、次のような「結果」画面が表示されます。



「閉じる」ボタンを押して、認証レスキュー!用のデータベース「NR2」の Microsoft Azure の「SQL データベース」への配置(コピー)は終了です。

#### 3.認証レスキュー!の Web サーバー用 PC の「環境設定」処理を完了する

認証レスキュー!の Web サーバー用 PC の「環境設定」のデータベースの指定で「任意接続文字列(Azure など)」を選択して、下のテキストボックスに Azure の「SQL データベース」への接続文字列を入力します。



この接続文字列の確認方法は次の通りです。

Microsoft Azure の SQL データベースの管理ページで、「接続文字列の表示」リンクを押すといく つかの接続文字列が表示されます。その中で、「ADO.NET」用の接続文字列を使用します。その 接続文字列の({ここにパスワードを挿入}となっている)パスワード部分を Microsoft Azure の SQL データベースで設定した実際のパスワードに変えます。

<Microsoft Azure の SQL データベースの接続文字列の表示例>

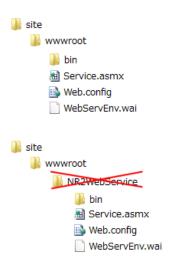


設定したら必ず「データベース接続確認」ボタンで接続を確認してください。

## 4.Microsoft Azure の「Web アプリ 」に認証レスキュー!の Web サービスを配置する

仮のサーバーPC、またはローカル PC に前述の「Web サーバー用 PC」へのインストールを行います。その結果、その PC の IIS のサイトに「NR2WebService」仮想サイトがインストールされます。 エクスプローラでそのサイトの実態フォルダ (例: C:\(\frac{2}{2}\) Energy Ener

この際、Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」の仕様で、Web サービスページ (Service.asmx)は必ず Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」のルート(例: xxxxxxx/site/wwwroot/)である必要があります。 wwwroot の下に作ったフォルダに配置してはいけません。 たとえば次の場合です。



上図では、上が正しい配置です。下の配置例は URL をそのように指定しても Web サービス実行時に Microsoft Azure からエラーが返りますので注意してください。

Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」側の FTP ホスト名は、たとえば ftp://xxxx-xxxx-xxxx-001.ftp.azurewebsites.windows.net/site/wwwroot/ などと表します。これは、Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)の管理ページで確認できます。

この配置するファイルの中には、認証レスキュー!の Web サービス環境設定データ (WebServEnv.wai)が含まれます。

このファイルは、「Web サーバー用 PC」へのインストール直後には存在しません。 前述の Web サーバー用 PC の「環境設定」処理を完了すると上記の IIS のフォルダ(例:

C:\footnote{Unitarity C:\footnote{Unitarit

このため、上記3の「Webサーバー用PCの「環境設定」処理を完了する」のステップは省略できませんので、ご注意ください。

# 5. Microsoft Azure 上で認証レスキュー! を運用している場合の Web アプリと SQL データベースのバージョンアップの方法

Microsoft Azure 上でに認証レスキュー!2 のWebサービスとデータベースを既に運用されている場合の更新方法は次の通りです。

## 【手順 1】(「Web サーバー用 PC」のインストール)

[1] 仮のサーバーPC、またはローカル PC に認証レスキュー!2 の新しいバージョンの「Web サーバー用 PC」のインストールを行います。

新しいバージョンをインストールした PC の IIS のサイトに「NR2WebService」 仮想サイトがインストールされます。

## 【手順 2】(Web サービスの更新)

[1] エクスプローラで上記の IIS のサイトの実態フォルダ

(例: C:¥inetpub¥wwwroot¥NR2WebService など)内のすべてのファイルとフォルダとを FTP などを 利用して Microsoft Azure の「Web アプリ (旧 Web サイト)」のルート(例: xxxxxxx/site/wwwroot/)に配置(上書きコピー)します。

ただし、これらのファイルの中で Web サービスの動作に必要な情報が記録されている「WebServEnv.wai」はコピーの対象から外します。インストーラによりインストールされた WebServEnv.wai ファイルを上書きせず、Microsoft Azure 上の現行の貴社の WebServEnv.wai ファイルをそのまま利用します。

Microsoft Azure への配置に関しましては、「<u>4.Microsoft Azure の「Web アプリ」に認証レスキュー</u>!の Web サービスを配置する」をご参照ください。

## 【手順3】(データベースの更新)

[1] Microsoft Azure 上のデータベースを更新する前に、バックアップ(エクスポート)することをお勧めいたします。

(例)

SQL Server 2012 の Management Studio で Microsoft Azure 上のデータベースに接続してデータベースを選択後、右クリックのコンテキストメニューより「タスク」→「データ層アプリケーションのエクスポート」を実行

- [2] Microsoft Azure 上の現行の貴社の WebServEnv.wai ファイルを FTP などを利用して新しい バージョンをインストールした PC の IIS のサイト(例: C:\footsinetpub\footswwwroot\foot\footsnR2WebService など) にコピーします。WebServEnv.wai ファイルには Azure への接続文字列なども格納されていますので必ず新しいバージョンをインストールした PC の IIS のサイトへコピーしてください。
- [3] 新しいバージョンをインストールした PC のデスクトップ上の「認証レスキュー! Web 環境設定」ショートカットで環境設定(認証 Web サービス)「WebAdmin.exe」を起動します。

この起動時、データベースが古い形式の場合は自動的に「データベース更新の確認」ダイアログが表示されます。「今すぐ、更新しますか」といったメッセージが表示されますので「今すぐ実行する」ボタンを選択しデータベースを更新します。

なお、既存のデータはそのまま引き継がれます。

環境設定の画面の「終了」ボタンを選択して環境設定を終了します。

以上で、Web サービスとデータベースの新しいバージョンへの更新作業は終了です。

## 【ご注意】

上記の Web サービスとデータベース以外の「認証管理システム」や「認証 UI ライブラリ(DLL)」も 最新版をインストールし、更新してください。「認証UIライブラリ(DLL)」は、エンドユーザに配布す る必要がありますが、エンドユーザが古いバージョンの DLL を使用していて、Web サービスが新 しいバージョンの場合でも互換を保ち動作いたしますが、適時更新してください。

## ■Azure でのシステム標準時刻に関する注意点

Microsoft Azure の仕様でシステム標準時刻は UTC(世界協定時)になっています。

これにより、「認証管理システム」の「認証状況」処理などで日付を指定して検索する場合、日本では9時間を引いた日付で検索する必要があります。

例えば、2014 年 4 月 1 日の 15:00 のタイムスタンプのデータを検索する場合は、9 時間引いても 2014 年 4 月 1 日の 6:00 で、同じ日付なので 2014/04/01 で検索できます。

しかし、2014 年 4 月 1 日の 6:00 のタイムスタンプのデータを検索する場合は、9 時間引くと 2014 年 3 月 31 日の 21:00 となり、2014/03/31 で検索しないとヒットしませんので、ご注意ください。 なお、次の方法で Azure のシステム標準時刻を日本時間に設定できます。

Azure のポータルサイトで設定する App Service を選択し、設定グループの「構成」を選択します。 次に「アプリケーション設定」を選択して「新しいアプリケーション設定」を選択します。



「アプリケーション設定の追加/編集」画面で、次の内容で入力します。

名前:WEBSITE\_TIME\_ZONE 值:Tokyo Standard Time

	^
アプリケーション設定の追加/編集	
名前 WEBSITE_TIME_ZONE	
值 Tokyo Standard Time	
□ デプロイスロットの設定	
更新	

「更新」ボタンを押します。

次のように設定されたのが確認できます。

## NEWTONE



## ●アプリケーション開発用 PC での「認証 UI ライブラリ」の利用

## ■認証 UI ライブラリ関連ファイル

デスクトップ上の「認証レスキュー! 認証 UI ライブラリ」へのショートカットを実行すると認証 UI ライブラリが格納されている(インストール先がデフォルトの場合)次のフォルダが開きます。

<32bitOS の場合〉 C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2\NR2DLL

〈64bitOS の場合〉 C:\Program Files (x86)\Powtone\NR2\NR2\NR2DLL

## このフォルダに格納されているファイルは次の通りです。

フォルダ名	ファイル名/フォルダ名	内容
NRDLL/Framework4.0	Newtone.NR.dll	認証 UI ライブラリ(DLL)本体
および	Newtone.NR.tlb	タイプライブラリ(VisualBasic6.0 使用時
NRDLL/Framework3.5		必要)
	NewtoneNRvcpp.dll	VC++用ラッパーDLL(VC++使用時必要)
	NewtoneNRvcpp.tlb	タイプライブラリ(VC++使用時必要)
SampleProject	VisualBasic2010 フォルダ	Visual Basic 2010用のサンプルプロジェ
(UI 系サンプルプロジェ		クト
クト)	CSharp2010 フォルダ	C# 2010 用のサンプルプロジェクト
または	VisualBasic6.0 フォルダ	Visual Basic 6.0用のサンプルプロジェク
SampleProject_API		<b>F</b>
(API 系サンプルプロジ	VC++2010 フォルダ	Visual C++ 2010 用のサンプルプロジェ
ェクト)		クト
SampleProject_Web	VisualBasic2010 フォルダ	Visual Basic 2010用のサンプルプロジェ
(ASP.NET 系サンプル		クト
プロジェクト)	CSharp2010 フォルダ	C# 2010 用のサンプルプロジェクト

このライブラリを利用して、お客様(エンドユーザ)へ配布する貴社のアプリケーションにアクティベーション機能を組み込みます。

まずは、サンプルプロジェクトをお試しになり、ソースファイルをご確認ください。

なお、UI 系機能と API 系機能の利用形態の選択については次ページをご覧ください。

## ■認証 UI ライブラリの利用形態による選択

認証レスキュー!の Ver.2.5.0 以降の認証 UI ライブラリ(DLL)では、従来の UI 系機能のプロパティやメソッドとは別に、API 系機能のプロパティやメソッドを利用できるラインナップ(+API)が追加されました。

UI 系機能とAPI 系機能の大きな違いは、UI 系が認証レスキュー!の既定の UI(ユーザインターフェイス)を利用する前提であることに対し、API 系は貴社オリジナルの UI を作成し利用できる点です。

たとえば、「認証登録/インターネット」処理を考えた場合、UI 系では ActivateRegisterInternet メソッドを呼び出すだけで、「認証登録/インターネット」処理の UI が表示され UI 上の項目の細かいプログラム的な制御などは全く必要ありません。

それに対し、API系では最終的には APIActivateRegisterInternet メソッドを呼び出しますが、UI にあたる Form のデザインや Form 上の項目に関する細かい制御や APIActivateRegisterInternet メソッドを呼び出すための必須プロパティの設定などのコードを貴社で作成する必要があります。 API系では各メソッド実行結果の細かいステータスは返しますが、メッセージの表示を含め一切の画面表示は行いません。

認証 UI ライブラリ(DLL)の利用形態によるメリットとデメリットは次表の通りです。

心皿のブイン	プリ(DLL)の利用形態によるグリットとナメ	ソノハは久久の辿りしょ。
利用形態	メリット	デメリット
UI 系機能	●認証レスキュー!既定の UI を利用	●貴社オリジナルの UIを構築できないた
	するため、貴社アプリケーションにア	め、貴社アプリケーションとのシームレス
	クティベーション機能を短期間で実装	な UI デザインや UI 上の(認証レスキュ
	することが可能	ー!既定UIには用意されていない)新規
	●API 系製品(+API)に比べ安価であ	項目などは利用できない
	る	●認証レスキュー! 既定の UI を利用す
		るため日本語のみの UI となる
API 系機能	●貴社オリジナルの UI を構築できる	●貴社オリジナルの UI を構築するため U
	ため、貴社アプリケーションとのシー	I 系に比べ、貴社アプリケーションのアク
	ムレスな UI デザインや UI 上の(認証	ティベーション機能実装に時間がかかる
	レスキュー! 既定 UI には用意されて	●UI 系製品に比べ高価である
	いない)新規項目などを作成できる	
	・貴社オリジナルの UI を構築できるた	
	め日本語以外の多言語の UI が作成	
	可能	
	●プロダクト ID やシリアル No.を(レジ	
	ストリより)取得できるメソッドがあるた	
	め、その文字列を定義することで、異	
	なる製品や同一製品の追加オプショ	
	ンのライセンスを同一 PC 内で識別で	
	きる。	
	※次ページの(2)に例を掲載、UI 系に	
	はそれらを取得する機能はない	

## ■同一PC内で異なるアプリケーションやオプションのライセンスを識別する方法

2 つの方法があります。

## (1) 同一 PC 内で貴社の異なるアプリケーションのライセンスを識別する場合

この方法は、同一 PC 内の異なるアプリケーションのライセンスの識別ができますが、同一アプリケーション内の異なるオプションなどについてはライセンスの識別はできません。

ベンダアプリケーション開始レジストリキーパス設定用のプロパティにアプリケーションごとに異なるレジストリパスを設定します。

#### UI 系:

VendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ

アプリケーションA内での設定コード例:

VendorsProductStartRegistryKeyPath = "Software\Company\A"

アプリケーションB内での設定コード例:

VendorsProductStartRegistryKeyPath = "Software¥Company¥B"

#### API 系:

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ

アプリケーションA内での設定コード例:

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath = "Software¥Company¥A" アプリケーションB内での設定コード例:

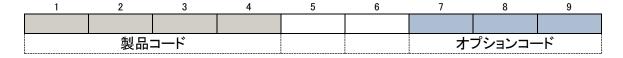
APIVendorsProductStartRegistrvKevPath = "Software\Companv\B"

#### (2)同一 PC 内で貴社の異なるアプリケーションやオプションのライセンスを識別する場合

この方法は、同一 PC 内の同一アプリケーション内の異なるオプションについてもライセンスの識別ができます。この方法は、API 系限定の機能を使用します。UI 系では利用できません。

例えば、「プロダクト ID」9 桁とし先頭 4 桁をアプリケーションの製品コード、最後の 3 桁をオプションコードとします。

## [プロダクト ID の桁の定義]



#### [製品コードの定義]

0001: アプリケーション A 0002: アプリケーション B 0003: アプリケーション C

. . . .

#### [オプションコードの定義]

オプションコード1桁目(プロダクト ID 7桁目): 追加機能 1 がある場合 1、ない場合 0

オプションコード 2 桁目(プロダクト ID 8 桁目): 追加機能 2 がある場合 1、ない場合 0 オプションコード 3 桁目(プロダクト ID 9 桁目): 追加機能 3 がある場合 1、ない場合 0

## [貴社でのプログラム]

ライセンスを確認したいタイミングで <u>APIGetRegisteredInfoFromRegistry</u> メソッドを実行して、認証後のレジストリより「プロダクト ID」を取得します。その値の先頭の 4 桁の製品コードでアプリケーションを識別し、最後の 3 桁でオプションを識別できます。

例えば、取得したプロダクト ID が次の通りであれば

1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	0	2	1	2	1	0	1

エンドユーザは、アプリケーション B の追加機能 1 と追加機能 3 のライセンスを保持していることになります。

## ■UI 系サンプルプロジェクトと API 系サンプルプロジェクトについて

Ver.2.5.0 以降の認証 UI ライブラリ(DLL)用のサンプルプロジェクトは次の 2 種類です。

- •SampleProject フォルダ (UI 系サンプルプロジェクト)
- •SampleProject\_API フォルダ (API 系サンプルプロジェクト)

これらのサンプルプロジェクトは、実際に実行してみると一見同じように見えますが、ソースコードを確認するとその相違点がわかります。

UI系サンプルプロジェクトが認証レスキュー!既定のUIを呼び出すサンプルプロジェクトになっているのに対し、API系サンプルプロジェクトではUI用のFormは全て貴社でカスタマイズ可能です。

## ■ASP.NET 系サンプルプロジェクトについて

Ver.2.6.0 以降で利用できる ASP.NET(Web アプリケーション) 用のサンプルプロジェクトは次の通りです。

•SampleProject\_Web フォルダ (ASP.NET 系サンプルプロジェクト)

このサンプルプロジェクトは、ASP.NET で作成された貴社の Web ページから利用することができる、ASP.NET 系の DLL の利用方法が含まれています。

## ■認証 UI ライブラリ機能一覧

## 【UI 系、API 系 DLL】

アセンブリ: Newtone.NR (Newtone.NR.dll 内)

名前空間: Newtone.NR

Visual C++での利用時は、次の VC++用ラッパーDLL を呼び出すようになります。

アセンブリ: NewtoneNRvcpp (NewtoneNRvcpp.dll 内)

名前空間:NewtoneNRvcpp

## 【ASP.NET 系 DLL】

アセンブリ: Newtone.NR.ASPNET (Newtone.NR.ASPNET.dll 内)

名前空間: Newtone.NR.ASPNET

## <クラス>

内容	クラス名
認証に関する各種機能の提供(UI系)	Activation
認証に関する各種機能の提供(API 系)	APIActivation
認証に関する各種機能の提供(ASP.NET 系)	APIActivation2

# <UI 系プロパティ>

# プロパティ一覧

プロパティ	機能
EncryptionPassword	暗号化時のパスワードを設定
EncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列を設定
<u>ProductIdNumberOfDigits</u>	プロダクト ID の桁数を設定
RentalPeriod	レンタル日数を設定
RentalPeriodName	レンタル期間の名称を設定
<u>SerialNoNumberOfDigits</u>	シリアル No.の桁数を設定
SetProductID	認証登録時の設定プロダクト ID を設定
<u>SetSerialNo</u>	認証登録時の設定シリアル No.を設定
TelephoneNumber	電話で認証時の電話番号を設定
TrialPeriod	猶予(試用)日数を設定
<u>TrialPeriodName</u>	猶予(試用)期間の名称を設定
<u>UseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用を設定
<u>UseMacAddress</u>	MAC アドレスの使用を設定
<u>VendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパスを設定
WebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワードを設定
WebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名を設定
WebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワードを設定
WebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウトを設定
WebServiceURL	Web サービスの URL を設定
WebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認証の使用を設定

## EncryptionPassword プロパティ

## 【機能】

暗号化時のパスワードを設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property EncryptionPassword As String

#### <C#>

public string EncryptionPassword { set; get; }

## **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::EncryptionPassword

## 【解説】

認証 UI ライブラリ(DLL)はエンドユーザ PC のレジストリやファイルにデータを出力する際に必要に応じてデータを暗号化しています。その際の暗号化の方法は貴社では指定できませんが、暗号化する時の 2 つのパラメータ、パスワードと Salt 文字列は貴社で指定できます。

EncryptionPassword プロパティには暗号化時のパスワードを指定します。全角でも指定できます。 (例) "認証レスキュー!"

この EncryptionPassword プロパティの文字数は、空文字列は不可で 1~65535 文字ですが、8 文字から 15 文字程度が妥当と思われます。

## EncryptionSaltString プロパティ

## 【機能】

暗号化時の Salt 文字列(8 文字以上)を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property EncryptionSaltString As String

<C#>

public string EncryptionSaltString { set; get; }

**<VC++>** 

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::EncryptionSaltString

## 【解説】

認証 UI ライブラリ(DLL)はエンドユーザ PC のレジストリやファイルにデータを出力する際に必要に応じてデータを暗号化しています。その際の暗号化の方法は貴社では指定できませんが、暗号化する時の 2 つのパラメータ、パスワードと Salt 文字列は貴社で指定できます。

EncryptionSaltString プロパティには暗号化時の Salt 文字列を指定します。 必ず 8 文字以上で指定します。 (例)"12345678ABCDEFGH"

## ProductIdNumberOfDigits プロパティ

## 【機能】

プロダクト ID の桁数(デフォルト:17)を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property **ProductIdNumberOfDigits** As **Integer** 

<VB6.0>

Public Property **ProductIdNumberOfDigits** As **Long** 

<C#>

public int ProductIdNumberOfDigits { set; get; }

<VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation::ProductIdNumberOfDigits

## 【解説】

認証業務用社内 PC の「認証管理システム」の「データテーブル新規作成」処理時に指定したプロダクト ID の桁数を設定します。

## RentalPeriod プロパティ

## 【機能】

レンタル日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100)を設定します。

## 【構文】

## **<VB2010>**

Public Property **RentalPeriod** As **Integer** 

#### <VB6.0>

Public Property RentalPeriod As Long

#### <C#>

public int RentalPeriod { set; get; }

## **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation::RentalPeriod

## 【解説】

エンドユーザが初めて認証してからアプリケーションが動作する期間を指定します。  $1(H) \sim 1100(H)$  の間で設定できます。

この RentalPeriod プロパティを 0 に設定すると、レンタル期間は無いことになります。

※お客様のパッケージ製品にマルチライセンス(例:10 ライセンス)が含まれる場合はレンタル機能は使用できません。レンタル機能を使用するにはシングルライセンス(1 ライセンス)の製品である必要があります。また、レンタル機能を使用する場合は「電話で認証登録」機能は利用できません。

## RentalPeriodName プロパティ

## 【機能】

レンタル期間の名称(デフォルト: "レンタル")を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property RentalPeriodName As String

#### <C#>

public string RentalPeriodName { set; get; }

## **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::RentalPeriodName

## 【解説】

たとえば、ActivateStatusDisp メソッドでは認証状態が表示されます。現在、レンタル中ならば、「レンタル期間残日数:100日」といったように表示されます。その中の「レンタル」という文字列を別の文字列で指定することができます。それがこの RentalPeriodName プロパティです。
(例)"使用可能"

## SerialNoNumberOfDigits プロパティ

## 【機能】

シリアル No.の桁数(デフォルト:8)を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property **SerialNoNumberOfDigits** As **Integer** 

<VB6.0>

Public Property **SerialNoNumberOfDigits** As **Long** 

<C#>

public int SerialNoNumberOfDigits { set; get; }

<VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation::SerialNoNumberOfDigits

## 【解説】

認証業務用社内 PC の「認証管理システム」の「データテーブル新規作成」処理時に指定したシリアル No.の桁数を設定します。

## SetProductID プロパティ

## 【機能】

認証登録時の設定プロダクト ID(デフォルト:空文字列)を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property SetProductID As String

#### **<C#>**

public string SetProductID { set; get; }

## **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::SetProductID

## 【解説】

このプロパティが空文字列の場合は、認証登録系のメソッドで表示されるダイアログのプロダクトID 用のテキストボックスは、エンドユーザによる入力が可能となります。

このプロパティが空文字列ではない場合は、認証登録系のメソッドで表示されるダイアログ中のプロダクトID用のテキストボックスにこのプロパティ値がグレーアウト表示され文字列コピーはできるが入力はできません。

このプロパティは認証登録系のメソッドに対し、プロダクト ID を渡すためだけに利用され、認証登録処理後に実際に登録されたプロダクト ID で自動的に書き換えられるものではありません。

対象となる認証登録系メソッドは、次の通りです。

「認証登録/インターネット」処理の呼び出し

(ActivateRegisterInternetメソッド)

「認証登録/電話」処理の呼び出し

(ActivateRegisterTelephoneメソッド)

「認証登録状態回復」処理の呼び出し

(RestoreRegisterStatusメソッド)

「代理認証登録/実行」処理の呼び出し

(ProxyActivateRegisterExecute メソッド)

## SetProductID、SetSerialNoプロパティの目的

プロダクトIDやシリアルNo.に貴社が取り決めたある識別を設けた場合に、意図したように認証登録を行うため。

#### SetProductID、SetSerialNoプロパティの利用例

プロダクトIDやシリアルNo.にレンタル製品とそうではない通常(売切り)製品の識別を持たせるとします。

プロダクトIDとシリアルNo.は、認証レスキュー!のメソッドのUIではなく、貴社側独自のプログラムでエンドユーザの入力を受け必要なチェック後プロダクトIDやとシリアルNo.をこのプロパティに設定したあとレンタル製品かどうかに応じてレンタル日数(RentalPeriod)プロパティを設定してから認証登録系のメソッドを呼び出すといった流れになります。

## SetSerialNo プロパティ

## 【機能】

認証登録時の設定シリアル No.(デフォルト:空文字列)を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property SetSerialNo As String

#### **<C#>**

public string SetSerialNo { set; get; }

## **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::SetSerialNo

## 【解説】

このプロパティが空文字列の場合は、認証登録系のメソッドで表示されるダイアログのシリアルNo. 用のテキストボックスは、エンドユーザによる入力が可能となります。

このプロパティが空文字列ではない場合は、認証登録系のメソッドで表示されるダイアログ中のシリアルNo.用のテキストボックスにこのプロパティ値がグレーアウト表示され文字列コピーはできるが入力はできません。

このプロパティは認証登録系のメソッドに対し、シリアルNo.を渡すためだけに利用され、認証登録処理後に実際に登録されたシリアルNo.で自動的に書き換えられるものではありません。

対象となる認証登録系メソッドは、次の通りです。

「認証登録/インターネット」処理の呼び出し

(ActivateRegisterInternetメソッド)

「認証登録/電話」処理の呼び出し

(ActivateRegisterTelephoneメソッド)

「認証登録状態回復」処理の呼び出し

(RestoreRegisterStatusメソッド)

「代理認証登録/実行」処理の呼び出し

(ProxyActivateRegisterExecute メソッド)

このプロパティの目的と利用例は、SetProductID プロパティの説明をご覧ください。

## TelephoneNumber プロパティ

## 【機能】

電話で認証時の電話番号を設定します。

## 【構文】

## <VB2010/VB6.0>

Public Property **TelephoneNumber** As **String** 

## <C#>

public string TelephoneNumber { set; get; }

## <VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::TelephoneNumber

## 【解説】

エンドユーザがインターネットを使わずに電話での認証を行う「認証登録/電話」処理で、エンドユーザがかける電話の番号を指定します。

## TrialPeriod プロパティ

## 【機能】

猶予(試用)日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~365)を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property **TrialPeriod** As **Integer** 

## <VB6.0>

Public Property TrialPeriod As Long

#### <C#>

public int TrialPeriod { set; get; }

## <VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation::TrialPeriod

## 【解説】

エンドユーザがライセンス認証登録をしなくてもアプリケーションが動作する期間を指定します。 1(日)~365(日)の間で設定できます。

この TrialPeriod プロパティを 0 に設定すると、猶予期間は無いことになり、ライセンス認証登録をしない限りアプリケーション(またはアプリケーションの主機能など)が動作しないようにできます。

## TrialPeriodName プロパティ

## 【機能】

猶予(試用)期間の名称(デフォルト: "猶予(試用)")を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property TrialPeriodName As String

<C#>

public string TrialPeriodName { set; get; }

<VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::TrialPeriodName

## 【解説】

たとえば、ActivateStatusDisp メソッドでは認証状態が表示されます。現在、猶予(試用)中ならば、「猶予(試用)期間残日数:6 日」といったように表示されます。その中の「猶予(試用)」という文字列を別の文字列で指定することができます。それがこの TrialPeriodName プロパティです。 (例)"体験版"

## UseCpuInfo プロパティ

## 【機能】

CPU 情報の使用(デフォルト: True)を設定します。

次の3つのメソッドの処理において、認証情報とエンドユーザ PC 内の CPU 情報とを照合するかどうかを設定します。

- ・ActivateStatusCheck メソッド(エンドユーザ PC 内での認証状態の確認)
- Activate Status Check Online メソッド (オンラインで認証状態の確認)
- •RestoreRegisterStatus メソッド(認証登録状態回復」処理の呼び出し)

## 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Property UseCpuInfo As Boolean

#### <C#>

public bool UseCpuInfo { set; get; }

#### <VC++>

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::UseCpuInfo

#### 【解説】

認証レスキュー!の認証 UI ライブラリでは、認証登録など各処理時にエンドユーザ PC の CPU 情報を記録します。等プロパティを True にするとエンドユーザ PC の CPU 情報を認証識別情報として利用します。これを利用することでエンドユーザ PC の不正利用時の認証識別情報の精度を上げます。

※<u>RestoreRegisterStatus</u> メソッド (認証登録状態回復」処理の呼び出し)を使用する際は、当プロパティを必ず True に設定してください。

## UseMacAddress プロパティ

## 【機能】

MAC アドレスの使用(デフォルト: True)を設定します。

次の3つのメソッドの処理において、認証情報とエンドユーザ PC 内の MAC アドレスとを照合するかどうかを設定します。

- <u>ActivateStatusCheck メソッド(エンドユーザ PC 内での認証状態の確認)</u>
- Activate Status Check Online メソッド (オンラインで認証状態の確認)
- RestoreRegisterStatus メソッド(認証登録状態回復」処理の呼び出し)

## 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Property UseMacAddress As Boolean

#### <C#>

public bool UseMacAddress { set; get; }

#### <VC++>

public: VARIANT BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::UseMacAddress

#### 【解説】

認証レスキュー!の認証 UI ライブラリでは、認証登録など各処理時にエンドユーザ PC の MAC アドレスを最大で 5 個記録します。MAC アドレスは LAN ポートなどのネットワーク機器に固有な物理アドレスです。

当プロパティを True にするとエンドユーザ PC の MAC アドレスを認証識別情報として利用します。 これを利用することでエンドユーザ PC の不正利用時の認証識別情報の精度を上げます。

※<u>RestoreRegisterStatus</u>メソッド(認証登録状態回復」処理の呼び出し)を使用する際は、当プロパティを必ず True に設定してください。

## VendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ

## 【機能】

ベンダアプリケーション開始レジストリキーパスを設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property VendorsProductStartRegistryKeyPath As String

#### **<C#>**

public string VendorsProductStartRegistryKeyPath { set; get; }

## **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::VendorsProductStartRegistryKeyPath

## 【解説】

エンドユーザに配布したアプリケーションが認証 UI ライブラリ(DLL)の機能を使う場合、その各種情報の記録先として使うエンドユーザ PC 上のレジストリの開始キーのパスを指定します。レジストリ内の「HKEY LOCAL MACHINE」以降を指定します。

(例)"Software\Newtone\NinshoRescue\NR-200\SampleProject"

なお、物理的なレジストリの位置は動作する貴社のアプリケーションが32bitなのか64bitなのかと、動作するPCのOSが32bitなのか64bitなのかによって異なります。

たとえば、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ABCというレジストリパスは次のようになります。 32bitOS上で32bitアプリケーションが動作する場合、または64bitOS上で64bitアプリケーションが動作する場合は、

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ABC

そのままです。

しかし、64bitOS上で32bitアプリケーションが動作する場合は、

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432\Node\ABC となります。

また、貴社の異なる複数のアプリケーションをエンドユーザの同一PC上で使用させるには、この VendorsProductStartRegistryKeyPathプロパティにアプリケーションごとのそれぞれ異なるレジストリパスを設定してください。たとえば、次のように設定します。

アプリケーションA内での設定コード例:

VendorsProductStartRegistryKeyPath = "Software¥Company¥A"

アプリケーションB内での設定コード例:

VendorsProductStartRegistryKeyPath = "Software\Company\B"

## WebServiceBasicAuthenticationPassword プロパティ

## 【機能】

Web サービス時の基本認証パスワードを設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property WebServiceBasicAuthenticationPassword As String

<C#>

public string WebServiceBasicAuthenticationPassword { set; get; }

<VC++>

public : \_bstr\_t

NewtoneNRvcpp::IActivation::WebServiceBasicAuthenticationPassword

## 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合に、そのパスワードを指定します。 基本認証に関しては、WebServiceUseBasicAuthentication プロパティを参照してください。

## WebServiceBasicAuthenticationUserName プロパティ

## 【機能】

Web サービス時の基本認証ユーザ名を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property WebServiceBasicAuthenticationUserName As String

<C#>

public string WebServiceBasicAuthenticationUserName { set; get; }

<VC++>

public : \_bstr\_t

NewtoneNRvcpp::IActivation::WebServiceBasicAuthenticationUserName

## 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合に、そのユーザ名を指定します。 基本認証に関しては、WebServiceUseBasicAuthentication プロパティを参照してください。

#### WebServiceCheckPassword プロパティ

## 【機能】

Web サービス確認パスワード(8 文字以上)を設定します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property WebServiceCheckPassword As String

#### <C#>

public string WebServiceCheckPassword { set; get; }

#### **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::WebServiceCheckPassword

## 【解説】

Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。ここでは、Web サーバー側設定アプリケーション「認証 Web サービス」の環境設定処理の Web サービスの確認パスワードと同じものを設定します。

確認パスワードは必須項目です、省略はできません。8 文字以上で半角の次の文字が使用できます。

- 大文字の英字(A~Z)
- ·小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=¥@<>?)

## WebServiceTimeout プロパティ

## 【機能】

Web サービスのタイムアウト(デフォルト: 60 秒)を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property WebServiceTimeout As Integer

<VB6.0>

Public Property WebServiceTimeout As Long

<C#>

public int WebServiceTimeout { set; get; }

<VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation::WebServiceTimeout

## 【解説】

Web サービスに接続して応答を待つ最大時間を秒単位で指定します。初期値は 60 秒です。

#### WebServiceURL プロパティ

#### 【機能】

Web サービスの URL を設定します。

#### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property WebServiceURL As String

#### **<C#>**

public string WebServiceURL { set; get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::WebServiceURL

## 【解説】

認証に関するシステムを Web サービスとして提供する Web サーバーの URL を指定します。 以下に例を示します。

自 PC のローカルホストの Web サーバー(IIS)にアクセスする例:

"http://localhost/Nr2WebService/Service.asmx"

(注)この例は実際の運用ではありえません。貴社のアプリケーションで認証 UI ライブラリ(DLL)を使用した開発時に、テスト用に使用される URL です。

自社 Web サーバー(IIS)にアクセスさせる例:

"http://www.newtone.co.jp/Nr2WebService/Service.asmx"

クラウドサービス Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)に配置した Web サービスを利用する例:

"http://newtonecojp.azurewebsites.net/Service.asmx"

#### WebServiceUseBasicAuthentication プロパティ

#### 【機能】

Web サービス時の基本認証の使用(デフォルト: False)を設定します。

#### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property WebServiceUseBasicAuthentication As Boolean

#### **<C#>**

public bool WebServiceUseBasicAuthentication { set; get; }

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL

NewtoneNRvcpp::IActivation::WebServiceUseBasicAuthentication

## 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合は、この WebServiceUseBasicAuthentication プロパティをTrue にします。

初期値は、False(基本認証を使用しない)です。

この WebServiceUseBasicAuthentication プロパティは、Web サーバー(IIS)側で特定のアカウント (ユーザ名とパスワード)でアクセスできるフォルダにこの Web サービスが配置してある場合に使用できるセキュリティ設定です。

Web サーバーで基本認証を使用する一般的な手順は次の通りです。

- 1.サーバーPC 上でユーザを作成。
  - この際のユーザ名とパスワードがそのまま基本認証に使われます。
- 2.基本認証フォルダのセキュリティ設定
  - フォルダのプロパティを開き、セキュリティタブで上記 1 のユーザ名を 追加し、「読み取り」権限を付与します。
- 3.IIS でのセキュリティ設定
  - IIS で該当フォルダに対し「認証」の設定で「匿名認証」を無効にして 「基本認証」を有効にします。

なお、Webサーバーでの基本認証の詳細につきましてはマイクロソフト社の関連ドキュメントをご覧ください。

## <UI 系メソッド>

## メソッド一覧

メソッド	機能
ActivateRegisterInternet	「認証登録/インターネット」処理の呼び出し
ActivateRegisterTelephone	「認証登録/電話」処理の呼び出し
ActivateRemoveInternet	「認証解除/インターネット」処理の呼び出し
ActivateRemoveTelephone	「認証解除/電話」処理の呼び出し
<u>ActivateStatusCheck</u>	エンドユーザ PC 内での認証状態の確認
ActivateStatusCheckOnline	オンラインで認証状態の確認
<u>ActivateStatusDisp</u>	「認証状態表示」処理の呼び出し
<u>DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate</u>	「代理有効期限更新/確定」処理の呼び出し
GetProxyUpdateOfExpirationDate	「代理有効期限/取得」処理の呼び出し(代理 PC
	で利用)
PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate	「代理有効期限更新/準備」処理の呼び出し
ProxyActivateRegisterExecute	「代理認証登録/実行」処理の呼び出し(代理 PC
	で利用)
ProxyActivateRegisterFix	「代理認証登録/確定」処理の呼び出し
ProxyActivateRegisterPrepare	「代理認証登録/準備」処理の呼び出し
ProxyActivateRemoveExecute	「代理認証解除/実行」処理の呼び出し(代理 PC
	で利用)
ProxyActivateRemovePrepare	「代理認証解除/準備」処理の呼び出し
RestoreCancelStatus	「認証解除状態回復」処理の呼び出し
RestoreRegisterStatus	「認証登録状態回復」処理の呼び出し
<u>UpdateOfExpirationDate</u>	「有効期限の更新」処理の呼び出し

## ActivateRegisterInternet メソッド

## 【機能】

「認証登録/インターネット」処理の呼び出しを行います。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ActivateRegisterInternet() As Boolean

#### **<C#>**

public bool ActivateRegisterInternet()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateRegisterInternet()

## 【引数】

なし

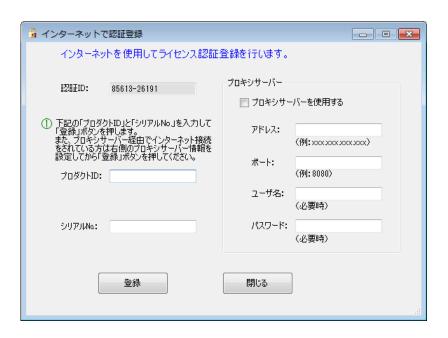
## 【戻り値】

True: 正常

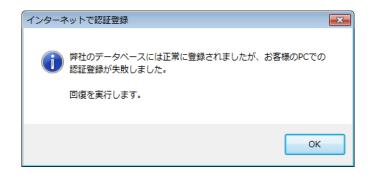
False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

### 【解説】

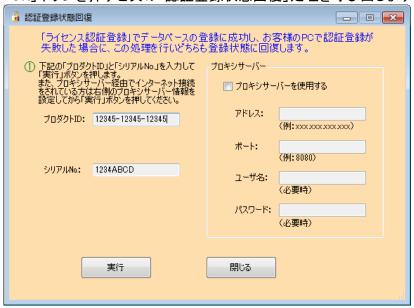
「認証登録/インターネット」処理の呼び出しを行います。



なお、何らかの原因で、データベースは登録済、エンドユーザ PC のレジストリが解除済の状態になった場合は、次のようなダイアログが表示されます。



「OK」ボタンを押すと次の「認証登録状態回復」処理を呼び出します。



「実行」ボタンを押して回復が成功すると次のダイアログが表示されます。



## ActivateRegisterTelephone メソッド

## 【機能】

「認証登録/電話」処理の呼び出しを行います。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ActivateRegisterTelephone() As Boolean

#### <C#>

public bool ActivateRegisterTelephone()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateRegisterTelephone()

## 【引数】

なし

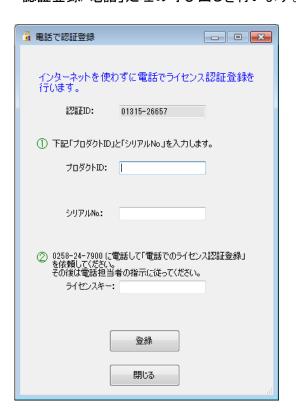
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「認証登録/電話」処理の呼び出しを行います。



## ActivateRemoveInternet メソッド

## 【機能】

「認証解除/インターネット」処理の呼び出しを行います。

### 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function ActivateRemoveInternet() As Boolean

#### <C#>

public bool ActivateRemoveInternet()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateRemoveInternet()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

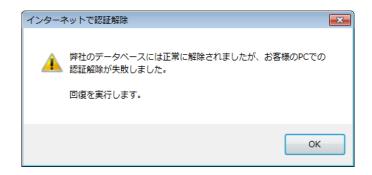
False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

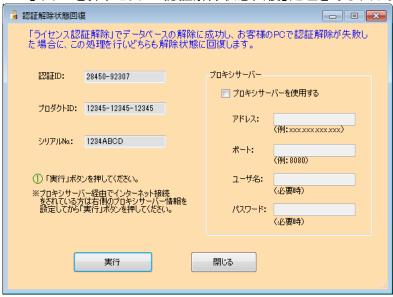
「認証解除/インターネット」処理の呼び出しを行います。



なお、何らかの原因で、データベースは解除済、エンドユーザ PC のレジストリが登録状態になった場合は、次のようなダイアログが表示されます。



「OK」ボタンを押すと次の「認証解除状態回復」処理を呼び出します。



「実行」ボタンを押して回復が成功すると次のダイアログが表示されます。



## ActivateRemoveTelephone メソッド

## 【機能】

「認証解除/電話」処理の呼び出しを行います。

## 【構文】

## <VB2010/VB6.0>

Public Function ActivateRemoveTelephone() As Boolean

#### <C#>

public bool ActivateRemoveTelephone()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateRemoveTelephone()

## 【引数】

なし

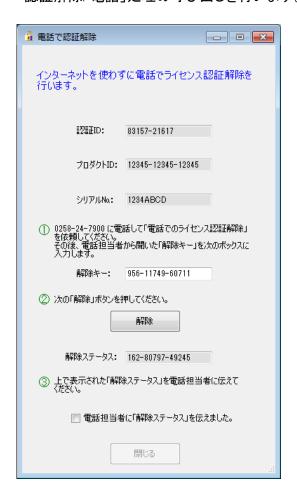
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「認証解除/電話」処理の呼び出しを行います。



#### ActivateStatusCheck メソッド

#### 【機能】

エンドユーザ PC 内での認証状態の確認を行います。

#### 【構文】

#### **<VB2010>**

Public Function ActivateStatusCheck() As Integer

#### **<VB6.0>**

Public Function ActivateStatusCheck() As Long

#### **<C#>**

public int ActivateStatusCheck()

#### **<VC++>**

public : long NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateStatusCheck()

#### 【引数】

なし

### 【戻り値】

0: 猶予期限切れ(猶予有効時)

1~365: 猶予日数有

366: 日付データの取得失敗(猶予)

400: 未認証(猶予無効時)

500: 認証済み

1000: レンタル期限切れ(レンタル有効時)

1001~2100: レンタル残日数 1~1100(**戻値から 1000 を引いて使用する**)

2101:日付データの取得失敗(レンタル)-999:認証済ハードウェア情報不一致

-1: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

-21001231~-20000101:終了した有効期限(2000/01/01~2100/12/31)

-21001232: 日付データの取得失敗(有効期限) -3: PC の日付が変更されました。

20000101~21001231: まだ有効な有効期限(2000/01/01~2100/12/31)

### 〈戻り値が−1 の場合の補足説明〉

本来設定が必須であるプロパティに値がセットされていない場合やセットした値が無効な場合などに(-1)が返ります。たとえば、「猶予(試用)期間の名称」用の TrialPeriodName プロパティに(猶予・試用期間機能を使用しないということで未設定にして結果として)空文字列を設定した場合や電話で認証時の電話番号用の TelephoneNumber プロパティに(電話対応機能を使用しないということで未設定にして結果として)空文字列を設定した場合などにこの戻り値(-1)が返ります。DLL のプロパティは機能の使用有無に関係なく DLL の起動時にそれらの値をチェックするようになっていて、上記のような空文字列などの場合その機能の利用時に問題が発生することをあらかじめ防止する目的で戻り値(-1)が返ります。

#### 【解説】

この ActivateStatusCheck メソッドと ActivateStatusCheckOnline メソッドの相違点は ActivateStatusCheck メソッドがエンドユーザ PC 内での認証状況を返すのに対し、 ActivateStatusCheckOnline メソッドはインターネットを介し貴社のデータベースにアクセスして取得した情報とエンドユーザ PC 内の情報とを照合して認証状況を返す点です。

## ActivateStatusCheckOnline メソッド

#### 【機能】

オンラインで認証状態の確認を行います。

#### 【構文】

#### **<VB2010>**

Public Function ActivateStatusCheckOnline() As Integer

#### <VB6.0>

Public Function ActivateStatusCheckOnline() As Long

#### <C#>

public int ActivateStatusCheckOnline()

#### **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateStatusCheckOnline()

## 【引数】

なし

### 【戻り値】

0: PC レベルで認証されていない(PC のレジストリには認証登録情報がない)

1: OK(PC レベルと DB で認証登録情報が一致した)

2: NG(PC レベルと一致する認証登録情報が DB にない)

3: NG(認証済ハードウェア情報不一致)

4: NG(日付データの取得失敗(猶予))

5: NG(日付データの取得失敗(レンタル))

6: NG(日付データの取得失敗(有効期限))

-11: 接続できない(認証時は電話)

-12: 接続できない(認証時は代理)

-999: その他エラー(接続できないなど)

-1: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

-3: PC の日付が変更されました。

#### 〈戻り値が-1 の場合の補足説明〉

本来設定が必須であるプロパティに値がセットされていない場合やセットした値が無効な場合などに(-1)が返ります。たとえば、「猶予(試用)期間の名称」用の TrialPeriodName プロパティに(猶予・試用期間機能を使用しないということで未設定にして結果として)空文字列を設定した場合や電話で認証時の電話番号用の TelephoneNumber プロパティに(電話対応機能を使用しないということで未設定にして結果として)空文字列を設定した場合などにこの戻り値(-1)が返ります。DLL のプロパティは機能の使用有無に関係なくDLL の起動時にそれらの値をチェックするようになっていて、上記のような空文字列などの場合その機能の利用時に問題が発生することをあらかじめ防止する目的で戻り値(-1)が返ります。

### 【解説】

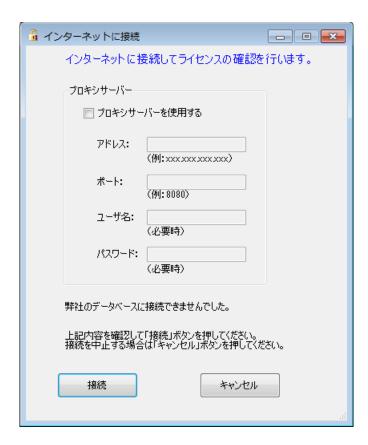
この ActivateStatusCheckOnline メソッドと ActivateStatusCheck メソッドとの相違点は ActivateStatusCheck メソッドがエンドユーザ PC 内での認証状況を返すのに対し、 ActivateStatusCheckOnline メソッドはインターネットを介し貴社のデータベースにアクセスして取得

した情報とエンドユーザ PC 内の情報とを照合して認証状況を返す点です。

この ActivateStatusCheckOnline メソッドは、なんらかの理由で現在エンドユーザが使用している貴社のアプリケーションを使用不可としたい場合などに利用できます。

通常の(レンタル期間がない)認証登録の場合、レジストリとハード情報だけの確認で OK となってしまい貴社がデータベース(DB)上の当該情報を削除してもエンドユーザの PC ではアプリケーションが継続して使用できてしまいます。そこで、任意のタイミングでインターネットを介し貴社のデータベースにアクセスしてそれらの情報を確認できる機能がこのメソッドです。貴社はたとえば、アプリケーションの起動時にそのメソッドを利用するコードを記述し、その戻り値によってアプリケーションを(強制的に)終了する、といった挙動を制御できます。

インターネットを介し Web サービスに接続できなかった場合は、次の「インターネットに接続」ダイアログを表示します。



このダイアログでのエンドユーザの選択肢は次の通りです。

- •「接続」ボタン→現在の内容で再度接続する。
- ・「キャンセル」ボタン→このダイアログを閉じて、当該メソッドの戻り値として「-999:その他エラー(接続できないなど)」を返してメソッド終了

なお、このダイアログ内で必要に応じてプロキシサーバーの接続設定が可能です。

## ActivateStatusDisp メソッド

## 【機能】

「認証状態表示」処理の呼び出しを行います。

## 【構文】

## <VB2010/VB6.0>

Public Function ActivateStatusDisp() As Boolean

#### <C#>

public bool ActivateStatusDisp()

## **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::ActivateStatusDisp()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

エンドユーザ PC 内での認証状態の表示を行います。

呼び出したダイアログの例を以下に示します。

## (レンタル期間中)



## DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド

## 【機能】

「代理有効期限更新/確定」処理の呼び出しを行います。 (代理有効期限更新機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function **DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate()** As **Boolean** 

## <C#>

public bool DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate()

## **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理有効期限更新/確定」処理の呼び出しを行います。

代理有効期限更新確定(認証PC)	×			
「代理有効期限取得準備(認証PC)」処理で使用したPCの有効期限を更 新確定します。				
① 「代理有効期限取得データ」のパスを指定してください。				
フォルヴ: 参照				
プロダクトID:				
シリアルฟด:				
現在の有効期限:				
新しい有効期限:				
更新 閉じる				

## GetProxyUpdateOfExpirationDate メソッド

#### 【機能】

「代理有効期限/取得」処理の呼び出し(代理 PC で利用)を行います。 (代理有効期限更新機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function GetProxyUpdateOfExpirationDate () As Boolean

#### <C#>

public bool GetProxyUpdateOfExpirationDate ()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

GetProxyUpdateOfExpirationDate ()

## 【引数】

なし

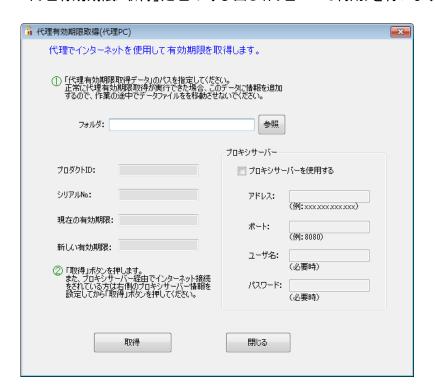
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理有効期限/取得」処理の呼び出し(代理 PC で利用)を行います。



## PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド

## 【機能】

「代理有効期限更新/準備」処理の呼び出しを行います。 (代理有効期限更新機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function **PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate()** As **Boolean** 

#### <C#>

public bool PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate ()

## **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate()

## 【引数】

なし

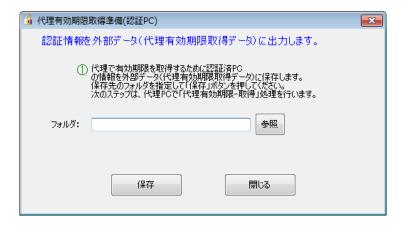
## 【戻り値】

True: 正常

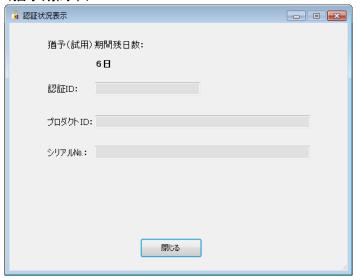
False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

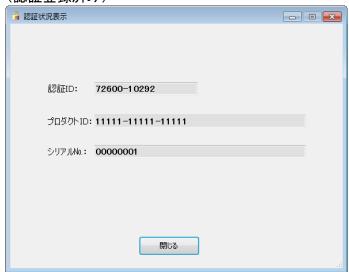
「代理有効期限更新/準備」処理の呼び出しを行います。



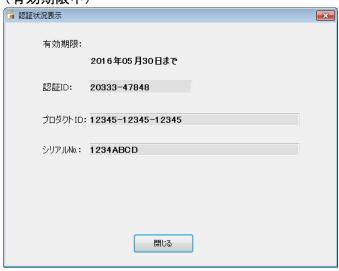
## (猶予期間中)



## (認証登録済み)



## (有効期限中)



## ProxyActivateRegisterExecute メソッド

## 【機能】

「代理認証登録/実行」処理の呼び出し(代理 PC で利用)を行います。 (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ProxyActivateRegisterExecute() As Boolean

## <C#>

public bool ProxyActivateRegisterExecute()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL

NewtoneNRvcpp::IActivation::ProxyActivateRegisterExecute()

## 【引数】

なし

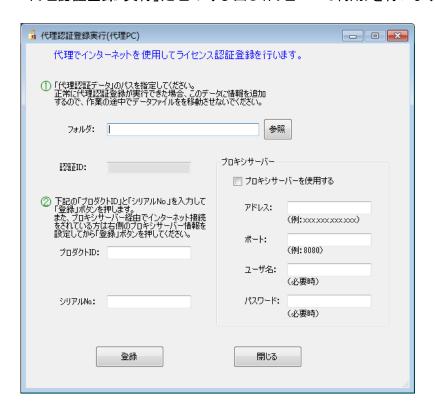
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理認証登録/実行」処理の呼び出し(代理 PC で利用)を行います。



## ProxyActivateRegisterFix メソッド

## 【機能】

「代理認証登録/確定」処理の呼び出しを行います。 (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ProxyActivateRegisterFix() As Boolean

## <C#>

public bool ProxyActivateRegisterFix()

## **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::ProxyActivateRegisterFix()

## 【引数】

なし

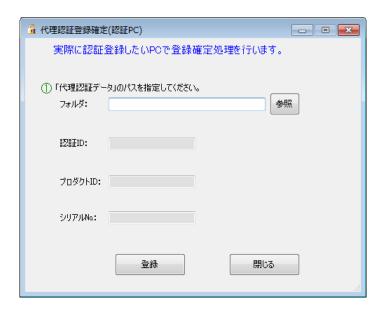
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理認証登録/確定」処理の呼び出しを行います。



## ProxyActivateRegisterPrepare メソッド

## 【機能】

「代理認証登録/準備」処理の呼び出しを行います。 (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ProxyActivateRegisterPrepare() As Boolean

## <C#>

public bool ProxyActivateRegisterPrepare()

## **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL

NewtoneNRvcpp::IActivation::ProxyActivateRegisterPrepare()

## 【引数】

なし

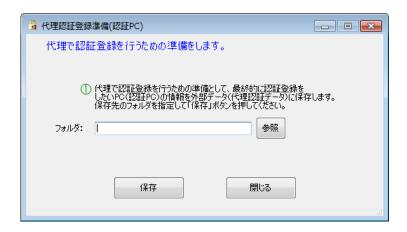
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理認証登録/準備」処理の呼び出しを行います。



## ProxyActivateRemoveExecute メソッド

## 【機能】

「代理認証解除/実行」処理の呼び出し(代理 PC で利用)を行います。 (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ProxyActivateRemoveExecute() As Boolean

## <C#>

public bool ProxyActivateRemoveExecute()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL

NewtoneNRvcpp::IActivation::ProxyActivateRemoveExecute()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理認証解除/実行」処理の呼び出し(代理 PC で利用)を行います。



## ProxyActivateRemovePrepare メソッド

## 【機能】

「代理認証解除/準備」処理の呼び出しを行います。 (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function ProxyActivateRemovePrepare() As Boolean

## <C#>

public bool ProxyActivateRemovePrepare()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL

NewtoneNRvcpp::IActivation::ProxyActivateRemovePrepare()

## 【引数】

なし

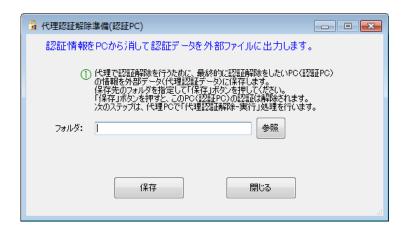
## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「代理認証解除/準備」処理の呼び出しを行います。



## RestoreCancelStatus メソッド

#### 【機能】

「認証解除状態回復」処理の呼び出しを行います。

## 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function RestoreCancelStatus() As Boolean

#### <C#>

public bool RestoreCancelStatus()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::RestoreCancelStatus()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

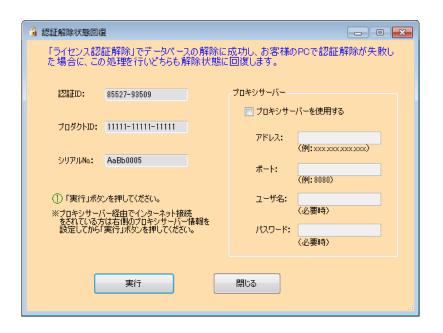
True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「認証解除状態回復」処理の呼び出しを行います。

「ライセンス認証解除」でデータベースの解除に成功したが、エンドユーザ PC での認証解除が失敗した状態になった場合に、このメソッドによる処理でエンドユーザの操作でその状態を回復しエンドユーザ PC を認証解除状態とします。



## RestoreRegisterStatus メソッド

#### 【機能】

「認証登録状態回復」処理の呼び出しを行います。

## 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function RestoreRegisterStatus() As Boolean

#### **<C#>**

public bool RestoreRegisterStatus()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::RestoreRegisterStatus()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

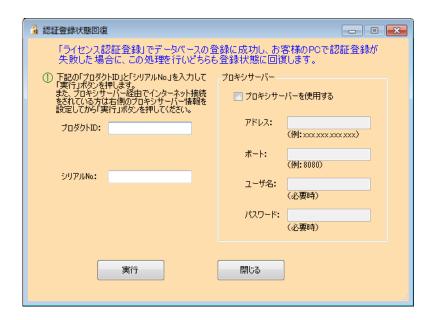
True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

## 【解説】

「認証登録状態回復」処理の呼び出しを行います。

「ライセンス認証登録」でデータベースの登録に成功したが、エンドユーザ PC での認証登録が失敗した状態になった場合に、このメソッドによる処理でエンドユーザの操作でその状態を回復しエンドユーザ PC を認証登録状態とします。



## UpdateOfExpirationDate メソッド

#### 【機能】

「有効期限の更新」処理の呼び出しを行います。

#### 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function UpdateOfExpirationDate() As Boolean

#### **<C#>**

public bool UpdateOfExpirationDate()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::UpdateOfExpirationDate()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

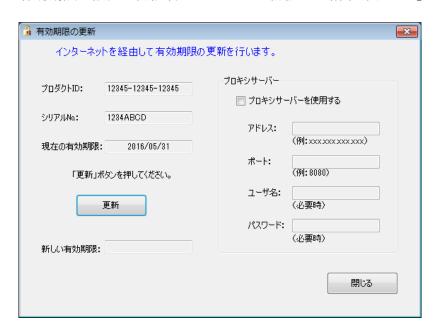
#### 【解説】

「有効期限の更新」処理の呼び出しを行います。

プロダクト ID とシリアル No.が有効期限によるライセンスの場合、当処理を利用してエンドユーザに有効期限を更新させることができます。

この処理をエンドユーザに実行してもらう前に、貴社で新しい有効期限の設定をする必要があります。

有効期限の設定は認証管理システムの「認証キー編集(表形式)」処理を利用します。



なお、エンドユーザに有効期限を更新させる方法として当処理を実行させる他に、エンドユーザに一度認証の解除後、再度認証の登録をしてもらうことでも更新が完了します。

エンドユーザが代理認証を利用している場合で、有効期限によるライセンスを更新する場合はその 方法を使います。

## <API 系プロパティ>

# プロパティ一覧

プロパティ	機能	
APIError 列挙体	エラー内容を表します。	
<u>APICertificationID</u>	認証 ID(取得専用)	
<u>APICurrentExpirationDate</u>	現在の有効期限(取得専用)	
APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワードを設定	
APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列を設定	
APIErrorStatus	API 系のメソッドを使用した際のエラーの内容を返	
	す。(取得専用)	
<u>APIExternalLinkKey</u>	APIGetProductIdSerialNoList メソッド 実行時の外	
	部データベースとのリンク用キー項目を設定	
APIFreeItem1∼5	APIGetFreeItem メソッド 実行後に自由入力項目	
	1~5 が設定される(取得専用)	
<u>APILicenseKey</u>	ライセンスキー	
<u>APINewExpirationDate</u>	新しい有効期限を取得します。(取得専用)	
<u>APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate</u>	「有効期限の更新」実行時の有効期限新旧上書き	
	の設定	
<u>APIProductID</u>	プロダクト ID	
<u>APIProductIdSerialNoList</u>	APIGetProductIdSerialNoList メソッド実行後にプ	
	ロダクト ID とシリアル No.のペアをデリミタで列挙し	
	たの文字列が設定される(取得専用)	
<u>APIProxyDataPath</u>	代理認証データパス	
<u>APIProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレス	
<u>APIProxyServerPassword</u>	プロキシサーバーのパスワード	
<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	
<u>APIProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ名	
<u>APIReleaseKey</u>	解除キー	
<u>APIReleaseStatus</u>	解除ステータス(取得専用)	
<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数を設定	
<u>APISelectRunAppDatePathFlag</u>	「アプリ起動日」の読み込み/書き込み場所の切り	
	替えフラグ	
<u>APISerialNo</u>	シリアル No.	
<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数を設定	
<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用を設定	
<u>APIUseMacAddress</u>	MAC アドレスの使用を設定	
<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパスを	
	設定	
APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワードを設定	
<u>APIWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証ユーザ名を設定	
APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワードを設定	
APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウトを設定	
APIWebServiceURL	Web サービスの URL を設定	
<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用を設定	

## APIError 列挙体

エラー内容を表します。 public enum APIError パブリックメンバ

メンバ名	値	内容	関連するメソッド
None	0	エラーなし	
OutOfMemoryException	11	プログラムの実行を継続するための	
		メモリが不足している場合にスローさ	
		れる例外。	
StackOverflowException	12	入れ子になったメソッド呼び出しが多	
		くなりすぎ、実行スタックがオーバーフ	
		ローした場合にスローされる例	
		外。このクラスは継承できません。	
UnauthorizedAccessExcep	13	オペレーティング システムが I/O エ	
tion		ラーまたは特定の種類のセキュリティ	
		エラーのためにアクセスを拒否す	
		る場合、スローされる例外。	
IoDirectoryNotFoundExcep	14	ファイルまたはディレクトリの一部が	
tion		見つからない場合にスローされる例	
		外。	
IoDriveNotFoundException	15	使用できないドライブまたは共有にア	
		クセスしようとするとスローされる例	
		外。	
IoEndOfStreamException	16	ストリームの末尾を越えて読み取ろう	
		としたときにスローされる例外。	
IoFileLoadException	17	マネージ アセンブリが見つかった	
		が、読み込むことができない場合にス	
		ローされる例外。	
IoFileNotFoundException	18	ディスク上に存在しないファイルにア	
		クセスしようとして失敗したときにスロ	
		一される例外。	
IoIOException	19	I/O エラーが発生したときにスローさ	
		れる例外。	
IoPathTooLongException	20	パス名またはファイル名がシステム定	
		義の最大長を超えている場合にスロ	
	404	一される例外。	ADVA II I D I I
BadStrInProductID	101	プロダクト ID に不正な文字が含まれ	APIActivateRegist
		ています。	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIRestoreRegiste rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetFreeItem
			APIGetRegisteredI
			Aridethegisteredi

			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
BadStrInSerialNo	102	ンリアル No.に不正な文字が含まれて	APIActivateRegist
Badoumseriaino	102	ンググル No.Ic-Th 正な久子が日よれて   います。	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetFreeItem
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
BadInputData	103	入力されたデータが不正です。	APIActivateRegist
			erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
FailedEnableNIC	104	NIC の設定に失敗しました。(有効化)	APIActivateRegist
			erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIRestoreRegiste
			rStatus
FailedDisableNIC	105	NIC の設定に失敗しました。(無効化)	APIActivateRegist
			erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			-0.000opu.0

			APIRestoreRegiste
			rStatus
NoMACAdress	106	MAC アドレスが 1 つも取得できません	APIActivateRegist
		でした。	er <b>I</b> nternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIRestoreRegiste
			rStatus
ActivationFailedException	107	弊社のデータベースには正常に登録	APIActivateRegist
		されましたが、お客様の PC での認証	er <b>I</b> nternet
		登録が失敗しました。	
ExceedLicense	108	ライセンス数を超えています。	APIActivateRegist
			erInternet
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
UnregisteredException	109	指定されたプロダクト ID とシリアルNo.	APIActivateRegist
		は弊社データベースに登録されてい	erInternet
		ません。	APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetFreeItem
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
Nat Danieta va dEva antia v	110	│ │何らかの原因で登録できませんでし	eOfExpirationDate
NotRegisteredException	110		APIActivateRegist erInternet
		<i>†</i> =。	APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
AlreadyRegistered	111	そのプロダクト ID + シリアルNo. + 認	APIActivateRegist
, 5		証 ID は既に登録されているので登録	erInternet
		できませんでした。	APIProxyActivateR
			egisterExecute
BadCheckPassword	112	確認パスワードが不正です。	APIActivateRegist
			er <b>I</b> nternet
			APIProxyActivateR
			egisterExecute

			ADIA di S
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetProductIdS
			erialNoList
			APIGetFreeItem
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
D IM 'E'I	4.10	W.10 F	eOfExpirationDate
BadWaiFile	113	WebServEnv.wai ファイルに問題があ	APIActivateRegist
		ります。	erInternet
		認証 Web サービス実行 PC 上で「認証	APIProxyActivateR
		レスキュー!2 Web 環境設定」	egisterExecute
		(WebAdmin.exe)が行われていない可	APIActivateRemov
		能性があります。	eInternet
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetProductIdS
			erialNoList
			APIGetFreeItem
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
NotRetrievedTotalLicense	114	EU 認証済みライセンス総数が取得で	APIActivateRegist
		きませんでした。	erInternet
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
BadNRRegistrationLicense	115	NR 登録ライセンスに問題がありま	APIActivateRegist
		す。	erInternet
		弊社までご連絡ください。	APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb

	440	***************************************	
ExpirationDateIsOutOfRan	116	弊社のデータベース上の「有効期限」	APIActivateRegist
ge		が無効(範囲外など)になっていて更	erInternet
		新できませんでした。	APIProxyActivateR
		弊社にご連絡ください。	egisterExecute
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
ExpirationDateIsOldDate	117	弊社のデータベース上の「有効期限」	APIActivateRegist
		が無効(前日以前)になっていて更新	er <b>I</b> nternet
		できませんでした。	APIProxyActivateR
		弊社にご連絡ください。	egisterExecute
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
Authenticated	118	既に認証済のため、この処理は無効	APIActivateRegist
Addienticated	110	です。	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIProxyActivateR
			=
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIGenerationOfN
	4.4.0		ewCertificationID
UnhandledProcess	119	何らかの原因のため、この処理は無	APIActivateRegist
		効です。	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
I.	1		1

			ADILL L. OCT.
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIGetProductIdS
			erialNoList
			APIGetFreeItem
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
UnexpectedError	120	認証状況確認中に想定外のエラーが	APIActivateRegist
		発生しました"	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			<b>APIR</b> estoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGenerationOfN
			ewCertification <b>I</b> D
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
NoExpirationDateIsUsed	121	このプロダクト ID とシリアル No.には	APIUpdateOfExpira
		有効期限の利用設定はありません。	tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
L	I .		

			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
NotAllowedByRental	122	レンタルでご利用の場合は、この処理	APIActivateRegist
		はできません。	erTelephone
BadLicenseKey	123	入力されたデータが不正です。	APIActivateRegist
			erTelephone
ActivationFailed	124	お客様の PC での認証登録が失敗し	APIActivateRegist
		ました。	erTelephone
		再度、当処理を実行してください。	APIProxyActivateR
			egisterFix
DeauthorizeFailedExceptio	125	弊社のデータベースには正常に解除	APIActivateRemov
n		されましたが、お客様の PC での認証	eInternet
		解除が失敗しました。	
ProductIDAndSerialNoAnd	126	指定されたプロダクト ID/シリアルNo./	APIActivateRemov
CertificationIDNotFound	.20	認証 ID は弊社データベースに登録さ	eInternet
Coremodelonia Processina		れていません。	APIProxyActivateR
		7000 6000	emoveExecute
NotDeauthorized	127	何らかの原因で解除できませんでし	APIActivateRemov
Notbeautionzed	127	た。	eInternet
		7-0	APIProxyActivateR
			emoveExecute
Line who entirested By Trial De	128	認証登録されていないため、この処	APIActivateRemov
UnauthenticatedByTrialPe	128		
riodOut		理は無効です。	eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
UnauthenticatedByTrialPe	129	認証登録されていないため、この処	APIActivateRemov
riod		理は無効です。	eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			l .

			APIUpdateOfExpira tionDate APIGetRegisteredI nfoFromRegistry APIPreparationOfP roxyUpdateOfExpir ationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE
Unauthenticated	130	認証登録されていないため、この処 理は無効です。	xpirationDate  APIActivateRemov eInternet APIActivateRemov eTelephone
			APIProxyActivateR emovePrepare APIRestoreCancel Status
			APIUpdateOfExpira tionDate APIGetRegisteredI nfoFromRegistry
			APIPreparationOfP roxyUpdateOfExpir ationDate APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE xpirationDate
HardwareInformationMisma tch	131	認証済ハードウェア情報が不一致の ため、この処理は無効です。	APIActivateRemov eInternet APIActivateRemov eTelephone
			APIProxyActivateR emovePrepare APIRestoreCancel
			Status APIUpdateOfExpira tionDate APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry APIPreparationOfP roxyUpdateOfExpir
			ationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE
ReleasekeyIsEmpty	132	解除キーが不正です。	xpirationDate APIActivateRemov
ReleasekeyDigitsProblem	133	解除キーが不正です。	eTelephone APIActivateRemov eTelephone

BadReleasekey	134	解除キーが不正です。	APIActivateRemov
			eTelephone
DeauthorizeFailed	135	お客様の PC での認証解除が失敗し	APIActivateRemov
		ました。	eTelephone
		再度、当処理を実行してください。	
ProxyAuthenticationDataFi	136	代理認証データファイルが存在しませ	APIProxyActivateR
leNotFound		ん。	egisterExecute
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIGetProxyDataF
			orExpirationDate
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
NoDataInProxydatafile	137		APIProxyActivateR
110Bataini 10Ayaataine	107	在しません。	egisterExecute
		шом 2.70%	APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
IncorrectProxyData	138	   代理認証データファイルの内容が不	APIProxyActivateR
moorroot roxybata	100	正です。	egisterExecute
			APIProxyActivateR
			egisterFix
FailedReadProxydata	139	   代理認証データの読み込みに失敗し	APIProxyActivateR
T dilourtoddi Toxyddia	100	ました。	egisterExecute
		60/20	APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIProxyActivateR
			egisterFix
FailedToWriteProxyData	140	   弊社のデータベースには正常に登録	APIProxyActivateR
Talled Townter Toxy Bata	140	されましたが、代理認証データの書き	egisterExecute
		込みが失敗しました。	oglocol Excoded
		整社のデータベースの登録を解除し	
		た上で、再度、当処理を実行していた	
		だく必要がありますので弊社までご連	
		絡ください。	
FailedWithEncryption	141	暗号化で失敗しました。	APIProxyActivateR
. s.iosimentorypuon			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			/ II II TONY/TOUVALEIN

			emoveExecute
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIWriteProxyServ
			erInfoToRegistry
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
ProxyDataInconsistency	142	「代理認証データ」と現在お使いのPC	APIProxyActivateR
1 TOXY Butturnoon Sisteriory	112	の内容が異なるので確定処理が実行	egisterFix
		できません。	APIProxyActivateR
			egisterExecute
欠番	143		Cgistoi Excouto
AlreadyUsedProxyData	144	   この代理認証データファイルは、過去	APIProxyActivateR
, ar oddy o sour Toxy Data	ידדו	に使用されているので登録に利用で	egisterFix
		10使用されているので豆螺に利用で   きません。	ogiatori ix
FailToRegisterConfirm	145	さるとん。   登録確定に失敗しました。	APIProxyActivateR
Tail Torkegister Commitm	140	豆琢曜足に入放しよした。	egisterFix
FailToRegisterPreparation	146	   登録準備に失敗しました。	APIProxyActivateR
l all rortegisterr reparation	140	豆啄牛腩に入放しよした。	egisterPrepare
UnableToWriteProxyData	147	   弊社のデータベースには正常に解除	APIProxyActivateR
Chable Towniter Toxy Data	177	されましたが、代理認証データの書き	emoveExecute
		込みが失敗しました。	CITIOVOLXCOULC
		「認証解除/電話」でお客様の PC で	
		の認証解除を実行していただく必要	
		がありますので弊社までご連絡くださ	
		い。	
ThePathHasNotBeenSet	148	- <sup>、</sup> - パスが設定されていません。	APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
PathNotFound	149	設定されたパスが存在しません。	APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
EmptyAnyOfTheInputData	150	この PC は認証登録されていません。	APIProxyActivateR
			emovePrepare
FailedToRemoveFromRegi	151	お客様の PC での認証解除準備が失	APIProxyActivateR
story		敗しました。	emovePrepare
		再度、当処理を実行してください。	
FailedToDeauthenticationP	152	解除準備が失敗しました。	APIProxyActivateR
reparation			emovePrepare
		ı	

CanNotUseTheString	164	使用できない文字列が含まれていま	APIActivateRegist
onDate			tionDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate
FailedToUpdateTheExpirati	163	弊社までご連絡ください。 「有効期限」の更新に失敗しました。	rStatus  APIUpdateOfExpira
CPU		効なためこの処理は実行できません。 	erInternet APIRestoreRegiste
InvalidUseOfMACAdressOr	162	MACアドレスか CPU 情報の使用が無	egisterExecute APIRestoreRegiste rStatus APIActivateRegist
RentalHasExpired	161	レンタルのご利用期限が過ぎました。	APIActivateRegist erInternet APIProxyActivateR
		み合わせはレンタルとして登録できません。 もう一度、プロダクト ID とシリアル No. をご確認いただいてお間違いない場合は弊社までご連絡ください。	erInternet APIProxyActivateR egisterExecute APIRestoreRegiste rStatus
InputDataNotFound  LicensingIssues	159	入力された「プロダクト ID」や「シリアル No.」、PC 情報などが弊社のデータベースに登録されていません。 弊社のデータベースの登録を解除した上で、再度、認証登録を実行していただく必要がありますので弊社までご連絡ください。 このプロダクト ID とシリアル No.の組	APIActivateRegiste
FailedToRestoreActivation	158	お客様の PC で認証登録の回復に失敗しました。 弊社のデータベースの登録を解除した上で、再度、認証登録を実行していただく必要がありますので弊社までご連絡ください。	APIRestoreRegiste rStatus
欠番	157		
FailedToDeauthorizeRecovery  Parkers  Parkers	155	お客様の PC で認証解除の回復に失敗しました。 「認証解除/電話」でお客様の PC での認証解除を実行していただく必要がありますので弊社までご連絡ください。	APIRestoreCancel Status
rizeProcess		在しますので当処理ではなく、「認証 解除」処理を行ってください。	Status
PleasePerformTheDeautho	154	た。 弊社のデータベースにもデータが存	Status APIRestoreRegiste rStatus APIRestoreCancel
NotRestoreException	153	何らかの原因で回復できませんでし	APIRestoreCancel

		T .	
		す。	erInternet
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetProductIdS
			erialNoList
			APIGetFreeItem
			APIGetRegisteredI
			nfoFromWeb
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
PropertyValueNotFound	165	 「必須設定プロパティ」に値が設定さ	APIActivateRegist
1 Topolity Value Notification	100	れていません。	erInternet
		10000000000	APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIActivateStatus
			Check
			APIActivateStatus
			CheckOnline
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetProxyDataF
			orRemove
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emoveExecute
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status

			ADIDtD
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIGetProductIdS
			erialNoList
			APIGetFreeItem
			APITrialStartDate
			Remove
			APIRunNR2AppDat
			eRemove
			APIRunNR2AppDat
			eRemove2
			APIActivateStatus
			Check2
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry2
NotUpdateTheExpirationD	166	新しい有効期限が同じか古い場合	APIUpdateOfExpira
ate		「更新しない」ように設定されているの	tionDate
		で更新されませんでした。	APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
CanNotReadTheTrialStart	167	日付データの取得に失敗しました。	APIActivateRegist
Day		(猶予)	er <b>I</b> nternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
L		<u>L</u>	

			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
CanNotReadTheRentalSta	168	日付データの取得に失敗しました。	APIActivateRegist
rtDay	100	(レンタル)	erInternet
Tibay			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetProxyDataF
			orRegister
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			emovePrepare APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
CanNatDaadThaEvaivation	169	日付データの取得に失敗しました。	xpirationDate
CanNotReadTheExpiration StartDate	109		APIActivateRegist erInternet
StartDate		(有効期限)	
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetProxyDataF
			orRegister

			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			egisterExecute
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIGetProxyDataF
			orExpirationDate
			APIGetProxyUpdat
			eOfExpirationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
CanNotReadProxyServerIn	170	プロキシサーバー情報の読み込みに	APIReadProxyServ
foFromRegistry		失敗しました。	erInfoFromRegistry
CanNotWriteProxyServerIn	171	プロキシサーバー情報の書き込みに	APIWriteProxyServ
foToRegistry	.,.	失敗しました。	erInfoToRegistry
ExternalLinkKeyNotFound	172	指定されたリンク用キーは弊社データ	APIGetProductIdS
		ベースに登録されていません。	erialNoList
FailToGetRegisterInfo	173	認証情報の取得に失敗しました。	APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
PCDateChanged	174	PC の日付が変更されました。	APIActivateRegist
	.,,		erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIGenerationOfN
			711 IGENERATION ON THE

ProxyExpirationDateDataFi   ProxyExpirationDateDataFile   ProxyExpirationDate   Prox				
### ProxyActivateR egisterFix APIProxyActivateR egisterFix APIProxyActivateR egisterFix APIProxyActivateR egisterFix APIProxyActivateR egisterFix APIProxyActivateR egisterPrepare APIProxyActivateR emovePrepare APIRestoreCancel Status APIRestoreRegiste rStatus APIRestoreRegister rStatus APIRestoreRegister rStatus APIPoparationOpt roxyUpdateOfExpirationDate APIPoparationOpt roxyUpdateOfExpirationDate APIPoparationDate APICetProxyDataF orExpirationDate APICetProxyDataF orExpirat				
APIProxyActivateR egisterFix APIProxyActivateR egisterFrepare APIProxyActivateR egisterFrepare APIProxyActivateR egisterFrepare APIProxyActivateR egisterFrepare APIProxyActivateR emovePrepare APIRestoreCancel Status APIRestoreRegiste rStatus APIUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APICetProxyDataForExpirationDate APICetProxyUpdateOfExpirationDate APICetProxyUpdateOfExpirationDate APICetProxyUpdateOfExpirationDate APICetProxyUpdateOfExpirationDate APICetProxyDupdateOfExpirationDate APICetProxyUpdateOfExpirationDate APICetProxyU				1
ProxyExpirationDateDataFi leNotFound   175   代理有効期限取得データファイルが aPIGetProxyDataForExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfP				
APIProxyActivateR egisterPrepare APIProxyActivateR egisterPrepare APIProxyActivateR emovePrepare APIProxyActivateR emovePrepare APIRestoreGancel Status APIRestoreRegiste rStatus APIRestoreRegister rStatus APIRestoreRegister rStatus APIPreparationOff roxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OffProxyUp				
egisterPrepare APIProxyActivateR emovePrepare APIProxyActivateRemovePrepare APIProxyActivateRemovePrepare APIRestoreCancel Status APIRestoreCancel Status APIRestoreRegiste ristatus APIQupdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OPProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDpdateOfExpirationDate APIGetProxyDpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE				_
APIProxyActivateR emovePrepare APIRestoreCancel Status APIRestoreRegiste ristatus APIRestoreRegiste ristatus APIReproxyExpirationOfferoxyUpdateOfExpirationDate APIUpdateOfExpirationDate APIUpdateOfExpirationDate APIUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfEx				=
emovePrepare APIRestoreCancel Status APIRestoreRegiste rStatus APIRphydateOfExpirationDate APIPreparationOfP roxyUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfP roxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyDupdate OfExpirationDate APIGetProxyDupdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirati				
APIRestoreCancel Status APIUpdateOfExpirationDate APIDetermination OffroxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OffroxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OffroxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OffroxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OffroxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIDetermination OffroxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpi				_
Replace Application Date Application D				-
APIRestoreRegiste rStatus APIUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate APIGETProxyUpdateOfExpirationDate APIGETProxyUpdateOfExpirationDate APIGETProxyDataForExpirationDate APIGETProxyDataForExpirationDate APIGETProxyUpdateOfExpirationDate APIGETProxyDataForExpirationDate APIGETProxyDataForExpirationDate APIGETProxyUpdateOfExpirationDate APIGETProxyDataForExpirationDate APIGETProxyDataForExpirationDat				APIRestoreCancel
ProxyExpirationDateDataFi   175   代理有効期限取得データファイルが APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProx				
APIUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfF roxyUpdateOfExpirationDate APIPreparationOfF roxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataFileNotFound				
tionDate APIPreparationOfP roxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyDataForeExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUp				
APIPreparationのProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate A				
ProxyExpirationDateDataFi leNotFound ProxyExpirationDateDataFile ProxyUpdateOffExpirationDateDataFile ProxyUpdateOffExpirationDateDataFile ProxyExpirationDateDataFile ProxyExpirationDateDataFile ProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyExpirationDateDataProxyUpdateOffExpirationDateAPlGetProxyUpdateOffExpirationDateAPlGetProxyUpdateOffExpirationDateAPlCetProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationDateAPlDeterminationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationDateAPlDeterminationOffProxyUpdateOffExpirationDateAPlDeterminationDateAPlDet				tionDate
ProxyExpirationDateDataFi leNotFound				APIPreparationOfP
ProxyExpirationDateDataFi leNotFound  ProxyExpirationDateDataFi leNotFound  175 代理有効期限取得データファイルが 存在しません。  NoDataInProxyExpirationD ate DataFile  NoDataInProxyExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirat				
ProxyExpirationDateDataFi leNotFound 175 代理有効期限取得データファイルが 存在しません。 APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpda				
ProxyExpirationDateDataFi leNotFound				APIDetermination
ProxyExpirationDateDataFileNotFound				OfProxyUpdateOfE
leNotFound 存在しません。 orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOftExpirationDate APIGetProxyUpdat eOftExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOffE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOffExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpdateOffExpirationDate APIGetProxyUpdat				xpirationDate
APIGetProxyDataF orExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateの形式が存在しません。  NoDataInProxyExpirationD ate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpira		175		
RoDataInProxyExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProx	leNotFound		存在しません。	
APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationD				-
RoDataInProxyExpirationD ate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate XPIGETProxyUpdateOfE xpirationD				orExpirationDate
NoDataInProxyExpirationD ateDataFile  FailedReadProxyExpiration DateData FailedToWriteProxyExpiration FailedToWriteProxyExpiration NoDataInProxyExpiration 176 代理有効期限取得データファイルに データが存在しません。  「代理有効期限取得データファイルに データが存在しません。  「代理有効期限取得データの読み込み」 に失敗しました。 「代理有効期限取得データの読み込み」 の「ProxyUpdate Off xpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyUpdate Off xpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyUpdat e Off ExpirationDate APIGetProxyUpdat e Off ExpirationDate APIGetProxyUpdate Off xpirationDate APIDetermination Off ProxyUpdate Off xpirationDate APIGetProxyUpdate Off xpirationDate AP				APIGetProxyUpdat
NoDataInProxyExpirationD ate DataFile  NoDataInProxyExpirationD ate DataFile  176 代理有効期限取得データファイルに データが存在しません。  「データが存在しません。  「イ理有効期限取得データのまか込み」 orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate  FailedReadProxyExpiration Date Data  177 代理有効期限取得データの読み込み IC失敗しました。  「大敗しました。  「大敗しました。  「大阪中の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表				eOfExpirationDate
NoDataInProxyExpirationD ate DataFile  NoDataInProxyExpirationD ate DataFile  FailedReadProxyExpiration Date Date Data  FailedToWriteProxyExpirati  NoDataInProxyExpiration Date (大理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdateOfExpirationDate APIGetProxyUpdateOf				APIDetermination
NoDataInProxyExpirationD ateDataFile				OfProxyUpdateOfE
ateDataFile データが存在しません。 の「ExpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyDataF or ExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate				xpirationDate
APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIGetProxyUpdate OfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate	NoDataInProxyExpirationD	176		_
orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate  FailedReadProxyExpiration Date APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate  FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate	ateDataFile		データが存在しません。	
APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedReadProxyExpiration DateData  177 代理有効期限取得データの読み込み APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				<del>-</del>
Equipment of the proof of the				•
APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedReadProxyExpiration DateData  177 代理有効期限取得データの読み込み orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate ofExpirationDate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate				
FailedReadProxyExpiration Date TailedReadProxyExpiration Date Data 177 代理有効期限取得データの読み込み CExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdate OffExpirationDate APIGetProxyUpdate eOffExpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOffE xpirationDate APIDetermination OffProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate APIGetProxyUpdateOffE xpirationDate				=
FailedReadProxyExpiration Date Type Type Date Data 177 代理有効期限取得データの読み込み に失敗しました。 APIGetProxyDataF or Expiration Date APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate				
FailedReadProxyExpiration Date Data  177 代理有効期限取得データの読み込み に失敗しました。  APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate  FailedToWriteProxyExpirati  178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				
に失敗しました。 orExpirationDate APIGetProxyDataF orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				xpirationDate
APIGetProxyDataForExpirationDate APIGetProxyUpdate APIGetProxyUpdate eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate		177		
orExpirationDate APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate APIGetProxyUpdateOfE xpirationDate	DateData		に失敗しました。	
APIGetProxyUpdat eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				APIGetProxyDataF
eOfExpirationDate APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				orExpirationDate
APIDetermination OfProxyUpdateOfE xpirationDate FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				APIGetProxyUpdat
FailedToWriteProxyExpirati178代理有効期限取得データの書き込みAPIGetProxyUpdateOfE xpirationDate				eOfExpirationDate
FailedToWriteProxyExpirati178代理有効期限取得データの書き込みAPIGetProxyUpdat				APIDetermination
FailedToWriteProxyExpirati 178 代理有効期限取得データの書き込み APIGetProxyUpdat				OfProxyUpdateOfE
				xpirationDate
onDateData が失敗しました。 eOfExpirationDate	FailedToWriteProxyExpirati	178	代理有効期限取得データの書き込み	APIGetProxyUpdat
	onDateData		が失敗しました。	eOfExpirationDate

		+ 5 库 「你现去就知识现得准件	
		もう一度、「代理有効期限取得準備	
		(認証 PC)」から行ってください。	
NoExpirationDateSettingF	179	代理有効期限取得データは有効期限	APIDetermination
orProxyExpirationDateDat		の利用設定はありません。	OfProxyUpdateOfE
aFile			xpirationDate
HardwareInfoAndProxyExp	180	「代理有効期限取得データ」と現在お	APIDetermination
irationDateDataIsMismatch		使いの PC の内容が一致しません。	OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
FailedRemoveValueFromR	181	削除処理が失敗しました。(レジスト	APITrialStartDate
egistory		IJ)	Remove
			APIRunNR2AppDat
			eRemove
			APIRunNR2AppDat
			eRemove2
	182	削除処理が失敗しました。(フォルダ)	APIRunNR2AppDat
older	102	門际処理が大敗しよした。(フォルダ)	eRemove2
	100		
FailedReadRunAppDateVal	183	「アプリ起動日」の読み込みに失敗し	APIActivateRegist
ueFromRegistory		ました。(レジストリ)	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIActivateStatus
			Check
			APIActivateStatus
			Check2
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
			אףוו מנוטווטמנט

			ADIA / CC
			APIActivateStatus
			CheckOnline
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry2
FailedWriteRunAppDateVal	184	「アプリ起動日」の書き込みに失敗し	APIActivateRegist
ueFromRegistory		ました。(レジストリ)	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			APIActivateStatus
			Check
			APIActivateStatus
			Check2
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
			APIActivateStatus
			CheckOnline
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry2
FailedReadRunAppDateVal	185	「アプリ起動日」の読み込みに失敗し	APIActivateRegist
ueFromFolder		ました。(フォルダ)	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet
			APIActivateRemov
			eTelephone
			o i diopilone

			Δ DI Δ αμία από Ο μ αμία
			APIActivateStatus
			Check
			APIActivateStatus
			Check2
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
			APIProxyActivateR
			emovePrepare
			APIRestoreCancel
			Status
			APIRestoreRegiste
			rStatus
			APIUpdateOfExpira
			tionDate
			APIPreparationOfP
			roxyUpdateOfExpir
			ationDate
			APIDetermination
			OfProxyUpdateOfE
			xpirationDate
			APIActivateStatus CheckOnline
			APIGetRegisteredInfoFromRegistry2
Faile divisite Down Amer Data Val	106	「マプリお動り」の書きなったの	
FailedWriteRunAppDateVal	186	「アプリ起動日」の書き込みに失敗し	APIActivateRegist
ueFromFolder		ました。(フォルダ)	erInternet
			APIActivateRegist
			erTelephone
			APIActivateRemov
			eInternet APIActivateRemov
			eTelephone APIActivateStatus
			Check
			APIActivateStatus
			Check2
			APIGenerationOfN
			ewCertificationID
			APIGetRegisteredI
			nfoFromRegistry
			APIProxyActivateR
			egisterFix
			APIProxyActivateR
			egisterPrepare
	<u> </u>		ogistoi Fi chai c

# *NEWTONE*

		APIProxyActivateR
		emovePrepare
		APIRestoreCancel
		Status
		APIRestoreRegiste
		rStatus
		APIUpdateOfExpira
		tionDate
		APIPreparationOfP
		roxyUpdateOfExpir
		ationDate
		<b>APIDetermination</b>
		OfProxyUpdateOfE
		xpirationDate
		<b>APIActivateStatus</b>
		CheckOnline
		APIGetRegisteredI
		nfoFromRegistry2
9999	その他エラー	

# APICertificationID プロパティ

# 【機能】

認証 ID を取得します。(取得専用)

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APICertificationID As String

#### <C#>

public string APICertificationID { get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APICertificationID

# 【解説】

認証 ID を取得します。(取得専用)

次のメソッドを実行すると当プロパティ(APICertificationID プロパティ)に()内の各値が設定されます。

- APIGenerationOfNewCertificationID メソッド(新しく生成された認証 ID)
- ■APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド(認証登録済みの認証 ID)
- ・APIGetProxyDataForRegister メソッド(代理認証登録データから取得した認証 ID)
- APIGetProxyDataForRemove メソッド(代理認証解除データから取得した認証 ID)

# APICurrentExpirationDate プロパティ

# 【機能】

現在の有効期限を取得します。(取得専用)

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APICurrentExpirationDate As String

#### <C#>

public string APICurrentExpirationDate { get; }

# <VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APICurrentExpirationDate

# 【解説】

現在の有効期限を取得します。(取得専用)

次のメソッドの成功時のみ、当プロパティに値が設定されます。

・APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド(レジストリからの証登録済み情報の取得)

当プロパティの値を利用するメソッドは次の通りです。

• APIUpdateOfExpirationDate メソッド(「有効期限の更新」を実行)

# APIEncryptionPassword プロパティ

# 【機能】

暗号化時のパスワードを設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIEncryptionPassword As String

<C#>

public string APIEncryptionPassword { set; get; }

**<VC++>** 

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIEncryptionPassword

# 【解説】

認証 UI ライブラリ(DLL)はエンドユーザ PC のレジストリやファイルにデータを出力する際に必要に応じてデータを暗号化しています。その際の暗号化の方法は貴社では指定できませんが、暗号化する時の 2 つのパラメータ、パスワードと Salt 文字列は貴社で指定できます。

当プロパティには暗号化時のパスワードを指定します。全角でも指定できます。

(例)"認証レスキュー!"

当プロパティの文字数は、空文字列は不可で 1~65535 文字ですが、8 文字から 15 文字程度が妥当と思われます。

# APIEncryptionSaltString プロパティ

# 【機能】

暗号化時の Salt 文字列(8 文字以上)を設定します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIEncryptionSaltString As String

<C#>

public string APIEncryptionSaltString { set; get; }

<VC++>

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIEncryptionSaltString

# 【解説】

認証 UI ライブラリ(DLL)はエンドユーザ PC のレジストリやファイルにデータを出力する際に必要に応じてデータを暗号化しています。その際の暗号化の方法は貴社では指定できませんが、暗号化する時の 2 つのパラメータ、パスワードと Salt 文字列は貴社で指定できます。

当プロパティには暗号化時の Salt 文字列を指定します。 必ず 8 文字以上で指定します。 (例)"12345678ABCDEFGH"

# APIErrorStatus プロパティ

# 【機能】

API 系のメソッドを使用した際のエラーの内容を返します。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public ReadOnly Property **APIErrorStatus** As **Integer** 

<VB6.0>

Public ReadOnly Property APIErrorStatus As Long

<C#>

public int APIErrorStatus { get; }

<VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIErrorStatus

# 【解説】

API 系のメソッドは戻り値として正常(True)かエラー(False)を返しますが、この APIErrorStatus プロパティはそのエラーの内容を <u>APIError 列挙体</u>の参照で返します。この APIErrorStatus プロパティは取得専用です。

# APIExternalLinkKey プロパティ

### 【機能】

APIGetProductIdSerialNoList メソッド 実行時の外部データベースとのリンク用キー項目を設定します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIExternalLinkKey As String

#### <C#>

public string APIExternalLinkKey { set; get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIExternalLinkKey

### 【解説】

認証レスキュー!の ActivationKey テーブルよりプロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙を取得する APIGetProductIdSerialNoList メソッドの実行時に、外部データベースとのリンク用キー項目を当プロパティ(APIExternalLinkKey プロパティ)設定します。

認証レスキュー!とは別の外部データベースとのリンク用キーを当プロパティ(APIExternalLinkKey プロパティ)に設定し、APIGetProductIdSerialNoList メソッドを実行すると、認証レスキュー!のデータベースの ActivationKey テーブルより該当するプロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙をデリミタ付きで APIProductIdSerialNoList プロパティに設定して返します。

# APINewExpirationDate プロパティ

# 【機能】

新しい有効期限を取得します。(取得専用)

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APINewExpirationDate As String

#### <C#>

public string APINewExpirationDate { get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APINewExpirationDate

# 【解説】

新しい有効期限を取得します。(取得専用)

次のメソッドの成功時のみ、当プロパティに値が設定されます。

- ・APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド(代理有効期限取得データの取得)
- ・APIGetProxyUpdateOfExpirationDate メソッド(「代理有効期限/取得」を実行(代理 PC で利用))

当プロパティの値を利用するメソッドは次の通りです。

・APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド(「代理有効期限更新/確定」を実行)

# APIFreeItem1~5プロパティ

### 【機能】

APIGetFreeItem メソッドを実行して ActivationKey テーブルより取得した自由入力項目の値が当プロパティ(APIFreeItem1~APIFreeItem5プロパティ)に設定されます。(取得専用)

# 【構文】

```
<VB2010/VB6.0>
```

```
Public Property APIFreeItem1 As String
Public Property APIFreeItem2 As String
Public Property APIFreeItem3 As String
Public Property APIFreeItem4 As String
Public Property APIFreeItem5 As String
```

#### <C#>

```
public string APIFreeItem1 { get; }
public string APIFreeItem2 { get; }
public string APIFreeItem3 { get; }
public string APIFreeItem4 { get; }
public string APIFreeItem5 { get; }
```

#### **<VC++>**

```
public : _bstr_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIFreeItem1

public : _bstr_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIFreeItem2

public : _bstr_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIFreeItem3

public : _bstr_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIFreeItem4

public : _bstr_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIFreeItem5
```

### 【解説】

APIGetFreeItem メソッドを実行して ActivationKey テーブルより取得した自由入力項目の値が当プロパティ(APIFreeItem1~APIFreeItem5 プロパティ)に設定されます。

# APILicenseKey プロパティ

# 【機能】

ライセンスキーを設定・取得します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APILicenseKey As String

# <C#>

public string APILicenseKey { set; get; }

# <VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APILicenseKey

# 【解説】

ライセンスキーを設定・取得します。

次のメソッドを実行すると当プロパティ(APILicenseKey プロパティ)に()内の値が設定されます。
・APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド(認証登録済みのライセンスキー)

# APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate プロパティ

# 【機能】

「有効期限の更新」(APIUpdateOfExpirationDate)メソッドを実行する際に、データベース上の新しい有効期限が現在のエンドユーザ PC のレジストリ内有効期限が同じか古い場合の対応を設定します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate As Boolean

<C#>

public bool APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate { set; get; }

<VC++>

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

**APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate** 

# 【解説】

当プロパティには次のいづれか値を設定します。

True:新しい有効期限が現在と同じか古い場合でも更新します。 False:新しい有効期限が現在と同じか古い場合は更新しません。

「有効期限の更新」の実行については、APIUpdateOfExpirationDate」メソッドをご覧ください。

# APIProductID プロパティ

# 【機能】

プロダクト ID を設定・取得します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIProductID As String

#### <C#>

public string APIProductID { set; get; }

# <VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProductID

# 【解説】

プロダクト ID を設定・取得します。

次のメソッドを実行すると当プロパティ(APIProductID プロパティ)に()内の各値が設定されます。

- APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド(認証登録済みのプロダクト ID)
- APIGetProxyDataForRegister メソッド(代理認証登録データから取得したプロダクト ID)
- ・APIGetProxyDataForRemove メソッド(代理認証解除データから取得したプロダクト ID)

# APIProductIdSerialNoList プロパティ

### 【機能】

APIGetProductIdSerialNoList メソッド実行後にプロダクトIDとシリアル No.のペアをデリミタで列挙したの文字列が設定されます。(取得専用)

# 【構文】

**<VB2010/VB6.0>** 

Public Property APIProductIdSerialNoList As String

#### <C#>

public string APIProductIdSerialNoList { get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProductIdSerialNoList

### 【解説】

APIGetProductIdSerialNoList メソッド実行後にプロダクト ID とシリアル No.のペアをデリミタで列挙した文字列が当プロパティ(APIProductIdSerialNoList プロパティ)設定されます。

認証レスキュー!とは別の外部データベースとのリンク用キーを APIExternalLinkKey プロパティに設定し、APIGetProductIdSerialNoList メソッドを実行すると、認証レスキュー!のデータベースの A ctivationKey テーブルより該当するプロダクトID とシリアル No.のペア文字列の列挙をデリミタ付きで当プロパティ(APIProductIdSerialNoList プロパティ)に設定して返します。

プロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙は、たとえば次のような文字列です。 デリミタはカンマ(, )です。

1111-1111-1111,aaaa1111,22222-2222-2222,bbbb2222,33333-33333-33333,cccc3333

この例では次の3組のプロダクトID とシリアル No.が返されました。

プロダクト ID ="11111-11111" シリアル No.="aaaa1111"

プロダクト ID ="22222-22222-22222" シリアル No.="bbbb2222"

プロダクト ID ="33333-33333-33333" シリアル No.="cccc33333"

# APIProxyDataPath プロパティ

### 【機能】

代理認証データパスを設定・取得します。 (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIProxyDataPath As String

### <C#>

public string APIProxyDataPath { set; get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProxyDataPath

### 【解説】

代理認証データパスを設定・取得します。ファイルの拡張子は「.NRS」とします。 当プロパティを利用するメソッドは次の通りです。

- ・APIGetProxyDataForRegister メソッド(代理認証登録データの取得)
- APIGetProxyDataForRemove メソッド(代理認証解除データの取得)
- APIProxyActivateRegisterExecute メソッド(代理認証登録/実行)
- ・APIProxyActivateRegisterFix メソッド(代理認証登録/確定)
- ・APIProxyActivateRegisterPrepare メソッド(代理認証登録/準備)
- APIProxyActivateRemoveExecute メソッド(代理認証解除/実行)
- APIProxyActivateRemovePrepare メソッド(代理認証解除/準備)

### APIProxyServerAddress プロパティ

### 【機能】

プロキシサーバーのアドレスを設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIProxyServerAddress As String

#### **<C#>**

public string APIProxyServerAddress { set; get; }

### **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProxyServerAddress

# 【解説】

プロキシサーバーのアドレスを設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- ・APIProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス) → **当プロパティ**
- APIProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- APIProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- APIProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- APIActivateRegisterInternet メソッド(インターネットによる認証登録を実行)
- APIActivateRemoveInternet メソッド(インターネットによる認証解除を実行)
- APIProxyActivateRegisterExecute メソッド(代理認証登録/実行)
- APIProxyActivateRemoveExecute メソッド(代理認証解除/実行)
- ■APIRestoreRegisterStatus メソッド(認証登録状態回復)
- APIRestore Cancel Status メソッド (認証解除状態回復)
- APIUpdateOfExpirationDate メソッド(有効期限の更新)

### APIProxyServerPassword プロパティ

### 【機能】

プロキシサーバーのパスワードを設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIProxyServerPassword As String

#### **<C#>**

public string APIProxyServerPassword { set; get; }

### **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProxyServerPassword

# 【解説】

プロキシサーバーのパスワードを設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- APIProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- APIProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- <u>APIProxyServerPassword</u>プロパティ(プロキシサーバーのパスワード) → **当プロパティ**

- APIActivateRegisterInternet メソッド(インターネットによる認証登録を実行)
- APIActivateRemoveInternet メソッド(インターネットによる認証解除を実行)
- ・APIProxyActivateRegisterExecute メソッド(代理認証登録/実行)
- APIProxyActivateRemoveExecute メソッド(代理認証解除/実行)
- ■APIRestoreRegisterStatus メソッド(認証登録状態回復)
- APIRestore Cancel Status メソッド (認証解除状態回復)
- APIUpdateOfExpirationDate メソッド(有効期限の更新)

# APIProxyServerPort プロパティ

### 【機能】

プロキシサーバーのポートを設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIProxyServerPort As String

#### **<C#>**

public string APIProxyServerPort { set; get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProxyServerPort

### 【解説】

プロキシサーバーのポートを設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- ・APIProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート) → **当プロパティ**
- APIProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- APIProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- APIActivateRegisterInternet メソッド(インターネットによる認証登録を実行)
- APIActivateRemoveInternet メソッド(インターネットによる認証解除を実行)
- APIProxyActivateRegisterExecute メソッド(代理認証登録/実行)
- APIProxyActivateRemoveExecute メソッド(代理認証解除/実行)
- ■APIRestoreRegisterStatus メソッド(認証登録状態回復)
- APIRestore Cancel Status メソッド (認証解除状態回復)
- APIUpdateOfExpirationDate メソッド(有効期限の更新)

### APIProxyServerUserName プロパティ

### 【機能】

プロキシサーバーのユーザ名を設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIProxyServerUserName As String

#### **<C#>**

public string APIProxyServerUserName { set; get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProxyServerUserName

# 【解説】

プロキシサーバーのユーザ名を設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- APIProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- ・APIProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)→**当プロパティ**
- APIProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- APIActivateRegisterInternet メソッド(インターネットによる認証登録を実行)
- APIActivateRemoveInternet メソッド(インターネットによる認証解除を実行)
- APIProxyActivateRegisterExecute メソッド(代理認証登録/実行)
- APIProxyActivateRemoveExecute メソッド(代理認証解除/実行)
- ■APIRestoreRegisterStatus メソッド(認証登録状態回復)
- APIRestore Cancel Status メソッド (認証解除状態回復)
- APIUpdateOfExpirationDate メソッド(有効期限の更新)

# APIReleaseKey プロパティ

# 【機能】

解除キーを設定・取得します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIReleaseKey As String

<C#>

public string APIReleaseKey { set; get; }

<VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIReleaseKey

# 【解説】

解除キーを設定・取得します。

当プロパティは、電話による認証解除メソッド(<u>APIActivateRemoveTelephone</u> メソッド)で使用します。

解除キーは通常、たとえば"956-11749-60711"といったハイフン付きの数字列です。

# APIReleaseStatus プロパティ

# 【機能】

解除ステータスを取得します。(取得専用)

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIReleaseStatus As String

<C#>

public string APIReleaseStatus { get; }

<VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIReleaseStatus

# 【解説】

解除ステータスを取得します。(取得専用)

当プロパティは、電話による認証解除メソッド(<u>APIActivateRemoveTelephone</u> メソッド)の実行が成功した場合のみ自動的に設定されます。

解除ステータスは通常、たとえば"162-20797-49245"といったハイフン付きの数字列です。

### APIRentalPeriod プロパティ

# 【機能】

レンタル日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100)を設定します。

# 【構文】

### **<VB2010>**

Public Property APIRentalPeriod As Integer

#### <VB6.0>

Public Property APIRentalPeriod As Long

#### <C#>

public int APIRentalPeriod { set; get; }

# **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIRentalPeriod

# 【解説】

エンドユーザが初めて認証してからアプリケーションが動作する期間を指定します。 1(日)~1100(日)の間で設定できます。 当プロパティを 0 に設定すると、レンタル期間は無いことになります。

※お客様のパッケージ製品にマルチライセンス(例:10 ライセンス)が含まれる場合はレンタル機能は使用できません。レンタル機能を使用するにはシングルライセンス(1 ライセンス)の製品である必要があります。また、レンタル機能を使用する場合は「電話で認証登録」機能は利用できません。

# APISelectRunAppDatePathFlag プロパティ

# 【機能】

「アプリ起動日」の読み込み/書き込み場所の切り替えフラグを設定します。
APIActivateStatusCheckOnline2 メソッドで使用されます。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APISelectRunAppDatePathFlag As Integer

<VB6.0>

Public Property APISelectRunAppDatePathFlag As Long

<C#>

public int APISelectRunAppDatePathFlag { set; get; }

**<VC++>** 

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APISelectRunAppDatePathFlag

### 【解説】

このプロパティ値により「アプリ起動日」の読み込み/書き込み場所を切り替えます。

0 を指定した場合: HKEY\_CURRENT\_USER(レジストリ)

1を指定した場合: ProgramData(フォルダ)

APIActivateStatusCheck2 メソッドと APIActivateStatusCheckOnline2 メソッドで使用されます。

# APISerialNo プロパティ

# 【機能】

シリアル No.を設定・取得します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APISerialNo As String

### <C#>

public string APISerialNo { set; get; }

# <VC++>

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APISerialNo

# 【解説】

シリアル No.を設定・取得します。

次のメソッドを実行すると当プロパティ(APIProductID プロパティ)に()内の各値が設定されます。

- APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド(認証登録済みのシリアル No.)
- APIGetProxyDataForRegister メソッド(代理認証登録データから取得したシリアル No.)
- ・APIGetProxyDataForRemove メソッド(代理認証解除データから取得したシリアル No.)

# APITrialPeriod プロパティ

# 【機能】

猶予(試用)日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~365)を設定します。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property **APITrialPeriod** As **Integer** 

<VB6.0>

Public Property APITrialPeriod As Long

<C#>

public int APITrialPeriod { set; get; }

<VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APITrialPeriod

# 【解説】

エンドユーザがライセンス認証登録をしなくてもアプリケーションが動作する期間を指定します。 1(日)~365(日)の間で設定できます。

当プロパティを 0 に設定すると、猶予期間は無いことになり、ライセンス認証登録をしない限りアプリケーション(またはアプリケーションの主機能など)が動作しないようにできます。

### APIUseCpuInfo プロパティ

### 【機能】

CPU 情報の使用(デフォルト: True)を設定します。

次の3つのメソッドの処理において、認証情報とエンドユーザ PC 内の CPU 情報とを照合するかどうかを設定します。

- ・APIActivateStatusCheck メソッド(エンドユーザ PC 内での認証状態の確認)
- ・APIActivateStatusCheckOnline メソッド(オンラインで認証状態の確認)
- ・APIRestoreRegisterStatus メソッド(「認証登録状態回復」処理の実行)

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIUseCpuInfo As Boolean

#### <C#>

public bool APIUseCpuInfo { set; get; }

#### <VC++>

public: VARIANT BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIUseCpuInfo

### 【解説】

認証レスキュー!の認証 UI ライブラリでは、認証登録など各処理時にエンドユーザ PC の CPU 情報を記録します。当プロパティを True にするとエンドユーザ PC の CPU 情報を認証識別情報として利用します。これを利用することでエンドユーザ PC の不正利用時の認証識別情報の精度を上げます。

※<u>APIRestoreRegisterStatus</u>メソッド(「認証登録状態回復」処理の実行)を使用する際は、当プロパティを必ず True に設定してください。

### APIUseMacAddress プロパティ

### 【機能】

MAC アドレスの使用(デフォルト: True)を設定します。

次の3つのメソッドの処理において、認証情報とエンドユーザ PC 内の MAC アドレスとを照合するかどうかを設定します。

- ・APIActivateStatusCheck メソッド(エンドューザ PC 内での認証状態の確認)
- ・APIActivateStatusCheckOnline メソッド(オンラインで認証状態の確認)
- ・APIRestoreRegisterStatus メソッド(「認証登録状態回復」処理の実行)

### 【構文】

### <VB2010/VB6.0>

Public Property APIUseMacAddress As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIUseMacAddress { set; get; }

#### <VC++>

public: VARIANT BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIUseMacAddress

# 【解説】

認証レスキュー!の認証 UI ライブラリでは、認証登録など各処理時にエンドユーザ PC の MAC アドレスを最大で 5 個記録します。MAC アドレスは LAN ポートなどのネットワーク機器に固有な物理アドレスです。MAC アドレスは、たとえば"E840F260C430"といった文字列です

当プロパティを True にするとエンドユーザ PC の MAC アドレスを認証識別情報として利用します。 これを利用することでエンドユーザ PC の不正利用時の認証識別情報の精度を上げます。

※<u>APIRestoreRegisterStatus</u>メソッド(「認証登録状態回復」処理の実行)を使用する際は、当プロパティを必ず True に設定してください。

### APIUseProxyServer プロパティ

### 【機能】

プロキシサーバーの使用区分(デフォルト: False)を設定します。

# 【構文】

### <VB2010/VB6.0>

Public Property APIUseProxyServer As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIUseProxyServer { set; get; }

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIUseProxyServer

# 【解説】

プロキシサーバーの使用区分(デフォルト: False)を設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。

プロキシサーバーを使用する場合は当プロパティに True を、使用しない場合は False をそれぞれ設定します。

プロキシサーバーを使用する場合は、次のプロパティに適切な設定が必要です。

- <u>APIProxyServerAddress</u> プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- APIProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- APIProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- APIProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

プロキシサーバーを使用する場合、当プロパティの値を利用するメソッドは次の通りです。

- APIActivateRegisterInternet メソッド(インターネットによる認証登録を実行)
- APIActivateRemoveInternet メソッド(インターネットによる認証解除を実行)
- ・APIProxyActivateRegisterExecute メソッド(代理認証登録/実行)
- APIProxyActivateRemoveExecute メソッド(代理認証解除/実行)
- APIRestore Register Status メソッド(認証登録状態回復)
- APIRestore Cancel Status メソッド (認証解除状態回復)
- APIUpdateOfExpirationDate メソッド(有効期限の更新)

# APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ

### 【機能】

ベンダアプリケーション開始レジストリキーパスを設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIVendorsProductStartRegistryKeyPath As String

**<C#>** 

public string APIVendorsProductStartRegistryKeyPath { set; get; }

**<VC++>** 

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath

# 【解説】

エンドユーザに配布したアプリケーションが認証 UI ライブラリ(DLL)の機能を使う場合、その各種情報の記録先として使うエンドユーザ PC 上のレジストリの開始キーのパスを当プロパティに指定します。レジストリ内の「HKEY\_LOCAL\_MACHINE」以降を指定します。

(例)"Software\Newtone\NinshoRescue\NR-200\SampleProject"

なお、物理的なレジストリの位置は動作する貴社のアプリケーションが32bitなのか64bitなのかと、動作するPCのOSが32bitなのか64bitなのかによって異なります。

たとえば、HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥ABCというレジストリパスは次のようになります。 32bitOS上で32bitアプリケーションが動作する場合、または64bitOS上で64bitアプリケーションが動作する場合は、

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ABC

そのままです。

しかし、64bitOS上で32bitアプリケーションが動作する場合は、

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ABC となります。

また、貴社の異なる複数のアプリケーションをエンドユーザの同一PC上で使用させるには、当プロパティにアプリケーションごとのそれぞれ異なるレジストリパスを設定してください。たとえば、次のように設定します。

アプリケーションA内での設定コード例:

APIV endors Product Start Registry Key Path = "Software \* Company \* A"

アプリケーションB内での設定コード例:

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath = "Software¥Company¥B"

# APIWebServiceBasicAuthenticationPassword プロパティ

# 【機能】

Web サービス時の基本認証パスワードを設定します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIWebServiceBasicAuthenticationPassword As String

<C#>

public string APIWebServiceBasicAuthenticationPassword { set; get; }

**<VC++>** 

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIWebServiceBasicAuthenticationPassword

# 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合に、そのパスワードを指定します。 基本認証に関しては、APIWebServiceUseBasicAuthentication プロパティを参照してください。

# APIWebServiceBasicAuthenticationUserName プロパティ

# 【機能】

Web サービス時の基本認証ユーザ名を設定します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIWebServiceBasicAuthenticationUserName As String

<C#>

public string APIWebServiceBasicAuthenticationUserName { set; get; }

**<VC++>** 

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation::

**APIWebServiceBasicAuthenticationUserName** 

# 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合に、そのユーザ名を指定します。 基本認証に関しては、APIWebServiceUseBasicAuthentication プロパティを参照してください。

### APIWebServiceCheckPassword プロパティ

# 【機能】

Web サービス確認パスワード(8 文字以上)を設定します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIWebServiceCheckPassword As String

#### **<C#>**

public string APIWebServiceCheckPassword { set; get; }

### **<VC++>**

public: \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIWebServiceCheckPassword

### 【解説】

Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。ここでは、Web サーバー側設定アプリケーション「認証 Web サービス」の環境設定処理の Web サービスの確認パスワードと同じものを設定します。

確認パスワードは必須項目です、省略はできません。8 文字以上で半角の次の文字が使用できます。

- 大文字の英字(A~Z)
- ·小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=¥@<>?)

# APIWebServiceTimeout プロパティ

# 【機能】

Web サービスのタイムアウト(デフォルト: 60 秒)を設定します。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIWebServiceTimeout As Integer

<VB6.0>

Public Property APIWebServiceTimeout As Long

<C#>

public int APIWebServiceTimeout { set; get; }

<VC++>

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIWebServiceTimeout

# 【解説】

Web サービスに接続して応答を待つ最大時間を秒単位で指定します。初期値は 60 秒です。

### APIWebServiceURL プロパティ

### 【機能】

Web サービスの URL を設定します。

### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIWebServiceURL As String

#### <C#>

public string APIWebServiceURL { set; get; }

#### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIWebServiceURL

# 【解説】

認証に関するシステムを Web サービスとして提供する Web サーバーの URL を指定します。 以下に例を示します。

自 PC のローカルホストの Web サーバー(IIS)にアクセスする例:

"http://localhost/Nr2WebService/Service.asmx"

(注)この例は実際の運用ではありえません。貴社のアプリケーションで認証 UI ライブラリ(DLL)を使用した開発時に、テスト用に使用される URL です。

自社 Web サーバー(IIS)にアクセスさせる例:

"http://www.newtone.co.jp/Nr2WebService/Service.asmx"

クラウドサービス Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)に配置した Web サービスを利用する例:

"http://newtonecojp.azurewebsites.net/Service.asmx"

### APIWebServiceUseBasicAuthentication プロパティ

### 【機能】

Web サービス時の基本認証の使用(デフォルト: False)を設定します。

#### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Property APIWebServiceUseBasicAuthentication As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIWebServiceUseBasicAuthentication { set; get; }

### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

**APIWebServiceUseBasicAuthentication** 

### 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合は、当プロパティを True にします。 初期値は、False(基本認証を使用しない)です。

当プロパティは、Web サーバー(IIS)側で特定のアカウント(ユーザ名とパスワード)でアクセスできるフォルダにこの Web サービスが配置してある場合に使用できるセキュリティ設定です。

Web サーバーで基本認証を使用する一般的な手順は次の通りです。

- 1.サーバーPC 上でユーザを作成。
  - この際のユーザ名とパスワードがそのまま基本認証に使われます。
- 2.基本認証フォルダのセキュリティ設定

フォルダのプロパティを開き、セキュリティタブで上記 1 のユーザ名を 追加し、「読み取り」権限を付与します。

3.IIS でのセキュリティ設定

IIS で該当フォルダに対し「認証」の設定で「匿名認証」を無効にして 「基本認証」を有効にします。

なお、Webサーバーでの基本認証の詳細につきましてはマイクロソフト社の関連ドキュメントをご覧ください。

# <API 系メソッド>

# メソッド一覧

メソッド	機能
<u>APIActivateRegisterInternet</u>	インターネットによる認証登録の実行
<u>APIActivateRegisterTelephone</u>	電話による認証登録の実行
APIActivateRemoveInternet	インターネットによる認証解除の実行
APIActivateRemoveTelephone	電話による認証解除の実行
<u>APIActivateStatusCheck</u>	エンドユーザ PC 内での認証状態の確認
APIActivateStatusCheck2	エンドユーザ PC 内での認証状態の確認(Windows の管
	理者でなくても実行可能)
APIActivateStatusCheckOnline	オンラインで認証状態の確認
APIActivateStatusCheckOnline2	オンラインで認証状態の確認(Windows の管理者でなく
	ても実行可能)
<u>APIDeterminationOfProxyUpdateOfExp</u>	「代理有効期限更新/確定」処理の実行
<u>irationDate</u>	
<u>APIGenerationOfNewCertificationID</u>	新規認証 ID の生成
APIGetFreeItem	プロダクト ID とシリアル No.を指定して、ActivationKey テ
	一ブルより自由入力項目を取得
<u>APIGetProductIdSerialNoList</u>	外部データベースとのリンク用キー項目を指定し
	ActivationKey テーブルよりプロダクト ID とシリアル No.
	のペア文字列の列挙を取得
<u>APIGetProxyDataForExpirationDate</u>	代理有効期限取得データの取得
<u>APIGetProxyDataForRegister</u>	代理認証登録データの取得
<u>APIGetProxyDataForRemove</u>	代理認証解除データの取得
<u>APIGetProxyUpdateOfExpirationDate</u>	「代理有効期限/取得」処理の実行(代理 PC で利用)
APIGetRegisteredInfoFromRegistry	(レジストリからの)認証登録済み情報の取得
APIGetRegisteredInfoFromRegistry2	(レジストリからの)認証登録済み情報の取得(Windows
	の管理者でなくても実行可能)
<u>APIGetRegisteredInfoFromWeb</u>	インターネットを使用して ActivationKeyTable から「ライセ
	ンス数」「有効期限の利用」「有効期限」を、
	ActivationDataTable から「認証 ID」「認証日時(作成日)」
100	を取得します。
<u>APIPreparationOfProxyUpdateOfExpir</u>	「代理有効期限取得/準備」処理の実行
ationDate	「仏田到許多名/中午・加田の中午/仏田 DO 不利田)
APIP A A Time to Provide Time	「代理認証登録/実行」処理の実行(代理 PC で利用)
APIP A A Time Provide	「代理認証登録/確定」処理の実行
APIP A A Time Property APIP APIP A Time Property APIP APIP A Time Property APIP APIP APIP APIP APIP APIP APIP API	「代理認証登録/準備」処理の実行
APIProxyActivateRemoveExecute	「代理認証解除/実行」処理の実行(代理 PC で利用)
APIPoodProvySon or InfoFromPoristry	「代理認証解除/準備」処理の実行 レジストリからプロキシサーバーの情報を取得
APIReadProxyServerInfoFromRegistry	レンストリからプロキンサーバーの情報を取停
APIRestoreCancelStatus APIRestorePeristorStatus	「認証登録状態回復」処理の実行
APIRestoreRegisterStatus	
APIRunNR2AppDateRemove	「アプリ起動日」を削除
APITuialStartPataParana	「アプリ起動日」を削除
APII In data Officialistics Data	「猶予日数」の「開始日」を削除
APIWit Processor Info To Provide	有効期限更新の実行
<u>APIWriteProxyServerInfoToRegistry</u>	レジストリヘプロキシサーバーの情報を書き込み

# *NEWTONE*

# APIActivateRegisterInternet メソッド

# 【機能】

インターネットによる認証登録を実行します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIActivateRegisterInternet() As Boolean

### <C#>

public bool APIActivateRegisterInternet()

# **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIActivateRegisterInternet()

# 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容	
UI	<u>APICertificationID</u>	(認証登録する)認証 ID(取得専	7用)。
		新規認証 ID 生成メソッド	
		(APIGenerationOfNewCertificat	tionID メソ
		ッド)の実行により、新しい認証	ID が当プ
		ロパティに設定されます。	
UI	APIProductID	(認証登録する)プロダクト ID	
UI	APISerialNo	(認証登録する)シリアル No.	
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
UI	<u>APIProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレス	プロキシ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	サーバー
UI	<u>APIProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
		_ド	
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数(0:レンタル期間なし)	
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)	
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分	

Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワード
		(基本認証使用時)
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基
		本認証使用時)
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分

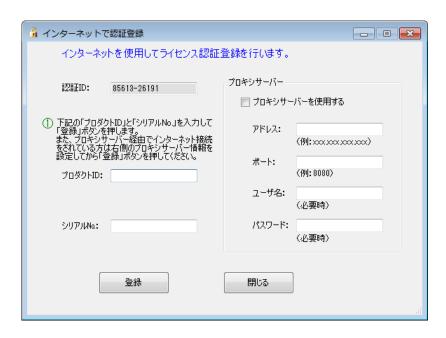
<sup>※</sup>設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

インターネットによる認証登録を実行します。

#### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」は、新規認証 ID 生成メソッド(APIGenerationOfNewCertificationID メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)で取得できます。

# ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]新規認証 ID 生成メソッド(APIGenerationOfNewCertificationID メソッド)を実行します。 これにより、認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)に新しい認証 ID が設定されます。 その内容を画面に表示します。この内容表示そのものは必須ではありません。
- [2]プロダクト ID とシリアル No.をエンドユーザに画面より入力させ、プロダクト ID プロパティ (APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ設定します。あるいは、別の方法で結果としてプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ認証登録するプロダクト ID とシリアル No. を設定します。

- [3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [4] 上記の「想定 UI 画面」の「登録」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIActivateRegisterInternet メソッド)を実行します。

# APIActivateRegisterTelephone メソッド

# 【機能】

電話による認証登録を実行します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIActivateRegisterTelephone() As Boolean

### <C#>

public bool APIActivateRegisterTelephone()

**<VC++>** 

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIActivateRegisterTelephone()

# 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APICertificationID</u>	(認証登録する)認証 ID(取得専用)。
		新規認証 ID 生成メソッド
		(APIGenerationOfNewCertificationID メソ
		ッド)の実行により、新しい認証 ID が当プ
		ロパティに設定されます。
UI	APIProductID	(認証登録する)プロダクト ID
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証登録する)シリアル No.
UI	APILicenseKey	ライセンスキー
		(貴社電話担当者より告げられたライセン
		スキーを設定)
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワード
		(基本認証使用時)
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基
		本認証使用時)
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト
Code	<u>APIWebServiceURL</u>	Web サービスの URL
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分

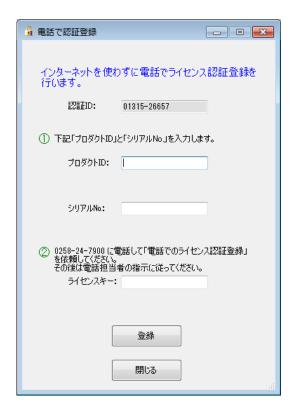
<sup>※</sup>設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

電話による認証登録を実行します。

### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」は、新規認証 ID 生成メソッド(APIGenerationOfNewCertificationID メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)で取得できます。

#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]新規認証 ID 生成メソッド(APIGenerationOfNewCertificationID メソッド)を実行します。 これにより、認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)に新しい認証 ID が設定されます。 その内容を画面に表示します。
- [2]プロダクト ID とシリアル No.をエンドユーザに画面より入力させ、プロダクト ID プロパティ (APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ設定します。あるいは、別の方法で結果としてプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ認証登録するプロダクト ID とシリアル No.

を設定します。

- [3]エンドユーザに貴社に電話をしてもらいます。貴社のオペレータより聞いたライセンスキーを画面より入力させ、その値をライセンスキープロパティ(APILicenseKey プロパティ)に設定します。
- [4]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [5] 上記の「想定 UI 画面」の「登録」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIActivateRegisterTelephone メソッド)を実行します。

# APIActivateRemoveInternet メソッド

# 【機能】

インターネットによる認証解除を実行します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIActivateRemoveInternet() As Boolean

### <C#>

public bool APIActivateRemoveInternet()

### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIActivateRemoveInternet()

# 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	機能
UI	APICertificationID	(登録解除する)認証 ID(取得専用)。 (レジストリからの)認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistryメソッド)の実行により、登録済みの認証 ID が 当プロパティに設定されます。
UI	APIProductID	(認証解除する)プロダクト ID (レジストリからの)認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッ ド)の実行により、登録済みのプロダクト ID が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証解除する)シリアル No. (レジストリからの)認証登録済み情報の取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行により、登録済みのシリアル No. が当プロパティに設定されます。
UI	APIUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分

UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアド	プロキシサー
		レス	バー使用時
UI	APIProxyServerPort	プロキシサーバーのポー	有効
		<b>F</b>	
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユー	
		ザ名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパス	
		ワード	
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数	
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数	
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分	
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分	
Code	APIVendorsProductStartRegistryKeyPath	ベンダアプリケーション開始	台レジストリキー
		パス	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認言	IIパスワード
Code	<u>APIWebServiceBasicAuthenticationUserNam</u>	Web サービス時の基本認言	Iユーザ名
	<u>e</u>		
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワー	- <b>ド</b>
Code	<u>APIWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウ	<u>-</u>
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL	
Code	APIWebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認言	正の使用区分

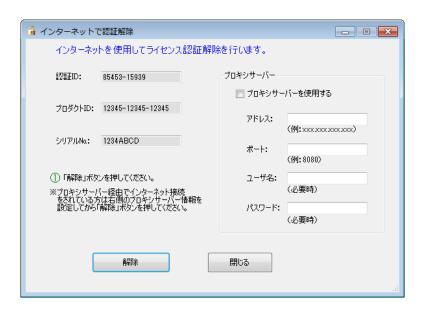
※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

# 【解説】

インターネットによる認証解除を実行します。

# ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」は、(レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ (APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)でそれぞれ取得できます。

# ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1](レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド) を実行します。これにより、認証 ID プロパティ、プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティに 各値が設定されます。
- [2]認証 ID プロパティ、プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティの各値を画面に表示します。
- [3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [4] 上記の「想定 UI 画面」の「解除」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIActivateRemoveInternet メソッド)を実行します。

# APIActivateRemoveTelephone メソッド

# 【機能】

電話による認証解除を実行します。

# 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIActivateRemoveTelephone() As Boolean

### <C#>

public bool APIActivateRemoveTelephone()

### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIActivateRemoveTelephone()

# 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、正常終了時には、解除ステータスプロパティ(APIReleaseStatus プロパティ)に解除ステータスが設定されます。

また、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	機能
UI	APICertificationID	(登録解除する)認証 ID(取得専用)。 (レジストリからの)認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソ ッド)の実行により、登録済みの認証 ID が 当プロパティに設定されます。
UI	APIProductID	(認証解除する)プロダクト ID (レジストリからの)認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソ ッド)の実行により、登録済みのプロダクト ID が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証解除する)シリアル No. (レジストリからの) 認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソ

		T
		ッド)の実行により、登録済みのシリアル
		No.が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APIReleaseKey</u>	解除キー
UI	APIReleaseStatus	解除ステータス(取得専用)
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIVendorsProductStartRegistryKeyPath	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワード
Code	$\underline{\sf APIWebServiceBasicAuthenticationUserName}$	Web サービス時の基本認証ユーザ名
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト
Code	<u>APIWebServiceURL</u>	Web サービスの URL
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分

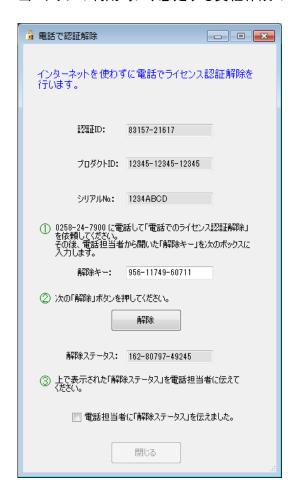
<sup>※</sup>設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

# 【解説】

電話による認証解除を実行します。

# ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」は、(レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ (APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)でそれぞれ取得できます。

この画面上の「解除キー」は、貴社オペレータより電話経由でエンドユーザが聞いて画面より入力した解除キーの値を解除キープロパティに設定します。

この画面上の「解除ステータス」は、当メソッド(APIActivateRemoveTelephone メソッド)の実行後の正常終了時に解除ステータスプロパティ(APIReleaseStatus プロパティ)で取得できます。

# ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1](レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド) を実行します。これにより、認証 ID プロパティ、プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティに 各値が設定されます。
- [2]認証 ID プロパティ、プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティの各値を画面に表示します。
- [3]解除キープロパティ(APIReleaseKey プロパティ)に、貴社オペレータより電話経由でエンドユーザが聞いて画面より入力した解除キーの値を設定します。
- [4]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [5] 上記の「想定 UI 画面」の「解除」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIActivateRemoveTelephoneメソッド)を実行します。
- [6] 当メソッド(APIActivateRemoveTelephone メソッド)の実行後、正常終了時には、解除ステータス プロパティ(APIReleaseStatus プロパティ)に解除ステータス(文字列)が設定されますので、エンド ユーザにその解除ステータスを電話で貴社のオペレータに伝えてもらいます。

### APIActivateStatusCheck メソッド

#### 【機能】

エンドユーザ PC 内での認証状態の確認を行います。

### 【構文】

# **<VB2010>**

Public Function APIActivateStatusCheck() As Integer

#### **<VB6.0>**

Public Function APIActivateStatusCheck() As Long

#### <C#>

public int APIActivateStatusCheck()

### **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIActivateStatusCheck()

# 【引数】

なし

### 【戻り値】

0: 猶予期限切れ(猶予有効時)

1~365: 猶予日数有

366: 日付データの取得失敗(猶予)

400: 未認証(猶予無効時)

500: 認証済み

1000: レンタル期限切れ(レンタル有効時)

1001~2100: レンタル残日数 1~1100(<u>戻値から 1000 を引いて使用する</u>)

2101: 日付データの取得失敗(レンタル) -999: 認証済ハードウェア情報不一致

-1: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

-21001231~-20000101:終了した有効期限(2000/01/01~2100/12/31)

-21001232: 日付データの取得失敗(有効期限) -3: PC の日付が変更されました。

20000101~21001231: まだ有効な有効期限(2000/01/01~2100/12/31)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

### 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)

Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

<sup>※</sup>設定区分:UI→主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code→主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

# 【解説】

この APIActivateStatusCheck メソッドと APIActivateStatusCheckOnline メソッドの相違点は APIActivateStatusCheck メソッドがエンドユーザ PC 内での認証状況を返すのに対し、APIActivateStatusCheckOnline メソッドはインターネットを介し貴社のデータベースにアクセスして取得した情報とエンドユーザ PC 内の情報とを照合して認証状況を返す点です。

### APIActivateStatusCheck2 メソッド

#### 【機能】

エンドユーザ PC 内での認証状態の確認を行います。

Windows の管理者でなくても実行可能です。

# 【構文】

### **<VB2010>**

Public Function APIActivateStatusCheck2() As Integer

### <VB6.0>

Public Function APIActivateStatusCheck2() As Long

### <C#>

public int APIActivateStatusCheck2()

#### **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIActivateStatusCheck2()

### 【引数】

なし

### 【戻り値】

0: 猶予期限切れ(猶予有効時)

1~365: 猶予日数有

366: 日付データの取得失敗(猶予)

400: 未認証(猶予無効時)

500: 認証済み

1000: レンタル期限切れ(レンタル有効時)

1001~2100: レンタル残日数 1~1100(**戻値から 1000 を引いて使用する**)

2101:日付データの取得失敗(レンタル)-999:認証済ハードウェア情報不一致

-1: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

-21001231~-20000101:終了した有効期限(2000/01/01~2100/12/31)

-21001232: 日付データの取得失敗(有効期限) -3: PC の日付が変更されました。

20000101~21001231: まだ有効な有効期限(2000/01/01~2100/12/31)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

### 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)

Code	<u>APISelectRunAppDatePathFlag</u>	「アプリ起動日」の読み込み/書き込み場
		所の切り替えフラグ
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

以下の機能以外は従来の APIActivate Status Check メソッドと同等です。

APISelectRunAppDatePathFlag プロパティ値による場所+従来の

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ値の場所に「アプリ起動日」の読み込み/書き込みを行います。

このメソッドは、ユーザ様からのご要望で追加されました。

認証レスキュー!2は、認証情報などをレジストリの

HKEY\_LOCAL\_MACHINE + APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ値の場所へ書き込み/読み込みを行っています。

APIRentalPeriod プロパティ(レンタル日数)あるいは、APITrialPeriod プロパティ(猶予(試用)日数)が 0 以上に設定されていて、このメソッドが初めて実行された場合、残日数を確認するための開始日をレジストリに書き込みます。

その後、残日数が切れるまではレジストリへの書き込み処理はありませんでした。

しかし、バージョン 2.6.2 以降は、故意に PC の日付が変更されることを防ぐために、このメソッドを起動する度にレジストリに情報を書き込むよう変更されました。

前出のユーザ様は、Windows の管理者でなくても認証状況を確認したいとのご要望で、この故意に PC の日付が変更されることを防ぐための書き込み部分のみ「HKEY\_CURRENT\_USER(レジストリ)」 あるいは「ProgramData(フォルダ)」へ書き込みを変更するため、このメソッドが追加されました。

### APIActivateStatusCheckOnline メソッド

#### 【機能】

オンラインで認証状態の確認を行います。

### 【構文】

# **<VB2010>**

Public Function APIActivateStatusCheckOnline() As Integer

#### **<VB6.0>**

Public Function APIActivateStatusCheckOnline() As Long

#### <C#>

public int APIActivateStatusCheckOnline()

#### **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIActivateStatusCheckOnline()

# 【引数】

なし

### 【戻り値】

0: PC レベルで認証されていない(PC のレジストリには認証登録情報がない)

1: OK(PC レベルと DB で認証登録情報が一致した)

2: NG(PC レベルと一致する認証登録情報が DB にない)

3: NG(認証済ハードウェア情報不一致)

4: NG(日付データの取得失敗(猶予))

5: NG(日付データの取得失敗(レンタル))

6: NG(日付データの取得失敗(有効期限))

-11: 接続できない(認証時は電話)

-12: 接続できない(認証時は代理)

-999: その他エラー(接続できないなど)

-1: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

-3: PC の日付が変更されました。

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

### 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	機能	
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキシ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	サーバー
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	

		18	
		<b>一ド</b>	
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)	
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)	
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分	
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分	
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ	
		ーパス	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワード	
		(基本認証使用時)	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基	
		本認証使用時)	
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト	
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL	
Code	APIWebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認証の使用区分	

※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

この APIActivateStatusCheckOnline メソッドと APIActivateStatusCheck メソッドとの相違点は APIActivateStatusCheck メソッドがエンドユーザ PC 内での認証状況を返すのに対し、APIActivateStatusCheckOnline メソッドはインターネットを介し貴社のデータベースにアクセスして取得した情報とエンドユーザ PC 内の情報とを照合して認証状況を返す点です。

この APIActivateStatusCheckOnline メソッドは、なんらかの理由で現在エンドユーザが使用している 貴社のアプリケーションを使用不可としたい場合などに利用できます。

通常の(レンタル期間がない)認証登録の場合、レジストリとハード情報だけの確認で OK となってしまい貴社がデータベース(DB)上の当該情報を削除してもエンドユーザの PC ではアプリケーションが継続して使用できてしまいます。そこで、任意のタイミングでインターネットを介し貴社のデータベースにアクセスしてそれらの情報を確認できる機能がこのメソッドです。貴社はたとえば、アプリケーションの起動時にそのメソッドを利用するコードを記述し、その戻り値によってアプリケーションを(強制的に)終了する、といった挙動を制御できます。

### APIActivateStatusCheckOnline2 メソッド

#### 【機能】

オンラインで認証状態の確認を行います。 Windows の管理者でなくても実行可能です。

# 【構文】

### **<VB2010>**

Public Function APIActivateStatusCheckOnline2() As Integer

### <VB6.0>

Public Function APIActivateStatusCheckOnline2() As Long

### <C#>

public int APIActivateStatusCheckOnline2()

#### **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIActivateStatusCheckOnline2()

### 【引数】

なし

# 【戻り値】

0: PC レベルで認証されていない(PC のレジストリには認証登録情報がない)

1: OK(PC レベルと DB で認証登録情報が一致した)

2: NG(PC レベルと一致する認証登録情報が DB にない)

3: NG(認証済ハードウェア情報不一致)

4: NG(日付データの取得失敗(猶予))

5: NG(日付データの取得失敗(レンタル))

6: NG(日付データの取得失敗(有効期限))

-11: 接続できない(認証時は電話)

-12: 接続できない(認証時は代理)

-999: その他エラー(接続できないなど)

**-1:** エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

-3: PC の日付が変更されました。

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	機能	
UI	APIUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキシ
UI	APIProxyServerPort	プロキシサーバーのポート	サーバー
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	

UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ
		_F
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス
Code	<u>APIWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワード
		(基本認証使用時)
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基
		本認証使用時)
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト
Code	<u>APIWebServiceURL</u>	Web サービスの URL
Code	APIWebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認証の使用区分

<sup>※</sup>設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

以下の機能以外は従来の APIActivateStatusCheckOnline メソッドと同等です。

APISelectRunAppDatePathFlag プロパティ値による場所+従来の

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ値の場所に「アプリ起動日」の読み込み/書き込みを行います。

このメソッドは、ユーザ様からのご要望で追加されました。

認証レスキュー!2は、認証情報などをレジストリの

HKEY\_LOCAL\_MACHINE + APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ値の場所へ書き込み/読み込みを行っています。

APIRentalPeriod プロパティ(レンタル日数)あるいは、APITrialPeriod プロパティ(猶予(試用)日数)が 0 以上に設定されていて、このメソッドが初めて実行された場合、残日数を確認するための開始日をレジストリに書き込みます。

その後、残日数が切れるまではレジストリへの書き込み処理はありませんでした。

しかし、バージョン 2.6.2 以降は、故意に PC の日付が変更されることを防ぐために、このメソッドを起動する度にレジストリに情報を書き込むよう変更されました。

前出のユーザ様は、Windows の管理者でなくても認証状況を確認したいとのご要望で、この故意に PC の日付が変更されることを防ぐための書き込み部分のみ「HKEY\_CURRENT\_USER(レジストリ)」 あるいは「ProgramData(フォルダ)」へ書き込みを変更するため、このメソッドが追加されました。

# APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド

# 【機能】

「代理有効期限更新/確定」を実行します。(有効期限を更新したい PC で利用)

# 【構文】

# <VB2010/VB6.0>

Public Function APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate () As Boolean

### <C#>

public bool APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate()

### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate ()

# 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	<ul><li>(有効期限を更新する)代理有効期限取得データのパス</li><li>ファイルの拡張子は「.NRS」です。</li></ul>
UI	APIProductID	(有効期限を更新する)プロダクト ID 代理有効期限取得データの読み込みメソッド (APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド) の実行により、代理有効期限取得データから 取得したプロダクト ID が当プロパティに設定されます。
UI	APISerialNo	(有効期限を更新する)シリアル No. 代理有効期限取得データの読み込みメソッド (APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド) の実行により、代理有効期限取得データから 取得したシリアル No.が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APICurrentExpirationDate</u>	(有効期限を更新する)現在の有効期限 代理有効期限取得データの読み込みメソッド (APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)

		の実行により、代理有効期限取得データから
		取得した現在の有効期限が当プロパティに設
		定されます。
UI	<u>APINewExpirationDate</u>	(有効期限を更新する)新しい有効期限.
		代理有効期限取得データの読み込みメソッド
		(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)
		の実行により、代理有効期限取得データから
		取得した新しい有効期限が当プロパティに設
		定されます。
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	APIUseCpuInfo	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIVendorsProductStartRegistryKeyPath	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパ
		ス 

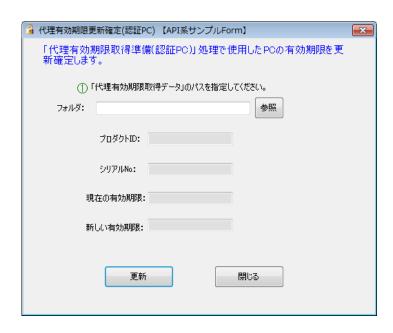
※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

「代理有効期限更新/確定」を実行します。(有効期限を更新したい PC で利用)

## ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「プロダクト ID」、「シリアル No.」、「現在の有効期限」、「新しい有効期限」は、代理有効期限取得データの取得メソッド(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)の実行で設定されるプロダクトIDプロパティ(APIProductIDプロパティ)、シリアル No.プロパティ(APISerialNo プロパティ)、現在の有効期限プロパティ(APICurrentExpirationDate プロパティ)、新しい有効期限プロパティ(APINewExpirationDate プロパティ)でそれぞれ取得できます。

## ◆処理手順

一連の処理の手順は次の通りです。

- [1] 代理有効期限取得データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理有効期限取得データパスプロパティ(APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2] 代理有効期限取得データの取得メソッド(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)を実行します。

これにより、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ (APISerialNo プロパティ)、現在の有効期限プロパティ(APICurrentExpirationDate プロパティ)、新しい有効期限プロパティ(APINewExpirationDate プロパティ)に代理有効期限取得データから取得したプロダクト ID、シリアル No.、現在の有効期限、新しい有効期限それぞれが設定されます。それらの内容を画面に表示します。この内容表示そのものは必須ではありません。

[3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。

★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。

[5] 上記の「想定 UI 画面」の「更新」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIDeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド)を実行します。

#### APIGenerationOfNewCertificationID メソッド

#### 【機能】

認証登録時に必要な、新しい認証 ID を生成します。

#### 【構文】

### <VB2010/VB6.0>

Public Function APIGenerationOfNewCertificationID() As Boolean

#### <C#>

public bool APIGenerationOfNewCertificationID()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIGenerationOfNewCertificationID()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

-※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

認証登録時に必要な、新しい認証 ID を生成します。

[1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)です。

[2]認証登録済みの場合は、当メソッドは失敗します。

# *NEWTONE*

[3]このメソッドの成功時のみ、認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)に新しく生成された 認証 ID が設定されます。

## APIGetFreeItem メソッド

## 【機能】

プロダクト ID とシリアル No.を指定して、ActivationKey テーブルより自由入力項目を取得します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetFreeItem () As Boolean

#### <C#>

public bool APIGetFreeItem ()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIGetFreeItem ()

# 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容	
UI	APIProductID	(認証登録する)プロダクト ID	
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証登録する)シリアル No.	
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレープロキシャ	ナ
		スーパー使用	Ħ
UI	APIProxyServerPort	プロキシサーバーのポート 時	
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユー	
		ザ名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパス	
		ワード	
Code	<u>APIWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワー	1,
		(基本認証使用時)	
Code	$\underline{\sf APIWebServiceBasicAuthenticationUserName}$	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基本	基
		本認証使用時)	
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	
Code	<u>APIWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト	
Code	<u>APIWebServiceURL</u>	Web サービスの URL	
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

# 【解説】

プロダクト ID とシリアル No.を指定して、ActivationKeyTable より自由入力項目を取得します。 当メソッド(APIGetFreeItem メソッド)実行後、APIFreeItem1~APIFreeItem5 プロパティに値が設定されます。

### APIGetProductIdSerialNoList メソッド

#### 【機能】

外部データベースとのリンク用キー項目を指定し ActivationKey テーブルよりプロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙を取得します。

# 【構文】

#### **<VB2010>**

Public Function APIGetProductIdSerialNoList () As Integer

#### <VB6.0>

Public Function APIGetProductIdSerialNoList () As Long

### <C#>

public int APIGetProductIdSerialNoList ()

#### **<VC++>**

public: long NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIGetProductIdSerialNoList ()

## 【引数】

なし

# 【戻り値】

取得したプロダクト ID とシリアル No.のペアリングの数。

エラー時は 0 が設定され、戻り値とは別に、<u>APIErrorStatus</u>プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

また、APIProductIdSerialNoList プロパティに取得したプロダクト ID とシリアル No.をデリミタのカンマ (,)で区切った文字列が設定されます。該当するデータが存在しない時は、""(空文字列)が設定されます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容	
UI	<u>APIExternalLinkKey</u>	APIGetProductIdSerialNoList .	メソッド 実
		行時の外部データベースとのリ	ノンク用キ
		一項目を設定します。	
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキシ
UI	APIProxyServerPort	プロキシサーバーのポート	サーバー
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
		ード	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証	パスワード
		(基本認証使用時)	

Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基
		本認証使用時)
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト
Code	<u>APIWebServiceURL</u>	Web サービスの URL
Code	APIWebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認証の使用区分

<sup>※</sup>設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

APIExternalLinkKey プロパティに外部データベースとのリンク用キーを指定し ActivationKey テーブルよりプロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙を取得します。

認証レスキュー!とは別の外部データベースとのリンク用キーを APIExternalLinkKey プロパティに設定し、当メソッド(APIGetProductIdSerialNoList メソッド)を実行すると、認証レスキュー!のデータベースの ActivationKey テーブルより該当するプロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙をデリミタ付きで APIProductIdSerialNoList プロパティに設定して返します。

プロダクト ID とシリアル No.のペア文字列の列挙は、たとえば次のような文字列です。 デリミタはカンマ(, )です。

1111-1111-1111,aaaa1111,22222-2222-2222,bbbb2222,33333-33333-33333,cccc3333

この例では次の 3 組のプロダクト ID とシリアル No.が返されました。 プロダクト ID ="11111-11111" シリアル No.="aaaa1111" プロダクト ID ="22222-22222" シリアル No.="bbbb2222" プロダクト ID ="33333-33333-33333" シリアル No.="cccc3333"

当メソッド(APIGetProductIdSerialNoList メソッド)の具体的な利用方法の例は次のようなものがあります。

貴社のアプリケーション内でエンドユーザに対し、複数のプロダクトIDとシリアルNo.のペアを一括で認証登録させたい場合を考えます。

#### 手順1

貴社のアプリケーション内の一括認証処理の UI 上でエンドユーザにユニークな「リンク用キー」(例: ユーザ ID)を入力させる。

#### 手順 2

エンドユーザに入力させた「リンク用キー」を APIExternalLinkKey プロパティに設定し、他の必須設定プロパティの設定後、当メソッド(APIGetProductIdSerialNoList メソッド)を実行する。

#### 手順3

認証レスキュー!の認証用 DLL が、「Activationkey テーブル」上のその「リンク用キー」に該当する全レコード分のプロダクト ID とシリアル No.の列挙をデリミタ付きの文字列としてAPIProductIdSerialNoList プロパティに設定して返す。

### 手順4

一括認証処理の UI 上にそれらの返されたプロダクト ID とシリアル No.を一覧表示し、エンドユーザの確認を求めた後、インターネットによる認証登録(APIActivateRegisterInternet メソッド)で認証登録する。

# APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド

### 【機能】

代理有効期限取得データを取得します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetProxyDataForExpirationDate() As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIGetProxyDataForExpirationDate ()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIGetProxyDataForExpirationDate()

### 【引数】

なし

### 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	機能
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(有効期限を更新する)代理有効期限取得データのパス
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列

※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

#### 【解説】

代理有効期限取得データを取得します。

[1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)です。

[2]代理認証データのパスや内容が正しくない場合は、当メソッドは失敗します。

[3]このメソッドの成功時のみ、次表の各プロパティに値が設定されます。 代理有効期限更新関連のメソッドによって、事前に当メソッド(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)の実行が必要かどうかや設定されるプロパティが異なります。

◆当メソッド(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)の利用形態

	事		プロル	ペティ	
	前	プロダクト ID	シリアル No.	現在の有効	新しい有効
	の	プロパティ	プロパティ	期限(取得	期限(取得
	当	(APIProduct	( APISerialN	専 用 )	専用)
代理有効期限	×	<u>ID</u> プロパテ	<u>o</u> プロパティ)	( APICurrent	(APINewExp
更新	ソ	イ)		ExpirationDa	irationDate
関連のメソッド	ツ			te プロパテ	プロパティ)
	ド			イ)	
	のサ				
	実行				
代理有効期限	不	設定不要	 設定不要	設定不要	設定不要
更新準備	要		127,212		
( APIPreparati					
<u>onOfProxyUpd</u>					
ateOfExpiratio					
nDate メソッド)					
代理有効期限	必	当メソッドで	当メソッドで	当メソッドで	APIGetProxyU
取得	要	設定	設定	設定	pdateOfExpir ationDate
( <u>APIGetProxy</u>					メソッドより
UpdateOfExpir ationDateメソ					取得
<u>ationDate</u> ッド)					
代理有効期限	必	当メソッドで	当メソッドで	当メソッドで	当メソッドで
更新確定	要	設定	設定	設定	設定
(APIDetermin		2.77			#*** <u>-</u>
ationOfProxyU					
pdateOfExpira					
<u>tionDate</u> メソッ					
ド)					

[4] 当メソッドの実行には上記の【必須設定プロパティ】にある、代理有効期限取得データのパス (APIProxyDataPath プロパティ)に適切な設定が必要です。

## APIGetProxyDataForRegister メソッド

#### 【機能】

代理認証登録データを取得します。

(代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetProxyDataForRegister () As Boolean

#### <C#>

public **bool APIGetProxyDataForRegister** ()

#### **<VC++>**

 $\verb"public: VARIANT_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIGetProxyDataForRegister" \\$ 

()

### 【引数】

なし

### 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	機能
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	<u>APIEncryptionSaltString</u>	暗号化時の Salt 文字列
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパス。
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。

※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

代理認証登録データを取得します。

[1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)です。

[2]代理認証データのパスや内容が正しくない場合は、当メソッドは失敗します。

[3]このメソッドの成功時のみ、次表の各プロパティに値が設定されます。 代理認証関連のメソッドによって、事前に当メソッド(APIGetProxyDataForRegister メソッド)の実行 が必要かどうかや設定されるプロパティが異なります。

# ◆当メソッド(APIGetProxyDataForRegister メソッド)の利用形態

			プロパティ	
代理認証	事前の当	認証 ID プロパティ	プロダクト ID プロ	シリアル No.プ
関連のメソッド	メソッドの	(APICertificationID	パティ	ロパティ
因性のアノカト	実行	プロパティ)	( <u>APIProductID</u> プ	( <u>APISerialNo</u> プ
			ロパティ)	ロパティ)
代理認証登録準備	不要	設定不要	設定不要	設定不要
( APIProxyActivateRegi				
sterPrepare メソッド)				
代理認証登録実行	必要	当メソッドで設定	UI 画面上などか	UI 画面上など
( APIProxyActivateRegi			ら設定	から設定
sterExecute メソッド)				
代理認証登録確定	必要	当メソッドで設定	当メソッドで設定	当メソッドで設
( APIProxyActivateRegi				定
sterFix メソッド)				

[4] 当メソッドの実行には上記の【必須設定プロパティ】にある、代理認証データパスプロパティ (APIProxyDataPath プロパティ)に適切な設定が必要です。

### APIGetProxyDataForRemove メソッド

#### 【機能】

代理認証解除データを取得します。

(代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetProxyDataForRemove () As Boolean

#### <C#>

public **bool APIGetProxyDataForRemove** ()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIGetProxyDataForRemove

()

### 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	機能
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	<u>APIEncryptionSaltString</u>	暗号化時の Salt 文字列
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパス。
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

代理認証解除データを取得します。

[1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)です。

[2]代理認証データのパスや内容が正しくない場合は、当メソッドは失敗します。

[3]このメソッドの成功時のみ、次表の各プロパティに値が設定されます。 代理認証関連のメソッドによって、事前に当メソッド(APIGetProxyDataForRemove メソッド)の実行 が必要かどうかや設定されるプロパティが異なります。

## ◆当メソッド(APIGetProxyDataForRemove メソッド)の利用形態

		プロパティ		
代理認証	事前の当	認証 ID プロパティ	プロダクト ID プロ	シリアル No.プ
関連のメソッド	メソッドの	( <u>APICertificationID</u>	パティ	ロパティ
	実行	プロパティ)	( <u>APIProductID</u> プ	( <u>APISerialNo</u> プ
			ロパティ)	ロパティ)
代理認証解除準備	不要	設定不要	設定不要	設定不要
( APIProxyActivateRem				
ovePrepare メソッド)				
代理認証解除実行	必要	当メソッドで設定	当メソッドで設定	当メソッドで設
( APIProxyActivateRem				定
oveExecute メソッド)				

[4] 当メソッドの実行には上記の【必須設定プロパティ】にある、代理認証データパスプロパティ (APIProxyDataPath プロパティ)に適切な設定が必要です。

## APIGetProxyUpdateOfExpirationDate メソッド

## 【機能】

「代理有効期限/取得」を実行します。(代理 PC で利用)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetProxyUpdateOfExpirationDate() As Boolean

#### <C#>

public bool APIGetProxyUpdateOfExpirationDate()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIGetProxyUpdateOfExpirationDate()

# 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(有効期限を更新する)代理有効期限取得データのパスファイルの拡張子は「.NRS」です。
UI	<u>APIProductID</u>	(代理有効期限を取得する)プロダクト ID 代理有効期限取得データの取得メソッド (APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)の実行により、代理有効期限取得データから取得したプロダクト ID が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APISerialNo</u>	(代理有効期限を取得する)シリアル No. 代理有効期限取得データの取得メソッド (APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)の実行により、代理有効期限取得データから取得したシリアル No.が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分
UI	<u>APIProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレス プロキシ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート サーバー

UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
		ード	
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	<u>APIWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証	パスワード
		(基本認証使用時)	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証コ	_一ザ名(基
		本認証使用時)	
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト	
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL	
Code	APIWebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認証の	使用区分

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

「代理有効期限/取得」を実行します。(代理 PC で利用)

#### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「プロダクト ID」、「シリアル No.」、「現在の有効期限」は、代理有効期限取得データの取得メソッド(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)の実行で設定されるプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ(APISerialNo プロパティ)、現在の有効期限プロパティ(APICurrentExpirationDate プロパティ)で取得できます。

# ◆処理手順

一連の処理の手順は次の通りです。

- [1] 代理有効期限取得データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理有効期限取得データパスプロパティ(APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2] 代理有効期限取得データの取得メソッド(APIGetProxyDataForExpirationDate メソッド)を実行します。

これにより、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ (APISerialNo プロパティ)、現在の有効期限プロパティ(APICurrentExpirationDate プロパティ)に代理有効期限取得データから取得したプロダクト ID、プロパティ、現在の有効期限が設定されます。その内容を画面に表示します。この内容表示そのものは必須ではありません。

- [3] 代理有効期限取得データから取得したプロダクト ID とシリアル No.をプロダクト ID プロパティ (APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ設定します。あるいは、別の方法で結果としてプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ認証登録するプロダクト ID とシリアル No.を設定します。
- [4]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [5] 上記の「想定 UI 画面」の「取得」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIGetProxyUpdateOfExpirationDate メソッド)を実行します。

## APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド

#### 【機能】

レジストリから認証登録済みの情報を取得します。

#### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetRegisteredInfoFromRegistry() As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIGetRegisteredInfoFromRegistry()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIGetRegisteredInfoFromRegistry()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

-※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

レジストリから認証登録済みの情報を取得します。

[1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)。

[2]認証されていない場合は、当メソッドは失敗します。

[3]このメソッドの成功時のみ、次のプロパティに認証登録済みの各情報が設定されます。

- ・プロダクト ID (APIProductID プロパティ)
- ・シリアル No. (APISerialNo プロパティ)
- ・認証 ID(APICertificationID プロパティ)
- ・ライセンスキー(APILicenseKey プロパティ)
- ・現在の有効期限(APICurrentExpirationDate)

[4]これらのプロパティは、正常に読み込みが成功しない限り、初期値(空文字列)が設定されます。

## APIGetRegisteredInfoFromRegistry2 メソッド

#### 【機能】

レジストリから認証登録済みの情報を取得します。 Windows の管理者でなくても実行可能です。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetRegisteredInfoFromRegistry2() As Boolean

#### <C#>

public bool APIGetRegisteredInfoFromRegistry2()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIGetRegisteredInfoFromRegistry2()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	<u>APIEncryptionSaltString</u>	暗号化時の Salt 文字列
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	APISelectRunAppDatePathFlag	「アプリ起動日」の読み込み/書き込み場
		所の切り替えフラグ
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

以下の機能以外は従来の APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッドと同等です。

APISelectRunAppDatePathFlag プロパティ値による場所+従来の

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ値の場所に「アプリ起動日」の読み込み/書き

込みを行います。

このメソッドは、ユーザ様からのご要望で追加いたしました。

Windows の管理者でなくても <u>APIActivateStatusCheck2</u> メソッドを使用して認証状態を確認後、認証情報を取得するために、このメソッドが必要となり追加されました。

### APIGetRegisteredInfoFromWeb メソッド

#### 【機能】

インターネットを使用して ActivationKeyTable から「ライセンス数」「有効期限の利用」「有効期限」を、ActivationDataTable から「認証 ID」「認証日時(作成日)」を取得します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIGetRegisteredInfoFromWeb() As String

#### <C#>

public string APIGetRegisteredInfoFromWeb()

### **<VC++>**

public : \_bstr\_t NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIGetRegisteredInfoFromWeb()

### 【引数】

なし

## 【戻り値】

- ①設定ライセンス数
- ②認証済ライセンス数
- ③有効期限有無
- 4)有効期限
- ②分の「認証 ID」と「認証日時(作成日)」

として文字列で返します。

該当する認証キーが存在しない場合は、空を返します。

また、各項目の値を デリミタの カンマ(,)で区切った文字列が設定されます。

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容	
UI	APIProductID	(認証登録する)プロダクト ID	
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証登録する)シリアル No.	
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキシ
UI	APIProxyServerPort	プロキシサーバーのポート	サーバー
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
		<b>一ド</b>	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証	パスワード
		(基本認証使用時)	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ュ	.一ザ名(基

		本認証使用時)
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト
Code	<u>APIWebServiceURL</u>	Web サービスの URL
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分

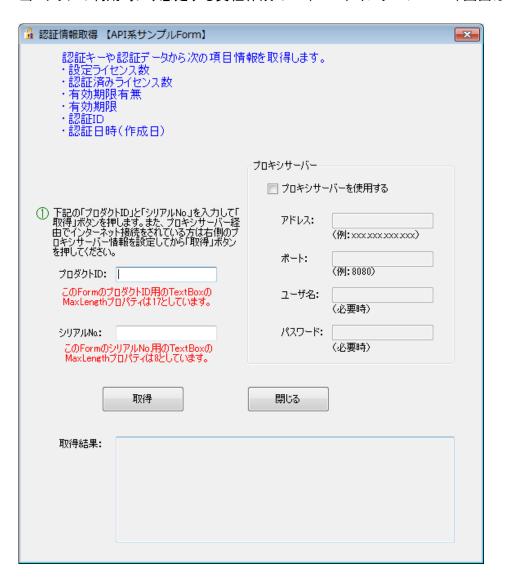
※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

インターネットを使用して ActivationKeyTable から「ライセンス数」「有効期限の利用」「有効期限」を、ActivationDataTable から「認証 ID」「認証日時(作成日)」を取得します。

### ◆想定UI画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



## ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]プロダクト ID とシリアル No. をエンドユーザに画面より入力させ、プロダクト ID プロパティ (APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ設定します。あるいは、別の方法で結果としてプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)とシリアル No プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ認証登録するプロダクト ID と

シリアル No.を設定します。

[2]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。

★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。

[3] 上記の「想定 UI 画面」の「取得」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIGetRegisteredInfoFromWeb メソッド)を実行します。

取得した文字列の列挙は、たとえば次のような文字列です。 デリミタはカンマ(,)です。 1,1,0,50533-21818,2014/03/24 15:42:00

この例では、設定ライセンス 1 の認証済みの結果が返されました。 設定ライセンス数="1" 認証済ライセンス数="1" 有効期限有無="0" 有効期限="" 認証 ID="50533-21818" 認証日時(作成日)="2014/03/24 15:42:00"

## APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド

#### 【機能】

「代理有効期限取得/準備」を実行します。(有効期限を更新したい PC で利用)

### 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate() As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(有効期限を更新する)代理有効期限取得デ
		一タのパス
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	<u>APIEncryptionSaltString</u>	暗号化時の Salt 文字列
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパ
		ス

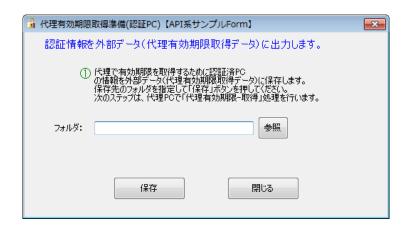
- ※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にブログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

「代理有効期限取得/準備」を実行します。(有効期限を更新したい PC で利用)

## ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



## ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1] 代理有効期限取得データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理有効期限取得データパスプロパティ(APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [3] 上記の「想定 UI 画面」の「保存」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIPreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate メソッド)を実行します。

## APIProxyActivateRegisterExecute メソッド

## 【機能】

「代理認証登録/実行」を実行します。(代理 PC で利用) (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIProxyActivateRegisterExecute() As Boolean

#### <C#>

public bool APIProxyActivateRegisterExecute()

## **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIProxyActivateRegisterExecute()

## 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパ
		ス。 │ファイルの拡張子は「.NRS」です。
UI	APICertificationID	(認証登録する)認証 ID(取得専用)。
	7 T TOO CHIOCHEN	代理認証登録データの取得メソッド
		(APIGetProxyDataForRegister メソッド)
		の実行により、代理認証データから取得
		した認証 ID が当プロパティに設定されま
		す。
UI	APIProductID	(認証登録する)プロダクト ID
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証登録する)シリアル No.
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分
UI	<u>APIProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレス プロキ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポートシサー
UI	<u>APIProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ名 バー使
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワー 用時有
		ド効

Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス
Code	<u>APIWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワード
Code Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	
		Web サービス時の基本認証パスワード
Code	<u>APIWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証パスワード Web サービス時の基本認証ユーザ名
Code Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName APIWebServiceCheckPassword	Web サービス時の基本認証パスワード Web サービス時の基本認証ユーザ名 Web サービス確認パスワード
Code Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName APIWebServiceCheckPassword APIWebServiceTimeout	Web サービス時の基本認証パスワード Web サービス時の基本認証ユーザ名 Web サービス確認パスワード Web サービスのタイムアウト

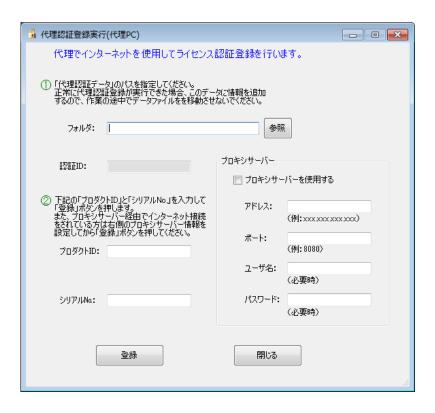
※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

「代理認証登録/実行」を実行します。(代理 PC で利用)

#### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」は、代理認証登録データの取得メソッド(APIGetProxyDataForRegister メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)で取得できます。

### ◆処理手順

一連の処理の手順は次の通りです。

[1]代理認証データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理認証データパスプロパティ (APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。

[2]代理認証登録データの取得メソッド(APIGetProxyDataForRegister メソッド)を実行します。 これにより、認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)に代理認証登録データから取得した 認証 ID が設定されます。

その内容を画面に表示します。この内容表示そのものは必須ではありません。

- [3]プロダクト ID とシリアル No.をエンドユーザに画面より入力させ、プロダクト ID プロパティ (APIProductIDプロパティ)とシリアルNo. プロパティ(APISerialNoプロパティ)にそれぞれ設定します。あるいは、別の方法で結果としてプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)とシリアルNo. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ認証登録するプロダクト ID とシリアル No.を設定します。
- [4]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。

★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。

[5] 上記の「想定 UI 画面」の「登録」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIProxyActivateRegisterExecute メソッド)を実行します。

## APIProxyActivateRegisterFix メソッド

## 【機能】

「代理認証登録/確定」を実行します。(認証登録したい PC で利用) (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIProxyActivateRegisterFix() As Boolean

## <C#>

public bool APIProxyActivateRegisterFix()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIProxyActivateRegisterFix()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパス ファイルの拡張子は「.NRS」です。
UI	APICertificationID	(認証登録する)認証 ID(取得専用)。 代理認証登録データの取得メソッド (APIGetProxyDataForRegister メソッド)の実 行により、代理認証データから取得した認証 ID が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APIProductID</u>	(認証登録する)プロダクト ID 代理認証登録データの取得メソッド (APIGetProxyDataForRegister メソッド)の実 行により、代理認証データから取得したプロ ダクト ID が当プロパティに設定されます。
UI	APISerialNo	(認証登録する)シリアル No. 代理認証登録データの取得メソッド (APIGetProxyDataForRegister メソッド)の実 行により、代理認証データから取得したシリアル No.が当プロパティに設定されます。
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード

Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数(0:レンタル期間なし)
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数(0:猶予期間なし)
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	<u>APIUseMacAddress</u>	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	APIVendorsProductStartRegistryKeyPath	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパ
		ス

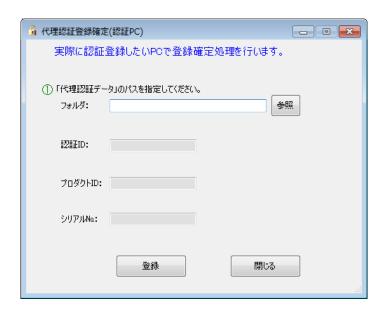
※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

### 【解説】

「代理認証登録/確定」を実行します。 (認証登録したい PC で利用)

#### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」は、代理認証登録データの取得メソッド (APIGetProxyDataForRegister メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ (APISerialNo プロパティ)でそれぞれ取得できます。

#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]代理認証データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理認証データパスプロパティ (APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2]代理認証登録データの取得メソッド(APIGetProxyDataForRegister メソッド)を実行します。 これにより、認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ (APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ(APISerialNo プロパティ)に代理認証データから取得した認証 ID、プロダクト ID、シリアル No.それぞれが設定されます。 それらの内容を画面に表示します。この内容表示そのものは必須ではありません。
- [3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。

★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。

[5] 上記の「想定 UI 画面」の「登録」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIProxyActivateRegisterFix メソッド)を実行します。

## APIProxyActivateRegisterPrepare メソッド

### 【機能】

「代理認証登録/準備」を実行します。(認証登録したい PC で利用) (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIProxyActivateRegisterPrepare() As Boolean

#### <C#>

public bool APIProxyActivateRegisterPrepare()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIProxyActivateRegisterPrepare()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパス
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパ
	( )	<b>Z</b>

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

「代理認証登録/準備」を実行します。(認証登録したい PC で利用)

## ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]代理認証データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理認証データパスプロパティ (APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [3] 上記の「想定 UI 画面」の「保存」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIProxyActivateRegisterPrepare メソッド)を実行します。

## APIProxyActivateRemoveExecute メソッド

## 【機能】

「代理認証解除/実行」を実行します。(代理 PC で利用) (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIProxyActivateRemoveExecute() As Boolean

#### <C#>

public bool APIProxyActivateRemoveExecute()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIProxyActivateRemoveExecute()

## 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパス
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。
UI	<u>APICertificationID</u>	(認証登録する)認証 ID(取得専用)。
		代 理 認 証 解 除 デ ― タの 取 得 メソッド
		(APIGetProxyDataForRemove メソッド)の
		実行により、代理認証データから取得した
		認証 ID が当プロパティに設定されます。
UI	APIProductID	(認証登録する)プロダクト ID
		代 理 認 証 解 除 デ ー タ の 取 得 メソッド
		(APIGetProxyDataForRemove メソッド)の
		実行により、代理認証データから取得した
		プロダクト ID が当プロパティに設定されま
		す。
UI	APISerialNo	(認証登録する)シリアル No.
		代 理 認 証 解 除 デ ータの 取 得 メソッド
		(APIGetProxyDataForRemove メソッド)の
		実行により、代理認証データから取得した

		シリアル No.が当プロパティに設定されま	
		す。	
UI	APIUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	シサー
UI	<u>APIProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ名	バー使
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワード	用時有
			効
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数	
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数	
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分	
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分	
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ	
		ーパス	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワード	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名	
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト	
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL	
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	
ツボウログ ロッキに「担ウロ 東京・よう歌ウととてプロピュック・レッキにプロピュック・バッを歌ウととてプロピュッ			

<sup>※</sup>設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

# 【解説】

「代理認証解除/実行」を実行します。(代理 PC で利用)

#### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」は、代理認証解除データの取得メソッド (APIGetProxyDataForRemove メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ (APISerialNo プロパティ)でそれぞれ取得できます。

## ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]代理認証データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理認証データパスプロパティ(APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2]代理認証解除データの取得メソッド(APIGetProxyDataForRemove メソッド)を実行します。 これにより、認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No.プロパティ(APISerialNo プロパティ)に代理認証データから取得した認証 ID、プロダクト ID、シリアル No.それぞれが設定されます。 それらの内容を画面に表示します。この内容表示そのものは必須ではありません。
- [3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [4] 上記の「想定 UI 画面」の「解除」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIProxyActivateRemoveExecute メソッド)を実行します。

## APIProxyActivateRemovePrepare メソッド

#### 【機能】

「代理認証解除/準備」を実行します。(認証登録したい PC で利用) (代理認証機能については、「代理認証機能について」を参照)

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIProxyActivateRemovePrepare() As Boolean

## <C#>

public bool APIProxyActivateRemovePrepare()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIProxyActivateRemovePrepare()

## 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
UI	<u>APIProxyDataPath</u>	(認証登録する)代理認証データのパス
		ファイルの拡張子は「.NRS」です。
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数
Code	APITrialPeriod	猶予(試用)日数
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキーパ
	()	<b>Z</b>

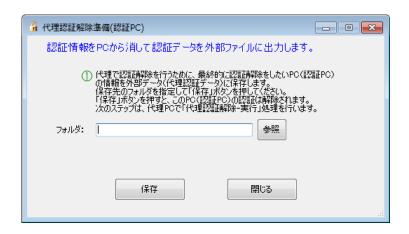
※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

「代理認証解除/準備」を実行します。 (認証登録したい PC で利用)

## ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]代理認証データパスをエンドユーザに画面より入力させ、代理認証データパスプロパティ (APIProxyDataPath プロパティ)に設定します。この際、ファイルの拡張子は「.NRS」とします。
- [2]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [3] 上 記 の「想 定 UI 画 面」の「保 存」ボタン に 連 動 さ せ る な ど し て 、当 メソッド (APIProxyActivateRemovePrepare メソッド)を実行します。

## APIReadProxyServerInfoFromRegistry メソッド

#### 【機能】

レジストリからプロキシサーバーの情報を取得します。

## 【構文】

**<VB2010/VB6.0>** 

Public Function APIReadProxyServerInfoFromRegistry () As Boolean

#### <C#>

public bool APIReadProxyServerInfoFromRegistry ()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIReadProxyServerInfoFromRegistry ()

#### 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ
		ーパス

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

レジストリからプロキシサーバーの情報を取得します。

- [1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)。
- [2] プロキシサーバーのユーザ名とパスワードを暗号化されおり復号化が失敗すると、当メソッドは失敗します。また、レジストリの読み込みで何らかの原因で失敗すると、当メソッドは失敗します。
- [3]このメソッドの成功時のみ、次のプロパティにプロキシサーバーの各情報が設定されます。
  - •プロキシサーバーのアドレス(APIProxyServerAddress)
  - •プロキシサーバーのパスワード(APIProxyServerPassword)

- •プロキシサーバーのポート(APIProxyServerPort)
- •プロキシサーバーのユーザ名 (APIProxyServerUserName)
- •プロキシサーバーの使用区分(APIUseProxyServer)

[4]これらのプロパティは、正常に読み込みが成功しない限り、初期値(空文字列)が設定されます。

## APIRestoreCancelStatus メソッド

## 【機能】

「認証解除状態回復」を実行します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIRestoreCancelStatus() As Boolean

<C#>

public bool APIRestoreCancelStatus()

**<VC++>** 

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIRestoreCancelStatus()

# 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	機能
UI	<u>APICertificationID</u>	(登録解除する)認証 ID(取得専用)。 (レジストリからの)認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソ ッド)の実行により、登録済みの認証 ID が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APIProductID</u>	(認証解除する)プロダクト ID (レジストリからの)認証登録済み情報の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソ ッド)の実行により、登録済みのプロダク ト ID が当プロパティに設定されます。
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証解除する)シリアル No. (レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行により、登録済みのシリアルNo.が当プロパティに設定されます。
UI	APIUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分

UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキ	
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	シサー	
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ名	バー使	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワー	用時有	
		F	効	
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード		
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列		
Code	APIRentalPeriod	レンタル日数		
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数		
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分		
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分		
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ		
		ーパス		
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パス	スワード	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名		
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード		
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト		
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL		
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分		

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

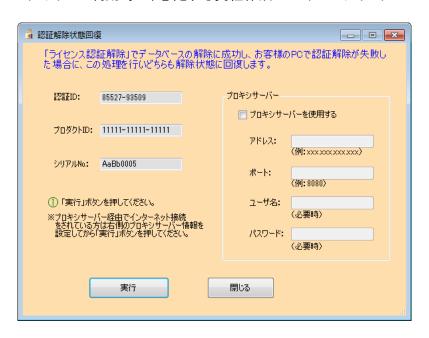
## 【解説】

「認証解除状態回復」を実行します。

「ライセンス認証解除」でデータベースの解除に成功したが、エンドユーザ PC での認証解除が失敗した状態になった場合に、このメソッドによる処理でエンドユーザの操作でその状態を回復しエンドユーザ PC を認証解除状態とします。

## ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」は、(レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ

(APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)でそれぞれ取得できます。

#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1](レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド) を実行します。これにより、認証 ID プロパティ、プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティに 各値が設定されます。
- [2]認証 ID プロパティ、プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティの各値を画面に表示します。
- [3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [4] 上記の「想定 UI 画面」の「実行」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIRestoreCancelStatus メソッド)を実行します。

# APIRestoreRegisterStatus メソッド

## 【機能】

「認証登録状態回復」を実行します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIRestoreRegisterStatus() As Boolean

#### <C#>

public bool APIRestoreRegisterStatus()

## **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIRestoreRegisterStatus()

# 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容	
UI	<u>APIProductID</u>	(認証登録する)プロダクト ID	
UI	<u>APISerialNo</u>	(認証登録する)シリアル No.	
UI	APIUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分	
UI	APIProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレス	プロキ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	シサー
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ名	バー使
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワー	用時有
		F.	効
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数	
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数	
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分	
Code	APIUseMacAddress	MAC アドレスの使用区分	
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ	
		ーパス	
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パス	スワード
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユー	-ザ名
Code	<u>APIWebServiceCheckPassword</u>	Web サービス確認パスワード	

Code	<u>APIWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL
Code	<u>APIWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

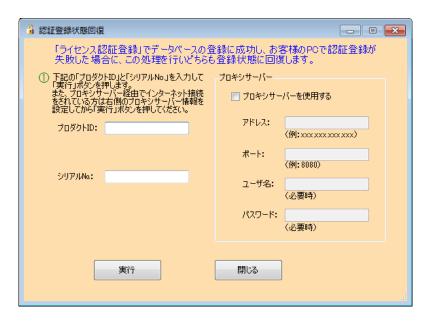
## 【解説】

「認証登録状態回復」を実行します。

「ライセンス認証登録」でデータベースの登録に成功したが、エンドユーザ PC での認証登録が失敗した状態になった場合に、このメソッドによる処理でエンドユーザの操作でその状態を回復しエンドユーザ PC を認証登録状態とします。

#### ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]プロダクト ID とシリアル No.をエンドユーザに画面より入力させ、プロダクト ID プロパティ (APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ設定します。あるいは、別の方法で結果としてプロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)とシリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)にそれぞれ認証登録するプロダクト ID とシリアル No. を設定します。
- [2]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。
  - ★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。
- [3] 上記の「想定 UI 画面」の「登録」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIRestoreRegisterStatus メソッド)を実行します。

#### APIRunNR2AppDateRemove メソッド

#### 【機能】

「アプリ起動日」を削除します。

#### 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function APIRunNR2AppDateRemove() As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIRunNR2AppDateRemove()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIRunNR2AppDateRemove()

# 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ ーパス

<sup>※</sup>設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

#### 【解説】

「アプリ起動日」を削除します。

認証レスキュー!2 を含む貴社のアプリを起動した際に、レジストリに記録されている前回の「アプリ 起動日」を確認します。

(もし、「アプリ起動日」が存在しなかった場合は、起動した際にレジストリに記録します。) その「アプリ起動日」より PC の日付が古い場合、故意に PC の日付が変更されたということで「PC の日付が変更されました。(APIErrorStatus=174)」というメッセージが表示されます。

#### 例:

たとえば、本日を6月1日とします。PCの日付を6月2日に設定しアプリを起動します。次に、PCの日付を本日(つまり6月1日)に戻しても、「アプリ起動日」は6月2日で記録されており、PCの日付が古いので「PCの日付が変更されました。」というメッセージが表示されます。この状態になった場合、PCの日付を6月2日に設定しない限り、認証登録等が実行できません。このメソッドを実行後は、再度 PCの日付を本日(つまり6月1日)に設定して、アプリをご利用いただける状態にします。

# APIRunNR2AppDateRemove2 メソッド

#### 【機能】

「アプリ起動日」を削除します。

#### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIRunNR2AppDateRemove2() As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIRunNR2AppDateRemove2()

**<VC++>** 

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIRunNR2AppDateRemove2()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

#### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	<u>APISelectRunAppDatePathFlag</u>	「アプリ起動日」の読み込み/書き込み場所の切り替えフラグ
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ ーパス

-※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

# 【解説】

以下の機能以外は従来の APIRunNR2AppDateRemove メソッドと同等です。

APISelectRunAppDatePathFlag プロパティ値による場所+従来の

APIVendorsProductStartRegistryKeyPath プロパティ値の場所の「アプリ起動日」を削除します。

このメソッドは、ユーザ様からのご要望で追加いたしました。

APIActivateStatusCheck2 メソッドで書き込まれた「アプリ起動日」を削除します。

#### APITrialStartDateRemove メソッド

#### 【機能】

「猶予日数」の「開始日」を削除します。

#### 【構文】

#### <VB2010/VB6.0>

Public Function APITrialStartDateRemove() As Boolean

#### <C#>

public bool APITrialStartDateRemove()

#### **<VC++>**

public: VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APITrialStartDateRemove()

# 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ ーパス

<sup>※</sup>設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

#### 【解説】

「猶予日数」の「開始日」を削除します。

このメソッドを実行後は、エンドユーザは再度「猶予日数」分の利用が可能になります。

## APIUpdateOfExpirationDate メソッド

## 【機能】

「有効期限の更新」を実行します。

## 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIUpdateOfExpirationDate() As Boolean

#### <C#>

public bool APIUpdateOfExpirationDate()

## **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation:: APIUpdateOfExpirationDate()

# 【引数】

なし

# 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatusプロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	機能
UI	<u>APIProductID</u>	(有効期限を更新する)プロダクト ID (レジストリからの)認証登録済み情報 の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行により、登録済みのプロダクト ID が当プロパティに設定されます。
UI	APISerialNo	(有効期限を更新する)シリアル No. (レジストリからの)認証登録済み情報 の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行により、登録済みのシリアル No.が当プロパティに設定されます。
UI	APICurrentExpirationDate	(有効期限を更新する)現在の有効 期限 (レジストリからの)認証登録済み情 報 の 取 得 メ ソ ッ ド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry

		メソッド)の実行により、登録済みの		
		現在の有効期限が当プロパティに		
		設定されます。		
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分		
UI	<u>APIProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーの プロキシサ		
		アドレス ーバー使用		
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーの 時有効		
		ポート		
UI	<u>APIProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーの		
		ユーザ名		
UI	<u>APIProxyServerPassword</u>	プロキシサーバーの		
		パスワード		
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード		
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列		
Code	<u>APIOverwriteModeOfExpirationDateUpdate</u>	新しい有効期限が現在と同じか古		
		い場合の対応を設定します。		
		True:新しい有効期限が現在と同じ		
		か古い場合でも更新します。		
		False:新しい有効期限が現在と同じ		
		か古い場合は更新しません。		
Code	<u>APIRentalPeriod</u>	レンタル日数		
Code	<u>APITrialPeriod</u>	猶予(試用)日数		
Code	<u>APIUseCpuInfo</u>	CPU 情報の使用区分		
Code	<u>APIUseMacAddress</u>	MAC アドレスの使用区分		
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジスト		
		リキーパス		
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワ		
		ード		
Code	APIWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ		
		名		
Code	APIWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード		
Code	APIWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト		
Code	APIWebServiceURL	Web サービスの URL		
Code	APIWebServiceUseBasicAuthentication	Web サービス時の基本認証の使用		
		区分		
マールウロ	」 '八ur→ ナル「相ウ.ur 両声」から汎ウキもスプロパニ、/೧u.→ ナ			

※設定区分:UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

## 【解説】

「有効期限の更新」を実行します。

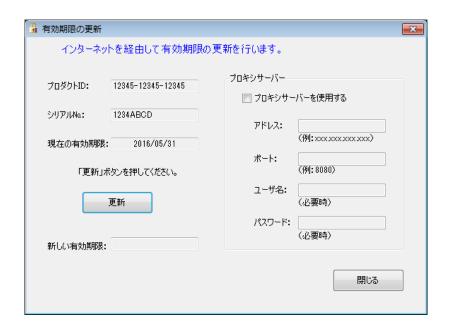
プロダクト ID とシリアル No.が有効期限によるライセンスの場合、当メソッドによる処理を利用してエンドユーザに有効期限を更新させることができます。

この処理をエンドユーザに実行してもらう前に、貴社で新しい有効期限の設定をする必要があります。

有効期限の設定は認証管理システムの「認証キー編集(表形式)」処理を利用します。

## ◆想定 UI 画面

当メソッドの利用時に、想定する貴社作成の UI(ユーザインターフェース)画面は次の通りです。



この画面上の「認証 ID」、「プロダクト ID」、「シリアル No.」は、(レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行で設定される認証 ID プロパティ(APICertificationID プロパティ)、プロダクト ID プロパティ(APIProductID プロパティ)、シリアル No. プロパティ(APISerialNo プロパティ)でそれぞれ取得できます。

この画面上の「現在の有効期限」は、(レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド (APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)の実行で設定される現在の有効期限プロパティ (APICurrentExpirationDate プロパティ)で取得できます。

#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1](レジストリからの)認証登録済み情報の取得メソッド(APIGetRegisteredInfoFromRegistry メソッド)を実行します。

これにより、プロダクトID プロパティ、シリアル No.プロパティ、現在の有効期限プロパティに各値が設定されます。

- [2]プロダクト ID プロパティ、シリアル No.プロパティ、現在の有効期限プロパティの各値を画面に表示します。
- [3]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある「設定区分」が「Code」のプロパティに適切な値を設定します。

★これらのプロパティは、一度設定した内容で変更がなければ再設定する必要はありません。

- [4] 上記の「想定 UI 画面」の「更新」ボタンに連動させるなどして、当メソッド (APIUpdateOfExpirationDate メソッド) を実行します。
- [5]上記の「想定 UI 画面」の「新しい有効期限」に更新後の有効期限を表示します。更新後の有効期限は、処理手順の[1]を再度行うことで取得できます。

なお、エンドユーザに有効期限を更新させる方法として当処理を実行させる他に、エンドユーザに一 度認証の解除後、再度認証の登録をしてもらうことでも更新が完了します。

エンドユーザが代理認証を利用している場合で、有効期限によるライセンスを更新する場合はその 方法を使います。

## APIWriteProxyServerInfoToRegistry メソッド

#### 【機能】

レジストリヘプロキシサーバーの情報を書き込みます。

#### 【構文】

<VB2010/VB6.0>

Public Function APIWriteProxyServerInfoToRegistry() As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIWriteProxyServerInfoToRegistry()

#### **<VC++>**

public : VARIANT\_BOOL NewtoneNRvcpp::IActivation::

APIWriteProxyServerInfoToRegistry()

## 【引数】

なし

## 【戻り値】

True: 正常

False: エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)

戻り値とは別に、APIErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

## 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

設定 区分 ※	プロパティ	設定する内容	
UI	<u>APIUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
UI	<u>APIProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレス	プロキシ
UI	<u>APIProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	サーバー
UI	APIProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ	使用時
		名	
UI	APIProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
		_ド	
Code	APIEncryptionPassword	暗号化時のパスワード	
Code	APIEncryptionSaltString	暗号化時の Salt 文字列	
Code	<u>APIVendorsProductStartRegistryKeyPath</u>	ベンダアプリケーション開始レジストリキ	
		ーパス	

※設定区分: UI⇒主に「想定 UI 画面」から設定されるプロパティ/Code⇒主にプログラム(コード)で設定されるプロパティ

#### 【解説】

レジストリヘプロキシサーバーの情報を書き込みます。

[1]このメソッドの戻り値は成功か失敗(True/False)。

# *NEWTONE*

[2]プロキシサーバーのユーザ名とパスワードを暗号化しており暗号化が失敗すると、当メソッドは失敗します。また、レジストリの書き込みで何らかの原因で失敗すると、当メソッドは失敗します。

# <ASP.NET 系プロパティ>

# プロパティ一覧

プロパティ	機能
APIxError 列挙体	エラー内容を表します。
APIxErrorStatus	ASP.NET 系のメソッドを使用した際のエラーの内
	容を返す。(取得専用)
<u>APIxExpirationDate</u>	有効期限を設定します。
APIxExternalLinkKey	外部データベースとの「リンク用キー」を設定しま
	す。
APIxFreeItem1~5	自由入力項目 1~5を設定します。
<u>APIxKindOfRandom</u>	シリアル No.をランダムに自動作成する場合の文
	字種別を設定します。
APIxLicenseCount	ライセンス数を設定します。
APIxNumberingCount	シリアル No.を作成する数を設定します。
APIxProductID	プロダクト ID を設定します。
APIxProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレスを設定します。
APIxProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワードを設定します。
APIxProxyServerPort	プロキシサーバーのポートを設定します。
APIxProxyServerUserName	プロキシサーバーのユーザ名を設定します。
<u>APIxSerialNo</u>	シリアル No.を設定・取得します。
APIxSerialNoString	認証キー情報作成直後のシリアル No.を取得しま
	す。(取得専用)
APIxStartNo	シリアル No.を自動的にナンバリングして作成する
	場合の開始番号を設定します。
APIxStartFixedString	作成するシリアル No.の上位固定文字列を設定し
	ます。
APIxStepNo	シリアル No.を自動的にナンバリングして作成する
	場合の間隔(ステップ)数を設定します。
APIxUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分(デフォルト: False)
	を設定します。
APIxUseRental	レンタル機能の使用(False:利用しない、True:利
	用する)を設定します。
<u>APIxUseExpirationDate</u>	有効期限利用の有無(False:利用しない、True:
	利用する)を設定します。
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワードを設定しま
	す。
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証ユーザ名を設定しま
	す。
APIxWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード(8 文字以上)を設定
	します。
<u>APIxWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト(デフォルト:60 秒)を
	設定します。
<u>APIxWebServiceURL</u>	Web サービスの URL を設定します。
<u>APIxWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用(デフォルト:
	False)を設定します。

# APIxError 列挙体

エラー内容を表します。 public enum APIxError パブリックメンバ

メンバ名	値	内容	関連するメソッド
None	0	エラーなし	
OutOfMemoryException	11	プログラムの実行を継続するためのメモリが不足している場合にスローされ	
StackOverflowException	12	る例外。 入れ子になったメソッド呼び出しが多く なりすぎ、実行スタックがオーバーフロ ーした場合にスローされる例	
UnauthorizedAccessExce ption	13	外。このクラスは継承できません。 オペレーティング システムが I/O エラーまたは特定の種類のセキュリティエラーのためにアクセスを拒否する場合、スローされる例外。	
IoDirectoryNotFoundExce ption	14	ファイルまたはディレクトリの一部が見つからない場合にスローされる例外。	
IoDriveNotFoundException	15	使用できないドライブまたは共有にア クセスしようとするとスローされる例 外。	
IoEndOfStreamException	16	ストリームの末尾を越えて読み取ろうと したときにスローされる例外。	
IoFileLoadException	17	マネージ アセンブリが見つかったが、 読み込むことができない場合にスロー される例外。	
IoFileNotFoundException	18	ディスク上に存在しないファイルにアクセスしようとして失敗したときにスローされる例外。	
IoIOException	19	I/O エラーが発生したときにスローさ れる例外。	
IoPathTooLongException	20	パス名またはファイル名がシステム定 義の最大長を超えている場合にスロー される例外。	
BadStrInProductID	101	プロダクト ID に不正な文字が含まれています。	APIxCreateNumb eringActivationKe y APIxCreateOneA ctivationKey APIxCreateRando mActivationKey APIxDeleteActiva tionKey APIxEditOfExpirat ionDate
BadStrInSerialNo	102	シリアル No.に不正な文字が含まれています。	APIxCreateOneA ctivationKey APIxDeleteActiva

			tionKey
FailedEnableNIC	104	NIC の設定に失敗しました。(有効化)	APIxCreateNumb
			eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
FailedDisableNIC	105	NIC の設定に失敗しました。(無効化)	APIxCreateNumb
			eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate .
NoMACAdress	106	MAC アドレスが 1 つも取得できません	APIxCreateNumb
		でした。	eringActivationKe
			γ
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
AlreadyRegistered	111	既に登録済みのプロダクト ID とシリア	APIxCreateNumb
- 0		ルNo.の組み合わせがあったため登録	eringActivationKe
		を中止しました。	у
		-	APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
BadCheckPassword	112	確認パスワードが不正です。	APIxCreateNumb
			eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
·		·	i e e e e e e e e e e e e e e e e e e e

			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
BadWaiFile	113	WebServEnv.wai ファイルに問題があり	APIxCreateNumb
Badwairile	113		
		ます。	eringActivationKe
		認証 Web サービス実行 PC 上で「認証	У
		レスキュー!2 Web 環境設定」	APIxCreateOneA
		(WebAdmin.exe) が行われていない可	ctivationKey
		能性があります。	APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
ExpirationDateIsOutOfRan	116	有効期限が不正です。	APIxCreateNumb
ge			eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
ExpirationDateIsOldDate	117	入力された「有効期限」が無効(前日以	APIxCreateNumb
		前)です。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
ProductIDIsEmpty	156	プロダクトIDが入力されていません。	APIxCreateNumb
		7 1 1 7 7 1 1 2 1 7 4 7 5 7 4 1 C 4 C 6 1	eringActivationKe
			V
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
Social No In Empty	157	   シリアルNo.が入力されていません。	
SerialNoIsEmpty	10/	ンソナルNU.か入力されていません。 	APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate

ONottle The Onli	104		ADI-O LAL I
CanNotUseTheString	164	使用できない文字列が含まれていま	APIxCreateNumb
		す。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
PropertyValueNotFound	165	「必須設定プロパティ」に値が設定され	APIxCreateNumb
		ていません。	eringActivationKe
			y
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
DataBaseNotFound	170	データベースが存在しません。	APIxCreateNumb
DatabaseNotFound	170	データベースが存在しません。   データベースは「Webインストーラ」を起	
		サーダベースは「Webインストーラ」を起   動し「データベースのインストール」を	eringActivationKe
			у
		実行すると作成されます。	APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
CanNotConnectToTheSer	171	何らかの理由でサーバーに接続できま	APIxCreateNumb
ver		せんでした。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
DataTableNotFound	172	データテーブルが存在しません。	APIxCreateNumb
Data I abicinoti oullu	1/2	Web 環境設定で「データテーブル新規	eringActivationKe
		作成」の処理を行ってから、再度、この	
		「作成」の処理を行ってから、再度、この   処理を行ってください。	y APIxCreateOneA
		水理で11フてへたでい。	
			ctivationKey
			APIxCreateRando

			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
BadStrInFixedSerialNo	173	シリアルNo.の上位固定文字列に不正	APIxCreateNumb
		な文字が含まれています。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateRando
			mActivationKey
InvalidStartNo	174	開始番号は0~99999の範囲で設定し	APIxCreateNumb
		てください。	eringActivationKe
			у
InvalidStepNo	175	ステップ数は1~99999の範囲で設定し	APIxCreateNumb
·		てください。	eringActivationKe
			y
InvalidNumberingNo	176	ナンバリング数は1~1000の範囲で設	APIxCreateNumb
J. 13		定してください。	eringActivationKe
		,	у
			APIxCreateRando
			mActivationKey
InvalidLicenseNo	177	ライセンス数は1~100の範囲で設定し	APIxCreateNumb
		てください。	eringActivationKe
		- Wald (	y
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
CanNotMultiLicense	178	ライセンス数に2以上のマルチライセン	APIxCreateNumb
Guin Votivial el El Goliso	170	スが入力されましたが、「レンタル機能	eringActivationKe
		を使用する」が有効になっているため	V
		シングルライセンス以外は入力できま	APIxCreateOneA
		せん。	ctivationKey
		E 70°	APIxCreateRando
			mActivationKey
SerialNoDigitsTooMany	179	上位固定文字列と番号の桁数を合わ	APIxCreateNumb
Ochaniopigns i obiviany	1/8	せると指定したシリアル No.の桁数より	eringActivationKe
		しると指定したシリアル No.の何致より 多すぎます。	_
		39C59°	у APIxCreateRando
			mActivationKey
CanNotEnterBlanksInThe	182	プロダクトIDには空白は入力できませ	APIxCreateNumb
ProductID	102		eringActivationKe
Froductio		$\lambda_{\circ}$	
			y APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
DroductIDD: citaNatEnace	183	 入力されたプロダクト ID の桁数が足り	APIxCreateNumb
ProductIDDigitsNotEnoug	100	ハハロル・フロアフトロの側数がたり	VLIYOLEGIELINILID

			1
h		ません。	eringActivationKe
			y APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
AnErrorOccurred	184		APIxCreateNumb
, then of obtained		713% 07—7 % 36±366728	eringActivationKe
			y
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxDeleteActiva
			tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
ProductIDAndSerialNoNot	185	そのプロダクトIDとシリアルNo.の組み	APIxDeleteActiva
Found		合わせは登録されていません。	tionKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
SerialNoDigitsNotEnough	186	入力されたシリアル No.の桁数が足り	APIxCreateOneA
		ません。	ctivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
CanNotEnterBlanksInThe	187	シリアル No.には空白は入力できませ	APIxCreateOneA
SerialNo		$oldsymbol{h}_{\circ}$	ctivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
BadStrInExternalLinkKey	188	リンク用キーに不正な文字が含まれて	APIxCreateNumb
		います。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
BadStrInFreeItem1	189	自由入力項目 1 に不正な文字が含ま	APIxCreateNumb
		れています。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
D 101 7 F 7: 0	100		mActivationKey
BadStrInFreeItem2	190	自由入力項目 2 に不正な文字が含ま	APIxCreateNumb
		れています。	eringActivationKe
			У

			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
BadStrInFreeItem3	191	自由入力項目 3 に不正な文字が含ま	APIxCreateNumb
		れています。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
BadStrInFreeItem4	192	自由入力項目 4 に不正な文字が含ま	APIxCreateNumb
		れています。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
BadStrInFreeItem5	193	   自由入力項目 5 に不正な文字が含ま	APIxCreateNumb
Dadou IIII Teetteilio	130	れています。	eringActivationKe
		1000000	V
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
BadKindOfRandomOfSeria	194	シリアルNo.をランダムに自動作成する	APIxCreateRando
INo	194	ための文字種別が不正です。	mActivationKey
	105		-
BadExpirationDate	195	有効期限が不正です。	APIxCreateNumb
			eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
ProductIDIsTooLong	196	入力されたプロダクト ID の桁数が多い	APIxCreateNumb
		です。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
SerialNoIsTooLong	197	入力されたシリアル No.の桁数が多い	APIxCreateOneA
		です。	ctivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
BadFormatExpirationDate	198	有効期限の書式が不正です。	APIxCreateNumb
5s.zpii deloiib deo		117717711M-1 = F477   570	

			eringActivationKe
			y APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
			APIxEditOfExpirat
			ionDate
ExternalLinkKeyIsTooLong	199	入力されたリンク用キーの桁数が多い	APIxCreateNumb
		です。	eringActivationKe
		7,0	у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
APIxFreeItem1IsTooLong	200	入力された自由入力項目1の桁数が	APIxCreateNumb
		多いです。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
APIxFreeItem2IsTooLong	201	入力された自由入力項目2の桁数が	APIxCreateNumb
		多いです。	eringActivationKe
			у
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
APIxFreeItem3IsTooLong	202	入力された自由入力項目3の桁数が	APIxCreateNumb
		多いです。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
APIxFreeItem4IsTooLong	203	入力された自由入力項目 4 の桁数が	APIxCreateNumb
		多いです。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey
APIxFreeItem5IsTooLong	204	入力された自由入力項目5の桁数が	APIxCreateNumb
		多いです。	eringActivationKe
			У
			APIxCreateOneA
			ctivationKey
			APIxCreateRando
			mActivationKey

# *NEWTONE*

# APIxErrorStatus プロパティ

## 【機能】

ASP.NET 系のメソッドを使用した際のエラーの内容を返します。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public ReadOnly Property APIxErrorStatus As Integer

## <C#>

public int APIxErrorStatus { get; }

# 【解説】

ASP.NET 系のメソッドは戻り値として正常(True)かエラー(False)を返しますが、この APIxErrorStatus プロパティはそのエラーの内容を APIxError 列挙体の参照で返します。この APIxErrorStatus プロパティは取得専用です。

# APIxExpirationDate プロパティ

#### 【機能】

有効期限を設定します。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxExpirationDate As String

#### <C#>

public string APIxExpirationDate { set; get; }

## 【解説】

有効期限を設定します。

有効期限は、"yyyy/mm/dd"形式で設定してください。

(例) 西暦 2020 年 10 月 1 日を設定する場合

<VB> Class1.myAPIActivate.APIxExpirationDate = "2020/10/01"

<C#> Class1.myAPIActivate.APIxExpirationDate = "2020/10/01";

<VC++> theApp.m\_pAPIActivation->APIxExpirationDate = "2020/10/01";

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxExpirationDate プロパティ)に有効期限を設定します。

- APIxCreateOneActivationKey メソッド
- ・APIxCreateRandomActivationKey メソッド
- ・APIxCreateNumberingActivationKey メソッド
- ・APIxEditOfExpirationDate メソッド

# APIxExternalLinkKey プロパティ

#### 【機能】

外部データベースとの「リンク用キー」を設定します。

#### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxExternalLinkKey As String

#### <C#>

public string APIxExternalLinkKey { set; get; }

## 【解説】

外部データベースとの「リンク用キー」を設定します。

「リンク用キー」の設定は任意で、認証レスキュー!2の運用時の必須設定項目ではありません。この項目は最大64バイトです。

次の認証キー情報を作成するメソッドの実行時に当プロパティ(APIxExternalLinkKey プロパティ)に 設定された値が、認証レスキュー!2 のデータベースの認証キーテーブルの「リンク用キー」に格納 されます。

- <u>APIxCreateOneActivationKey</u> メソッド
- ・APIxCreateRandomActivationKey メソッド
- ・APIxCreateNumberingActivationKey メソッド

この内、APIxCreateRandomActivationKey メソッドとAPIxCreateNumberingActivationKey メソッドは 複数の認証キー(レコード)を作成できますが、すべての認証キー(レコード)に当プロパティ (APIxExternalLinkKey プロパティ)に設定された値が、作成するすべての認証キー(レコード)の「リンク用キー」に格納されます。

## APIxFreeItem1~5 プロパティ

#### 【機能】

自由入力項目 1~5を設定します。

#### 【構文】

## **<VB2010>**

```
Public Property APIxFreeItem1 As String
Public Property APIxFreeItem2 As String
Public Property APIxFreeItem3 As String
Public Property APIxFreeItem4 As String
Public Property APIxFreeItem5 As String
```

#### <C#>

```
public string APIxFreeItem1 { set; get; }
public string APIxFreeItem2 { set; get; }
public string APIxFreeItem3 { set; get; }
public string APIxFreeItem4 { set; get; }
public string APIxFreeItem5 { set; get; }
```

#### 【解説】

自由入力項目 1~5を設定します。

「自由入力項目」の設定は任意で、認証レスキュー!2の運用時の必須設定項目ではありません。この項目は最大 128 バイトです。

次の認証キー情報を作成するメソッドの実行時に当プロパティ(APIxFreeItem1~5 プロパティ)に設定された値が、認証レスキュー!2 のデータベースの認証キーテーブルの「自由入力項目 1~5」に格納されます。

- ・APIxCreateOneActivationKey メソッド
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド
- ・APIxCreateNumberingActivationKey メソッド

この内、APIxCreateRandomActivationKey メソッドとAPIxCreateNumberingActivationKey メソッドは認証キーテーブルの認証キー(レコード)を同時に複数作成できますが、当プロパティ (APIxFreeItem1~5 プロパティ)に設定された値が、作成するすべての認証キー(レコード)の「自由入力項目 1~5」に格納されます。

# APIxKindOfRandom プロパティ

## 【機能】

シリアル No.をランダムに自動作成する場合の文字種別を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxKindOfRandom As Integer

#### <C#>

public int APIxKindOfRandom { set; get; }

## 【解説】

シリアル No.をランダムに自動作成する場合の文字種別を設定します。 当プロパティ(APIxKindOfRandom プロパティ)に設定する値は次の通りです。

- 0:数字のみ
- 1:数字と英字(大文字)
- 2:数字と英字(小文字)
- 3:数字と英字(大小文字)

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxKindOfRandom プロパティ)を設定します。

• <u>APIxCreateRandomActivationKey</u> メソッド

# APIxLicenseCount プロパティ

## 【機能】

ライセンス数を設定します。

# 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxLicenseCount As Integer

## <C#>

public int APIxLicenseCount { set; get; }

# 【解説】

ライセンス数を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxLicenseCount プロパティ)に()内のライセンス数の各値を設定します。

- <u>APIxCreateOneActivationKey</u> メソッド(作成するライセンス数)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(作成するライセンス数)
- <u>APIxCreateNumberingActivationKey</u> メソッド(作成するライセンス数)

# APIxNumberingCount プロパティ

## 【機能】

シリアル No.を作成する数を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxNumberingCount As Integer

## <C#>

public int APIxNumberingCount { set; get; }

# 【解説】

シリアル No.を作成する数を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxNumberingCount プロパティ)を設定します。

- <u>APIxCreateRandomActivationKey</u> メソッド
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド

# APIxProductID プロパティ

## 【機能】

プロダクト ID を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxProductID As String

#### <C#>

public string APIxProductID { set; get; }

## 【解説】

プロダクト ID を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxProductID プロパティ)に()内のプロダクト ID の各値を設定します。

- <u>APIxCreateOneActivationKey</u> メソッド(作成するプロダクト ID)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(作成するプロダクト ID)
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド(作成するプロダクト ID)
- APIxDeleteActivationKey メソッド(削除するプロダクト ID)
- <u>APIxEditOfExpirationDate</u> メソッド(有効期限を変更したいプロダクト ID)

#### APIxProxyServerAddress プロパティ

#### 【機能】

プロキシサーバーのアドレスを設定します。

#### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxProxyServerAddress As String

#### **<C#>**

public string APIxProxyServerAddress { set; get; }

### 【解説】

プロキシサーバーのアドレスを設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- ・APIxProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス) → **当プロパティ**
- •APIxProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- APIxProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- APIxProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- ・APIxCreateOneActivationKey メソッド(製品 1 本分の認証キーの新規作成)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.をランダムに自動作成)
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.を自動ナンバリング作成)
- ・APIxDeleteActivationKey メソッド(作成済みの認証キーの削除)
- ・APIxEditOfExpirationDate メソッド(既存の有効期限を変更))

#### APIxProxyServerPassword プロパティ

#### 【機能】

プロキシサーバーのパスワードを設定します。

#### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxProxyServerPassword As String

#### **<C#>**

public string APIxProxyServerPassword { set; get; }

### 【解説】

プロキシサーバーのパスワードを設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIxProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- •APIxProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- APIxProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- ・APIxProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード) → **当プロパティ**

- ・APIxCreateOneActivationKey メソッド(製品 1 本分の認証キーの新規作成)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.をランダムに自動作成)
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.を自動ナンバリング作成)
- ・APIxDeleteActivationKey メソッド(作成済みの認証キーの削除)
- ・APIxEditOfExpirationDate メソッド(既存の有効期限を変更))

## APIxProxyServerPort プロパティ

#### 【機能】

プロキシサーバーのポートを設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxProxyServerPort As String

#### **<C#>**

public string APIxProxyServerPort { set; get; }

### 【解説】

プロキシサーバーのポートを設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIxProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- ・APIxProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート) → **当プロパティ**
- APIxProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- APIxProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- ・APIxCreateOneActivationKey メソッド(製品 1 本分の認証キーの新規作成)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.をランダムに自動作成)
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.を自動ナンバリング作成)
- ・APIxDeleteActivationKey メソッド(作成済みの認証キーの削除)
- ・APIxEditOfExpirationDate メソッド(既存の有効期限を変更))

#### APIxProxyServerUserName プロパティ

#### 【機能】

プロキシサーバーのユーザ名を設定します。

#### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxProxyServerUserName As String

#### **<C#>**

public string APIxProxyServerUserName { set; get; }

#### 【解説】

プロキシサーバーのユーザ名を設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用する場合のみ設定が必要です。 プロキシサーバーを使用する場合は、当プロパティを含む次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIxProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- •APIxProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- ・APIxProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)→**当プロパティ**
- APIxProxyServerPassword プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- ・APIxCreateOneActivationKey メソッド(製品 1 本分の認証キーの新規作成)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.をランダムに自動作成)
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.を自動ナンバリング作成)
- ・APIxDeleteActivationKey メソッド(作成済みの認証キーの削除)
- ・APIxEditOfExpirationDate メソッド(既存の有効期限を変更))

## APIxSerialNo プロパティ

### 【機能】

シリアル No.を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxSerialNo As String

### <C#>

public string APIxSerialNo { set; get; }

## 【解説】

シリアル No.を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxProductID プロパティ)に()内のシリアル No.の各値を設定します。

- APIxCreateOneActivationKey メソッド(作成するシリアル No.)
- APIxDeleteActivationKey メソッド(削除するシリアル No.)
- APIxEditOfExpirationDate メソッド(有効期限を変更したいシリアル No.)

## APIxSerialNoString プロパティ

#### 【機能】

認証キー情報作成直後のシリアル No.を取得します。(取得専用)

#### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxSerialNoString As String

#### **<C#>**

public string APIxSerialNoString { get; }

### 【解説】

認証キー情報作成直後のシリアル No.を取得します。(取得専用)

認証キー情報とは、プロダクト ID、シリアル No.、ライセンス数、有効期限利用の有無、有効期限などの総称です。

次のメソッドを実行すると当プロパティ(APIxSerialNoString プロパティ)に新しく生成されたシリアルNoの文字列が設定されます。

- APIxCreateOneActivationKey メソッド
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド

複数のシリアル No.が生成された場合は、デリミタのカンマ(, )で区切られた文字列が設定されます。

(例)"0000001,0000002,0000003"

上記メソッド実行時のエラーによるシリアル No.の未生成時は、当プロパティ(APIxSerialNo プロパティ)には、""(空文字列)が設定されます。

# APIxStartNo プロパティ

## 【機能】

シリアル No.を自動的にナンバリングして作成する場合の開始番号を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxStartNo As Integer

### <C#>

public int APIxStartNo { set; get; }

## 【解説】

シリアル No.を自動的にナンバリングして作成する場合の開始番号を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxStartNo プロパティ)を設定します。
• APIxCreateNumberingActivationKey メソッド

## APIxStartFixedString プロパティ

#### 【機能】

作成するシリアル No.の上位固定文字列を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxStartFixedString As String

#### <C#>

public string APIxStartFixedString { set; get; }

### 【解説】

作成するシリアル No.の上位固定文字列を設定します。

(例)作成するシリアル No.の上位 4 桁を"0001"で固定する場合

<VB> Class1.myAPIActivate.APIxStartFixedString = "0001"

<C#> Class1.myAPIActivate.APIxStartFixedString = "0001";

<VC++> theApp.m\_pAPIActivation-> APIxStartFixedString = "0001";

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxStartFixedString プロパティ)に上位固定文字列を設定します。

- APIxCreateRandomActivationKey メソッド
- ・APIxCreateNumberingActivationKey メソッド

# APIxStepNo プロパティ

### 【機能】

シリアル No.を自動的にナンバリングして作成する場合の間隔(ステップ)数を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxStepNo As Integer

### <C#>

public int APIxStepNo { set; get; }

## 【解説】

シリアル No.を自動的にナンバリングして作成する場合の間隔(ステップ)数を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxStepNo プロパティ)を設定します。

• <u>APIxCreateNumberingActivationKey</u> メソッド

### APIxUseProxyServer プロパティ

#### 【機能】

プロキシサーバーの使用区分(デフォルト: False)を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxUseProxyServer As Boolean

#### <C#>

public bool APIxUseProxyServer { set; get; }

#### 【解説】

プロキシサーバーの使用区分(デフォルト: False)を設定します。

インターネットに接続する際にプロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。

プロキシサーバーを使用する場合は当プロパティに True を、使用しない場合は False をそれぞれ設定します。

プロキシサーバーを使用する場合は、次のプロパティに適切な設定が必要です。

- APIxProxyServerAddress プロパティ(プロキシサーバーのアドレス)
- APIxProxyServerPort プロパティ(プロキシサーバーのポート)
- APIxProxyServerUserName プロパティ(プロキシサーバーのユーザ名)
- <u>APIxProxyServerPassword</u> プロパティ(プロキシサーバーのパスワード)

- APIxCreateOneActivationKey メソッド(製品 1 本分の認証キーの新規作成)
- APIxCreateRandomActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.をランダムに自動作成)
- ・APIxCreateNumberingActivationKey メソッド(認証キーのシリアル No.を自動ナンバリング作成)
- APIxDeleteActivationKey メソッド(作成済みの認証キーの削除)
- ・APIxEditOfExpirationDate メソッド(既存の有効期限を変更))

## APIxUseRental プロパティ

### 【機能】

レンタル機能の使用(False:利用しない、True:利用する)を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxUseRental As Boolean

#### <C#>

public bool APIxUseRental { set; get; }

#### 【解説】

貴社がエンドユーザに配布するアプリケーションでレンタル機能を使用するかどうかを設定します。 レンタル機能を使用しない場合は False、使用する場合は True を設定します。

認証レスキュー!2 の認証 UI ライブラリ(DLL)の次表のプロパティに何を設定しているかにより、当プロパティ(APIxUseRental プロパティ)の値が決まります。

認証 UI ライブラリ (DLL)の利用形態	認証 UI ライブラリ (DLL)で使用してい るプロパティ	認証 UI ライブラリ(DLL) でのプロパティの値	当 プ ロ パ テ ィ (APIxUseRental プロ パティ)に設定する値
UI 系で使用してい	RentalPeriod プロパ	0	False
る場合	ティ	1~1100	True
API 系で使用してい	APIRentalPeriod プ	0	False
る場合	ロパティ	1~1100	True

※お客様のパッケージ製品にマルチライセンス(例:10 ライセンス)が含まれる場合はレンタル機能は使用できません。レンタル機能を使用するにはシングルライセンス(1 ライセンス)の製品である必要があります。また、レンタル機能を使用する場合は「電話で認証登録」機能は利用できません。

## APIxUseExpirationDate プロパティ

### 【機能】

有効期限利用の有無(False:利用しない、True:利用する)を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxUseExpirationDate As Boolean

#### <C#>

public bool APIxUseExpirationDate { set; get; }

# 【解説】

有効期限利用の有無(False:利用しない、True:利用する)を設定します。

次のメソッドの実行時に当プロパティ(APIxUseExpirationDate プロパティ)に有効期限利用の有無を設定します。

- -APIxCreateOneActivationKey メソッド
- ・APIxCreateRandomActivationKey メソッド
- APIxCreateNumberingActivationKey メソッド
- •APIxEditOfExpirationDate メソッド

## APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword プロパティ

### 【機能】

Web サービス時の基本認証パスワードを設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword As String

### <C#>

public string APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword { set; get; }

## 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合に、そのパスワードを指定します。 基本認証に関しては、APIxWebServiceUseBasicAuthentication プロパティを参照してください。

## APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName プロパティ

### 【機能】

Web サービス時の基本認証ユーザ名を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName As String

### <C#>

public string APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName { set; get; }

## 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合に、そのユーザ名を指定します。 基本認証に関しては、APIxWebServiceUseBasicAuthentication プロパティを参照してください。

### APIxWebServiceCheckPassword プロパティ

### 【機能】

Web サービス確認パスワード(8 文字以上)を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxWebServiceCheckPassword As String

#### <C#>

public string APIxWebServiceCheckPassword { set; get; }

### 【解説】

Web サービスを利用する場合の確認用のパスワードを設定します。ここでは、Web サーバー側設定 アプリケーション「認証 Web サービス」の環境設定処理の Web サービスの確認パスワードと同じものを設定します。

確認パスワードは必須項目です、省略はできません。8 文字以上で半角の次の文字が使用できます。

- ·大文字の英字(A~Z)
- ・小文字の英字(a~z)
- •数字(0~9)
- ·記号(+-\*/!#\$%&()=\@<>?)

## APIxWebServiceTimeout プロパティ

## 【機能】

Web サービスのタイムアウト(デフォルト:60 秒)を設定します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property **APIxWebServiceTimeout** As **Integer** 

### <C#>

public int APIxWebServiceTimeout { set; get; }

## 【解説】

Web サービスに接続して応答を待つ最大時間を秒単位で指定します。初期値は 60 秒です。

### APIxWebServiceURL プロパティ

#### 【機能】

Web サービスの URL を設定します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxWebServiceURL As String

#### <C#>

public string APIxWebServiceURL { set; get; }

### 【解説】

認証に関するシステムを Web サービスとして提供する Web サーバーの URL を指定します。 以下に例を示します。

自 PC のローカルホストの Web サーバー(IIS)にアクセスする例:

"http://localhost/Nr2WebService/Service.asmx"

(注)この例は実際の運用ではありえません。貴社のアプリケーションで認証 UI ライブラリ(DLL)を使用した開発時に、テスト用に使用される URL です。

自社 Web サーバー(IIS)にアクセスさせる例:

"http://www.newtone.co.jp/Nr2WebService/Service.asmx"

クラウドサービス Microsoft Azure の Web アプリ (旧 Web サイト)に配置した Web サービスを利用する例:

"http://newtonecojp.azurewebsites.net/Service.asmx"

#### APIxWebServiceUseBasicAuthentication プロパティ

#### 【機能】

Web サービス時の基本認証の使用(デフォルト: False)を設定します。

#### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Property APIxWebServiceUseBasicAuthentication As Boolean

#### **<C#>**

public bool APIxWebServiceUseBasicAuthentication { set; get; }

### 【解説】

Web サーバーで基本認証を使用する場合は、当プロパティを True にします。 初期値は、False(基本認証を使用しない)です。

当プロパティは、Web サーバー(IIS)側で特定のアカウント(ユーザ名とパスワード)でアクセスできるフォルダにこの Web サービスが配置してある場合に使用できるセキュリティ設定です。

Web サーバーで基本認証を使用する一般的な手順は次の通りです。

- 1.サーバーPC 上でユーザを作成。 この際のユーザ名とパスワードがそのまま基本認証に使われます。
- 2.基本認証フォルダのセキュリティ設定 フォルダのプロパティを開き、セキュリティタブで上記 1 のユーザ名を 追加し、「読み取り」権限を 付与します。
- 3.IIS でのセキュリティ設定

IIS で該当フォルダに対し「認証」の設定で「匿名認証」を無効にして 「基本認証」を有効にします。

なお、Webサーバーでの基本認証の詳細につきましてはマイクロソフト社の関連ドキュメントをご覧ください。

# <ASP.NET 系メソッド>

# メソッド一覧

メソッド	機能
<u>APIxCreateNumberingActivationKey</u>	製品の認証キー情報を指定した数だけシリアル No.を
	自動的にナンバリングして作成します。
<u>APIxCreateOneActivationKey</u>	製品1本分の認証キー情報を新規に作成します。
<u>APIxCreateRandomActivationKey</u>	製品の認証キー情報を指定した数だけ、シリアル No.
	をランダムに自動作成します。
<u>APIxDeleteActivationKey</u>	作成済みの認証キー情報を削除します。
APIxEditOfExpirationDate	既存の認証キー情報内の有効期限を変更します。

### APIxCreateNumberingActivationKey メソッド

### 【機能】

製品の認証キー情報を指定した数だけシリアル No.を自動的にナンバリングして作成します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Function APIxCreateNumberingActivationKey () As Integer

#### <C#>

public int APIxCreateNumberingActivationKey ()

### 【引数】

なし

## 【戻り値】

生成されたシリアル No.の数。

エラー時は 0 が設定され、戻り値とは別に、APIxErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

また、APIxSerialNoString プロパティに新しく生成されたシリアル No.をデリミタのカンマ(, )で区切った文字列が設定されます。シリアル No.の未生成時は、 $\tilde{r}$ (空文字列)が設定されます。

### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

プロパティ	機能	
<u>APIxUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
<u>APIxProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレ	プロキシサーバ
	ス	一使用時
<u>APIxProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	
<u>APIxProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ	
	名	
APIxProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
	<b>-</b> F	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワード(基本認	
	証使用時)	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基本認	
	証使用時)	
<u>APIxWebServiceCheckPassword</u>	Web サービス確認パスワード	
<u>APIxWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト	
<u>APIxWebServiceURL</u>	Web サービスの URL	
<u>APIxWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	
APIxProductID	プロダクト ID	
APIxLicenseCount	ライセンス数	
<u>APIxUseExpirationDate</u>	有効期限利用の有無(False:利用しない、	
	True:利用する)	
APIxExpirationDate	有効期限	
APIxStartFixedString	作成するシリアル No.の上位固定文字列	

<u>APIxStartNo</u>	作成するシリアル No.開始番号
<u>APIxStepNo</u>	作成するシリアル No.間隔(ステップ)数
APIxNumberingCount	作成するシリアル No.の数
APIxUseRental	レンタル機能利用の有無(False:利用しない、
	True:利用する)
<u>APIxExternalLinkKey</u>	外部データベースとのリンク用キー項目を設定
APIxFreeItem1~5	自由入力項目 1~5を設定

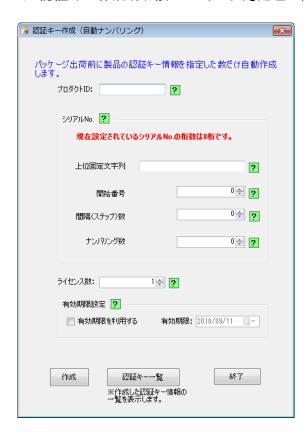
## 【解説】

このメソッドは、認証キー情報を指定した数だけシリアル No.を自動的にナンバリングして作成します。

認証キー情報とは、プロダクト ID、シリアル No.、ライセンス数、有効期限利用の有無、有効期限などの総称です。

認証管理システム(InsideSystem.exe)の「認証キー作成(自動ナンバリング)」処理と同等の機能を提供します。

◆「認証キー作成(自動ナンバリング)」処理の画面例(参考)



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある各プロパティに適切な値を設定します。
- [2] 当メソッド (APIx Create Numbering Activation Key メソッド) を実行します。

### APIxCreateOneActivationKey メソッド

# 【機能】

製品1本分の認証キー情報を新規に作成します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Function APIxCreateOneActivationKey () As Integer

#### **<C#>**

public int APIxCreateOneActivationKey()

### 【引数】

なし

## 【戻り値】

生成されたシリアル No.の数(当メソッドの場合は 1)。

エラー時は 0 が設定され、戻り値とは別に、APIxErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

また、APIxSerialNoString プロパティには新しく生成されたシリアル No. (当メソッドの場合は、APIxSerialNoプロパティに指定した値)が設定されます。エラーによるシリアル No.の未生成時は、この APIxSerialNoString プロパティには、""(空文字列)が設定されます。

### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

プロパティ	機能	
<u>APIxUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
APIxProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレ	プロキシサーバ
	ス	一使用時
<u>APIxProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	
<u>APIxProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ	
	名	
<u>APIxProxyServerPassword</u>	プロキシサーバーのパスワ	
	<b>-ド</b>	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワード(基本認	
	証使用時)	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基本認	
	証使用時)	
<u>APIxWebServiceCheckPassword</u>	Web サービス確認パスワード	
<u>APIxWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト	
<u>APIxWebServiceURL</u>	Web サービスの URL	
<u>APIxWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	
<u>APIxProductID</u>	(作成する)プロダクト ID	
<u>APIxSerialNo</u>	(作成する)シリアル No.	
APIxLicenseCount	(作成する)ライセンス数	
<u>APIxUseExpirationDate</u>	有効期限利用の有無(False:利用しない、	
	True:利用する)	
APIxExpirationDate	有効期限	

APIxUseRental	レンタル機能利用の有無(False:利用しない、	
	True:利用する)	
<u>APIxExternalLinkKey</u>	外部データベースとのリンク用キー項目を設定	
APIxFreeItem1~5	自由入力項目 1~5を設定	

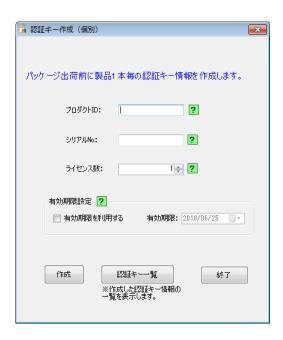
### 【解説】

このメソッドは、製品1本分の認証キー情報を新規に作成します。

認証キー情報とは、プロダクト ID、シリアル No.、ライセンス数、有効期限利用の有無、有効期限などの総称です。

認証管理システム(InsideSystem.exe)の「認証キー作成(個別)」処理と同等の機能を提供します。

◆「認証キー作成(個別)」処理の画面例(参考)



### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある各プロパティに適切な値を設定します。
- [2] 当メソッド(APIxCreateOneActivationKey メソッド)を実行します。

### APIxCreateRandomActivationKey メソッド

# 【機能】

製品の認証キー情報を指定した数だけ、シリアル No.をランダムに自動作成します。

### 【構文】

**<VB2010>** 

Public Function APIxCreateRandomActivationKey () As Integer

#### <C#>

public int APIxCreateRandomActivationKey ()

#### 【引数】

なし

## 【戻り値】

生成されたシリアル No.の数。

エラー時は 0 が設定され、戻り値とは別に、APIxErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

また、APIxSerialNoString プロパティに新しく生成されたシリアル No.をデリミタのカンマ(, )で区切った文字列が設定されます。シリアル No.の未生成時は、 $\tilde{x}$ (空文字列)が設定されます。

### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

プロパティ	機能	
APIxUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分	
APIxProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレ	プロキシサーバ
	ス	一使用時
<u>APIxProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	
<u>APIxProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ	
	名	
<u>APIxProxyServerPassword</u>	プロキシサーバーのパスワ	
	ード	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワード(基本認	
	証使用時)	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証	ユーザ名(基本認
	証使用時)	
APIxWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	•
<u>APIxWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト	
<u>APIxWebServiceURL</u>	Web サービスの URL	
<u>APIxWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	
APIxProductID	プロダクト ID	
APIxLicenseCount	ライセンス数	
<u>APIxUseExpirationDate</u>	有効期限利用の有無(False:利用しない、	
	True:利用する)	
APIxExpirationDate	有効期限	
APIxStartFixedString	シリアル No.の上位固定文字列	
<u>APIxKindOfRandom</u>	シリアル No.のランダム文字種の指定	

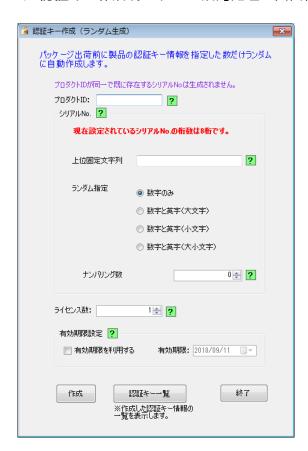
	0:数字のみ、1:数字と英字(大文字)、2:数字 と英字(小文字)、3:数字と英字(大小文字)
APIxNumberingCount	作成するシリアル No.の数
APIxUseRental	レンタル機能利用の有無(False:利用しない、
	True:利用する)
<u>APIxExternalLinkKey</u>	外部データベースとのリンク用キー項目を設定
APIxFreeItem1~5	自由入力項目 1~5を設定

#### 【解説】

このメソッドは、認証キー情報を指定した数だけ、シリアル No.をランダムに自動作成します。 認証キー情報とは、プロダクト ID、シリアル No.、ライセンス数、有効期限利用の有無、有効期限などの総称です。

認証管理システム(InsideSystem.exe)の「認証キー作成(ランダム生成)」処理と同等の機能を提供します。

◆「認証キー作成(ランダム生成)」処理の画面例(参考)



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある各プロパティに適切な値を設定します。
- [2] 当メソッド(APIxCreateRandomActivationKey メソッド)を実行します。

### APIxDeleteActivationKey メソッド

#### 【機能】

作成済みの認証キー情報を削除します。

## 【構文】

#### **<VB2010>**

Public Function APIxDeleteActivationKey () As Integer

#### <C#>

public int APIxDeleteActivationKey ()

#### 【引数】

なし

### 【戻り値】

削除に成功した場合は1が設定されます。

エラー時は 0 が設定され、戻り値とは別に、APIxErrorStatus プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

# 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

プロパティ	機能	
<u>APIxUseProxyServer</u>	プロキシサーバーの使用区分	
APIxProxyServerAddress	プロキシサーバーのアドレ	プロキシサーバ
	ス	一使用時
<u>APIxProxyServerPort</u>	プロキシサーバーのポート	
<u>APIxProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ	
	名	
<u>APIxProxyServerPassword</u>	プロキシサーバーのパスワ	
	<b>-</b> F	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword</u>	Web サービス時の基本認証パスワード(基本認	
	証使用時)	
<u>APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName</u>	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基本認	
	証使用時)	
APIxWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	
<u>APIxWebServiceTimeout</u>	Web サービスのタイムアウト	
<u>APIxWebServiceURL</u>	Web サービスの URL	
<u>APIxWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	
APIxProductID	(削除する)プロダクト ID	
<u>APIxSerialNo</u>	(削除する)シリアル No.	

### 【解説】

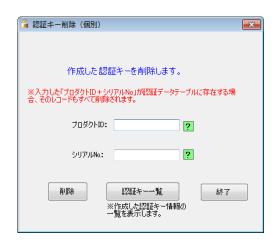
このメソッドは、作成済みの認証キー情報を削除します。

認証キー情報とは、プロダクト ID、シリアル No.、ライセンス数、有効期限利用の有無、有効期限などの総称です。

認証管理システム(InsideSystem.exe)の「認証キー削除(個別)」処理と同等の機能を提供します。

指定した認証キーテーブルの「プロダクト ID」+「シリアル No.」が認証データテーブルに存在する場合は、そのレコードもすべて削除されます。

◆「認証キー作成(個別)」処理の画面例(参考)



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある各プロパティに適切な値を設定します。
- [2] 当メソッド(APIxDeleteActivationKey メソッド)を実行します。

### APIxEditOfExpirationDate メソッド

### 【機能】

既存の認証キー情報内の有効期限を変更します。

## 【構文】

**<VB2010>** 

Public Function APIxEditOfExpirationDate () As Integer

#### <C#>

public int APIxEditOfExpirationDate ()

### 【引数】

なし

## 【戻り値】

有効期限の変更に成功した場合は1が設定されます。

エラー時は 0 が設定され、戻り値とは別に、 $\underline{APIxErrorStatus}$ プロパティに当メソッド実行後のエラー内容がセットされます。

### 【必須設定プロパティ】

このメソッドの利用には、あらかじめ次のプロパティに適切な値が設定されている必要があります。

プロパティ	機能	
APIxUseProxyServer	プロキシサーバーの使用区分	
<u>APIxProxyServerAddress</u>	プロキシサーバーのアドレ	プロキシサーバ
	ス	一使用時
APIxProxyServerPort	プロキシサーバーのポート	
<u>APIxProxyServerUserName</u>	プロキシサーバーのユーザ	
	名	
APIxProxyServerPassword	プロキシサーバーのパスワ	
	<b>-</b> F	
APIxWebServiceBasicAuthenticationPassword	Web サービス時の基本認証パスワード(基本認	
	証使用時)	
APIxWebServiceBasicAuthenticationUserName	Web サービス時の基本認証ユーザ名(基本認	
	証使用時)	
APIxWebServiceCheckPassword	Web サービス確認パスワード	
APIxWebServiceTimeout	Web サービスのタイムアウト	
APIxWebServiceURL	Web サービスの URL	
<u>APIxWebServiceUseBasicAuthentication</u>	Web サービス時の基本認証の使用区分	
APIxProductID	(有効期限を変更する)プロダクト ID	
<u>APIxSerialNo</u>	(有効期限を変更する)シリアル No.	
<u>APIxUseExpirationDate</u>	有効期限利用の有無(False:利用しない、	
	True:利用する)	
APIxExpirationDate	(新しい)有効期限	

### 【解説】

このメソッドは、既存の認証キー情報の内の有効期限を変更します。

認証キー情報とは、プロダクト ID、シリアル No.、ライセンス数、有効期限利用の有無、有効期限な

どの総称です。

認証管理システム(InsideSystem.exe)の「認証キー編集(表形式)」処理の一部と同等の機能を提供します。

◆「認証キー編集(表形式)」処理の画面例(参考)



#### ◆処理手順

- 一連の処理の手順は次の通りです。
- [1]上記の【必須設定プロパティ】一覧にある各プロパティに適切な値を設定します。
- [2] 当メソッド(APIxEditOfExpirationDate メソッド)を実行します。

### 代理認証機能について

次の8つのメソッド

- 1.「代理認証登録/準備」処理の呼び出し/ProxyActivateRegisterPrepare
- 2.「代理認証登録/確定」処理の呼び出し/ProxyActivateRegisterFix
- 3.「代理認証解除/準備」処理の呼び出し/ProxyActivateRemovePrepare
- 4.「代理有効期限更新/準備」処理の呼び出し/PreparationOfProxyUpdateOfExpirationDate
- 5.「代理有効期限更新/確定」処理の呼び出し/DeterminationOfProxyUpdateOfExpirationDate
- 6.「代理認証登録/実行」処理の呼び出し(代理 PC で利用)/ProxyActivateRegisterExecute
- 7.「代理認証解除/実行」処理の呼び出し(代理 PC で利用)/ProxyActivateRemoveExecute
- 8.「代理有効期限/取得」処理の呼び出し(代理 PC で利用)/GetProxyUpdateOfExpirationDate

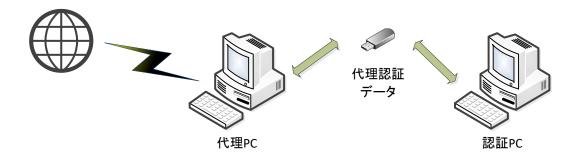
は代理で認証する機能です。

これらの機能は、実際にライセンスの認証登録をして貴社のアプリケーションを動作させたいエンド ユーザの PC がインターネット経由での認証ができない状態で、かつ貴社も電話による認証を受け 付ける体制をもたない場合の手段として利用できます。

これは、エンドユーザにとっては電話で認証する場合と違い貴社の休業日でも認証でき、貴社にとっては電話受付による人材や体制のためのコストが不要になる、という双方にとってのメリットがあります。

代理認証は、エンドユーザがこの機能を使ってインターネット接続できる他の PC で代わりに認証を して、その認証情報を貴社のアプリケーションを動作させたい PC に保存する、というものです。

次図のような流れになります。



この代理認証機能を使用しないのであれば以降の記載は必要ありませんので読み飛ばしてください。

# ◆エンドユーザが行う処理

#### <代理認証登録>

- ・最終的に認証登録したい PC で、「代理認証**登録**/準備」処理を行い、代理認証準備データを USB メモリなどに出力します。
- ・代理に使う PC で、代理認証準備データを読込み「代理認証**登録**/実行」処理をインターネット経由で行い、代理認証実行データを USB メモリなどに出力します。
- ・最終的に認証登録したい PC で、代理認証実行データを読込み「代理認証**登録**/確定」処理を行い 認証**登録**が確定します。

### <代理認証解除>

- ・最終的に認証解除したい PC で、「代理認証解除/準備」処理を行い、代理認証準備データを USB メモリなどに出力します。この時点で認証 PC の認証は解除されます。
- ・代理に使う PC で、代理認証準備データを読込み「代理認証解除/実行」処理をインターネット経由で行い、認証解除が確定します。

### <代理有効期限更新>

- ・最終的に認証登録済の有効期限を更新したい PC で、「代理**有効期限更新**/準備」処理を行い、代理有効期限更新準備データを USB メモリなどに出力します。
- ・代理に使う PC で、代理有効期限更新準備データを読込み「代理**有効期限**/取得」処理をインターネット経由で行い、代理有効期限取得データを USB メモリなどに出力します。
- ・最終的に認証登録済の有効期限を更新したい PC で、代理有効期限取得データを読込み「代理**有効期限更新**/確定」処理を行い有効期限の**更新**が確定します。

#### ◆貴社が行う作業

上記の「エンドユーザが行う処理」をエンドユーザに操作させるために認証 UI ライブラリ(DLL)を利用してアプリケーションに代理機能を組み込む必要があります。

エンドユーザに対し、最終的に認証したい PC で作業させる処理の例は付属の開発言語別のサンプルプロジェクトの PackageApp 内に、代理 PC で作業させる処理の例は付属の開発言語別のサンプルプロジェクトの ProxyApp にそれぞれあります。

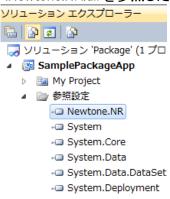
したがって、貴社は最終的に認証したい PC 用のアプリケーションの他に代理 PC で代理処理をするための(ProxyApp のような)アプリケーションを作成し配布する必要があります。

### ■認証 UI ライブラリの参照

### Visual Studio 2010 (Visual Baisc 2010/C# 2010) の場合

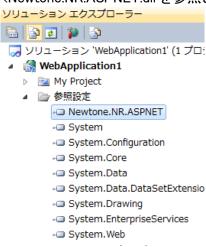
認証レスキュー!の認証 UI ライブラリ(DLL)を使用するプロジェクトの「参照の追加」で Newtone.NR. dll を参照します。

〈Newtone.NR.dll を参照した後の参照設定の様子 (Visual Basic 2010)〉



また、ASP.NET 系の DLL を使用する場合は、プロジェクトの「参照の追加」で Newtone.NR.ASPNET. dll を参照します。

<Newtone.NR.ASPNET.dll を参照した後の参照設定の様子(Visual Basic 2010)>



Newtone.NR.dll および Newtone.NR.ASPNET.dll は、インストール先がデフォルトの場合、次のフォルダ内にあります。

#### .NET Framework4.0 用の DLL

<32bitOS の場合〉 C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0 <64bitOS の場合〉 C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0

#### .NET Framework3.5 用の DLL

<32bitOS の場合〉 C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework3.5 <64bitOS の場合〉 C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework3.5

#### Visual Studio 6.0 (Visual Basic 6.0) の場合

認証 UI ライブラリ(DLL)を Visual Basic(以降 VB)6 から利用する方法は次の通りです。

次の 2 つのファイルが必要です。 Newtone.NR.dll

Newtone.NR.tlb

これらはインストール先がデフォルトの場合、次のフォルダ内にあります。

<32bitOS の場合〉 C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0

<64bitOS の場合〉 C:\Program Files (x86)\Powtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0

### 手順 1:DLL の登録

次の通りコマンドプロンプトなどで DLL の登録(解除)を行います。 〈DIIPath〉は、上記のフォルダパスを示します。

#### ◆DLL の登録

C:\forall C:\forall VINDOWS\forall Microsoft.NET\forall Framework\forall v4.0.30319\forall regasm.exe \quad '<DllPath\rangle Newtone.NR.dll' \quad \text{tlb} \quad '<br/> codebase \quad \nologo

#### (例:)<32bitOS の場合>

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{NET\f

#### (例:)<64bitOS の場合>

C:\footnote{\text{C:}\text{WINDOWS}\text{Microsoft.NET}\text{Framework}\text{\$\text{\$\subset 4.0.30319}\text{Yregasm.exe} "C:\text{\$\text{\$\text{\$\text{Program}}\$ Files (x86)}\text{\$\texit{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\

また、登録した DLL を解除する場合は次の通りです。

#### ◆DLL の解除

C:\forall C:\forall VINDOWS\forall Microsoft.NET\forall Framework\forall v4.0.30319\forall regasm.exe \quad \forall DIIPath \rangle Newtone.NR.tlb \quad \quad \quad \quad \text{/u /nologo}

## (例:)<32bitOS の場合>

C:\forall C:\forall VINDOWS\forall Microsoft.NET\forall Framework\forall v4.0.30319\forall regasm.exe "C:\forall Program Files\forall Newtone\forall NR.dll" \text{C:\forall Program Files\forall Newtone\forall NR.2\forall NR.2\forall NR.dll" \text{Vib:"C:\forall Program Files\forall Newtone\forall NR.2\forall NR.2\forall NR.dll" \text{Vib:"C:\forall Program Files\forall Newtone\forall NR.2\forall NR.dll" \text{Vib:"C:\forall Program Files\forall Newtone\forall NR.dll" \text{Vib:\forall Program Files\forall NR.dll" \text{Vib:\forall Program File

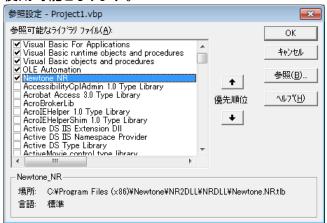
#### (例:)<64bitOS の場合>

C:\forall C:\forall WINDOWS\forall Microsoft.NET\forall Framework\forall v4.0.30319\forall regasm.exe "C:\forall Program Files (x86)\forall Newtone\forall NR.2\forall NR.2\fo

#### 手順 2: VB6 の IDE で DLL を参照

上記の DLL の登録後、VB6 の IDE 上で次の通り参照設定を行います。 メニューバーからプロジェクト→参照設定ダイアログで、「Newtone.NR」にチェックを入れると DLL が

# 使用可能となります。



### Visual C++の場合

認証 UI ライブラリ(DLL)を Visual C++(以降 VC++)から利用する方法は次の通りです。

次の3つのファイルが必要です。

Newtone.NR.dll

NewtoneNRvcpp.dll

NewtoneNRvcpp.tlb

これらは、認証レスキュー!2の「認証 UI ライブラリ」をインストールしてインストール先がデフォルトの場合、次のフォルダ内にあります。

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0 <64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0

### 手順 1:DLL の登録

次の通りコマンドプロンプトなどで DLL の登録(解除)を行います。 〈DIIPath〉は、上記のフォルダパスを示します。

\_\_\_\_\_

DLL の登録

\_\_\_\_\_

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{Framework(または Framework64)\footnote{V4.0.30319\footnote{Framework64)\footnote{Framework64}\footnote{F

#### (例:)<32bitOS の場合>

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{NET\f

#### (例:) <64bitOS 上で 32bit(Win32,x86)EXE を実行する場合>

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{NET\footnote{NET\footnote{NET\footnote{NET\footnote{NET\footnote{NET\footnote{NEV\f

#### (例:)<64bitOS 上で 64bit(Win64,x64)EXE を実行する場合>

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{NET\footnote{Framework64\footnote{V}}4.0.30319\footnote{Negasm.exe} "C:\footnote{Program Files} (x86)\footnote{NR2\footnot

また、登録した DLL を解除する場合は次の通りです。

DLL の解除

\_\_\_\_\_

C:\footnote{\text{C:\footnote{\text{WINDOWS\footnote{\text{MINDOWS\

#### (例:)<32bitOS の場合>

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{NET\f

#### (例:) <64bitOS 上で 32bit(Win32,x86)EXE の実行を解除するの場合>

C:\footnote{WINDOWS\footnote{Microsoft.NET\footnote{NET\f

#### (例:) <64bitOS 上で 64bit(Win64,x64)EXE の実行を解除するの場合>

C:\forall C:\forall WINDOWS\forall Microsoft.NET\forall Framework 64\forall v4.0.30319\forall regasm.exe "C:\forall Program Files (x86)\forall Newtone\forall NR2\forall NR2\forall NRDLL\forall Framework 4.0\forall Newtone\forall Rvcpp.tlb" /u /nologo \forall value /nologo

## 手順 2: VC++用のタイプライブラリの Path をアプリケーション内で指定する

VC++アプリケーションから認証レスキュー!2のVC++用のDLLを利用するためには、そのアプリケーション内でVC++用のタイプライブラリ(NewtoneNRvcpp.tlb)のPathを指定する必要があります。 認証レスキュー!2のVC++用のサンプルプロジェクトではタイプライブラリ(NewtoneNRvcpp.tlb)へのパスは次のファイル内に記述してありますのでご確認ください。

サンプルプロジェクト PackageApp → PackageApp.h サンプルプロジェクト ProxyApp → ProxyAppDlg.h

#### (コード例)

// 認証レスキュー!2の VC++用の tlb をインポート

## ■認証 UI ライブラリ(DLL)を利用したコーディング <UI 系の場合>

### Visual Baisc 2010 の場合

付属のサンプルプロジェクト(NR2DLL¥SampleProject¥VisualBasic2010¥PackageApp)の例で説明します。

最初に、Newtone.NR.Activationクラスのインスタンスを作成します。 次の例では、2つのFormで同一のインスタンスで使用するためクラスClass1内でPublic Sharedで宣 言しています。

Public Class Class1

Public Shared myActivate As Newtone. NR. Activation = New Newtone. NR. Activation()

End Class

次に DLL のプロパティを設定します。 これらのプロパティは通常、最初に 1 回だけ固定的に設定するコードを記述します。

Public Class Form1

Private Sub Form1\_Load(sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles MyBase. Load

\_\_\_\_\_

'Newtone. NR. dllのプロパティの設定

'【重要】DLLの以下のプロパティは必ず適切なものを設定してください。

'ベンダ製品スタート開始レジストリキーパス(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

Class1.myActivate.VendorsProductStartRegistryKeyPath =

"Software\Newtone\NinshoRescue\NR-200\SampleProject"

'電話で認証時の電話番号(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

Class1, mvActivate, TelephoneNumber = "012-345-6789"

'暗号化時のパスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

Class1.myActivate.EncryptionPassword = "12345678ABCDEFGH"

'暗号化時のSalt文字列(8バイト以上)(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

Class1. myActivate. EncryptionSaltString = "認証レスキュー!"

'猶予日数 (デフォルト: 0日、設定可能範囲: 1~365日) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

Class1.myActivate.TrialPeriod = 0

'猶予期間の名称(デフォルト: "猶予(試用)期間")

Class1. myActivate. TrialPeriodName = "猶予 (試用)"

'レンタル日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100)

Class1. myActivate. RentalPeriod = 0

'レンタル期間の名称 (デフォルト:"レンタル")

Class1. myActivate. RentalPeriodName = "レンタル"

'MACアドレスの使用 (デフォルト: True) 「代理認証」利用時はMACアドレス必須

Class1.myActivate.UseMacAddress = True

'CPU情報の使用 (デフォルト: True)

Class1. myActivate. UseCpuInfo = True

'WebサービスのURL(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

Class1. myActivate. WebServiceURL = "http://localhost/NR2WebService/Service.asmx"

'Webサービス時の基本認証の使用 (デフォルト: False)

Class1.myActivate.WebServiceUseBasicAuthentication = False

```
'Webサービス時の基本認証ユーザ名
      Class1.myActivate.WebServiceBasicAuthenticationUserName = ""
      'Webサービス時の基本認証パスワード
      Class1.myActivate.WebServiceBasicAuthenticationPassword = ""
      'Webサービス確認パスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1.myActivate.WebServiceCheckPassword = "ABcd1234"
      'プロダクトIDの桁数(デフォルト:17) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1.myActivate.ProductIdNumberOfDigits = 17
      'シリアルNo. の桁数(デフォルト:8) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1.myActivate.SerialNoNumberOfDigits = 8
      'Webサービスのタイムアウト (デフォルト:60秒)
      Class1.myActivate.WebServiceTimeout = 60
      '認証登録時の設定プロダクトID(デフォルト:空文字列)
      Class1.myActivate.SetProductID = ""
      '認証登録時の設定シリアルNo. (デフォルト:空文字列)
      Class1. myActivate. SetSerialNo = ""
      CertificationStatus() '認証状況の確認
   End Sub
End Class
後は、必要に応じてDLLのメソッドを呼び出します。
次の例では、ActivateStatusCheck()メソッドで「認証状態確認」を行います。
Public Class Form1
   Private Sub CertificationStatus()
      '認証状況の確認
      'Button1、Button2、Button3を含むGroupBox1のEnabledプロパティをFalseにして無効とする。
      GroupBox1.Enabled = False
      Dim ret As Integer
      Dim stat As String '表示メッセージ
      ret = Class1. mvActivate. ActivateStatusCheck()
      '認証状況確認
      Select Case ret
         Case 0 ′期限切れ (猶予有効時)
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + Class1. myActivate. TrialPeriodName + "期限
が切れました。" + vbCr + "メニューは実行できません。" + vbCr + "「ライセンス管理」からライセンス
の認証登録を行ってください。"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
         Case 1 To 365 '猶予日数有
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + Class1. myActivate. TrialPeriodName + "期間
残日数は" + ret. ToString + "日です。" + vbCr + "続行します。'
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
```

. . .

```
MessageBoxIcon. Information)
             '猶予(試用)残日数があるので、Button1、Button2、Button3を含む
             'GroupBox1のEnabledプロパティをTrueにして有効とする。
             GroupBox1. Enabled = True
          Case 400 '未認証 (猶予無効時)
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + "ライセンスが認証されていません。" + vbCr +
"メニューは実行できません。" + vbCr + "「ライセンス管理」からライセンスの認証登録を行ってくださ
W. "
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
          Case 500 '認証済み
             '認証済みなので、Button1、Button2、Button3を含む
             'GroupBox1のEnabledプロパティをTrueにして有効とする。
             GroupBox1. Enabled = True
          Case 1000 'レンタル期限切れ
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + Class1. myActivate. RentalPeriodName + "期限
が切れました。 " + vbCr + "一度、認証解除を行ってから" + vbCr + "新しいシリアルNo. を使って認証登
録を行ってください。"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
          Case 1001 To 2100 'レンタル日数有
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + Class1. myActivate. RentalPeriodName + "期間
残日数は" + (ret - 1000). ToString + "日です。" + vbCr + "続行します。"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Information)
             GroupBox1. Enabled = True
          Case -999 '認証済ハードウェア情報不一致
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + "認証済ですが認証時のハードウェア情報と一
致しない情報があります。"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
          Case -1 'その他エラー
             stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + "認証状況確認中に何らかのエラーが発生しま
した。"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
          Case 20000101 To 21001231 '「有効期限」以内
             stat = "有効期限は、" + Mid(ret, 1, 4) + "/" + Mid(ret, 5, 2) + "/" + Mid(ret. 7.
2) + "までです。
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Information)
             GroupBox1. Enabled = True
          Case -21001231 To -20000101 '「有効期限」以外
             ret = ret * -1
             stat = "有効期限は、" + Mid(ret, 1, 4) + "/" + Mid(ret, 5, 2) + "/" + Mid(ret, 7,
             stat = stat + vbCr + "有効期限が切れました。"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
          Case 366 '日付データの取得失敗 (猶予)
             stat = "日付データの取得に失敗しました。(猶予)"
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
          Case 2101 '日付データの取得失敗 (レンタル)
```

```
stat = "日付データの取得に失敗しました。(レンタル)"
              MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
           Case -21001232 '日付データの取得失敗(有効期限)
              stat = "日付データの取得に失敗しました。(有効期限)"
              MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation)
           Case Else '想定外
              stat = "[ID:" + ret. ToString + "] " + "認証状況確認中に想定外のエラーが発生しま
した"
              MessageBox. Show(stat)
       End Select
   End Sub
. . .
End Class
次の例では、認証状況表示ダイアログを呼び出しています。
Public Class Form2
   Private Sub Button1_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button1. Click
       '認証状況表示
       If Class1. myActivate. ActivateStatusDisp() = False Then
           MessageBox. Show ("\pm \bar{\jmath}-")
       End If
   End Sub
. . .
End Class
以下の例では、認証の登録や解除に関する各処理を呼び出しています。
Public Class Form2
   Private Sub Button2_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button2. Click
       '認証登録/インターネット
       If Class1. myActivate. ActivateRegisterInternet() = False Then
           MessageBox. Show ("エラー")
       End If
   End Sub
   Private Sub Button3_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button3. Click
       '認証登録/電話
       If Class1.myActivate.ActivateRegisterTelephone() = False Then
           MessageBox. Show ("エラー")
       End If
   End Sub
```

```
Private Sub Button4_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button4. Click
    '認証解除/インターネット
    If Class1.myActivate.ActivateRemoveInternet() = False Then
        MessageBox. Show ("エラー")
   End If
End Sub
Private Sub Button5_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button5. Click
    '認証解除/電話
    If Class1.myActivate.ActivateRemoveTelephone() = False Then
        MessageBox. Show ("エラー")
   End If
End Sub
Private Sub Button6_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button6. Click
    '代理認証登録/準備
    If Class1.myActivate.ProxyActivateRegisterPrepare() = False Then
        MessageBox. Show ("エラー")
   End If
End Sub
Private Sub Button7_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button7. Click
    '代理認証登録/確定
    If Class1.myActivate.ProxyActivateRegisterFix() = False Then
        MessageBox. Show ("エラー")
    End If
End Sub
Private Sub Button8_Click (sender As System. Object, e As System. EventArgs) Handles Button8. Click
    '代理認証解除/準備
    If Class1. myActivate. ProxyActivateRemovePrepare() = False Then
        MessageBox. Show ("エラー")
    End If
End Sub
```

「認証レスキュー!2」 ユーザーズガイド

End Class

### C# 2010 の場合

付属のサンプルプロジェクト(NR2DLL¥SampleProject¥CSharp2010¥PackageApp)の例で説明します。

次の例では、2つのFormで同一のインスタンスで使用するためクラスClass1内でpublic staticで宣言

最初に、Newtone.NR.Activationクラスのインスタンスを作成します。

```
しています。
class Class1
   public static Newtone. NR. Activation myActivate = new Newtone. NR. Activation();
}
次に DLL のプロパティを設定します。
これらのプロパティは通常、最初に1回だけ固定的に設定するコードを記述します。
public partial class Form1 : Form
   private void Form1_Load(object sender, EventArgs e)
      //Newtone. NR. dllのプロパティの設定
      //【重要】DLLの以下のプロパティは必ず適切なものを設定してください。
      //ベンダ製品スタート開始レジストリキーパス(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1.myActivate.VendorsProductStartRegistryKeyPath =
"Software\\Newtone\\NinshoRescue\\N-200\\SampleProject";
      //電話で認証時の電話番号(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1, mvActivate, TelephoneNumber = "012-345-6789";
      //暗号化時のパスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1. myActivate. EncryptionPassword = "12345678ABCDEFGH";
      //暗号化時のSalt文字列(8バイト以上)(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1. myActivate. EncryptionSaltString = "認証レスキュー!";
      //猶予日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~365日) (※最終的には必ず貴社のものに変更
してください)
      Class1. myActivate. TrialPeriod = 0;
      //猶予期間の名称(デフォルト: "猶予(試用)")
      Class1. myActivate. TrialPeriodName = "猶予 (試用) ";
      //レンタル日数 (デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100)
      Class1. myActivate. RentalPeriod = 0;
      //レンタル期間の名称(デフォルト:"レンタル")
      Class1. myActivate. RentalPeriodName = "レンタル";
      //MACアドレスの使用(デフォルト: True)「代理認証」利用時はMACアドレス必須
      Class1. myActivate. UseMacAddress = true;
      //CPU情報の使用 (デフォルト: True)
      Class1. myActivate. UseCpuInfo = true;
      //WebサービスのURL (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1. myActivate. WebServiceURL = "http://localhost/NR2WebService/Service. asmx";
      //Webサービス時の基本認証の使用(デフォルト: False)
      Class1.myActivate.WebServiceUseBasicAuthentication = false;
      //Webサービス時の基本認証ユーザ名
      Class1. mvActivate. WebServiceBasicAuthenticationUserName = "";
      //Webサービス時の基本認証パスワード
      Class1.myActivate.WebServiceBasicAuthenticationPassword = "";
```

//Webサービス確認パスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

```
Class1. myActivate. WebServiceCheckPassword = "ABcd1234";
      //プロダクトIDの桁数 (デフォルト:17) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1. myActivate. ProductIdNumberOfDigits = 17;
      //シリアルNo. の桁数 (デフォルト:8) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
      Class1. myActivate. SerialNoNumberOfDigits = 8;
      //Webサービスのタイムアウト (デフォルト:60秒)
      Class1.myActivate.WebServiceTimeout = 60;
      //認証登録時の設定プロダクトID (デフォルト:空文字列)
      Class1.myActivate.SetProductID = "";
      //認証登録時の設定シリアルNo. (デフォルト:空文字列)
      Class1. myActivate. SetSerialNo = "";
      CertificationStatus(); //認証状況の確認
   }
}
後は、必要に応じてDLLのメソッドを呼び出します。
次の例では、ActivateStatusCheck()メソッドで「認証状態確認」を行います。
public partial class Form1 : Form
   private void CertificationStatus()
   {
      //認証状況の確認
      //Button1、Button2、Button3を含むGroupBox1のEnabledプロパティをFalseにして無効とする。
      GroupBox1. Enabled = false;
      int ret = 0;
      string stat = null;
      //表示メッセージ
      ret = Class1. myActivate. ActivateStatusCheck();
      //認証状況確認
      if (ret>=1 && ret<=365)
          //猶予日数有
          stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + Class1. myActivate. TrialPeriodName + "期間残
日数は" + ret. ToString() + "目です。" + "\r" + "続行します。";
          MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK, MessageBoxIcon. Information);
          //猶予 (試用) 残日数があるので、Button1、Button2、Button3を含む
          //GroupBox1のEnabledプロパティをTrueにして有効とする。
          GroupBox1. Enabled = true;
          return:
      }
      if (ret >= 1001 && ret <= 2100)
```

```
//レンタル日数有
                                  stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + Class1. myActivate. RentalPeriodName + "期間残
日数は" + (ret-1000). ToString() + "日です。" + "\fr" + "続行します。";
                                  MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK, MessageBoxIcon. Information);
                                  GroupBox1. Enabled = true;
                                  return:
                      }
                       if (ret >= 20000101 && ret <= 21001231)
                                  //「有効期限」以内
                                  String retStr = "";
                                  retStr = ret. ToString();
                                  stat = "有効期限は、" + retStr. Substring(0, 4) + "/" + retStr. Substring(4, 2) + "/" + retStr. 
retStr. Substring(6, 2) + "までです。";
                                  MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK, MessageBoxIcon. Information);
                                  GroupBox1.Enabled = true;
                                  return ;
                      }
                       if (ret \geq= -21001231 && ret \leq= -20000101)
                                  //「有効期限」以外
                                  String retStr = "";
                                  ret = ret * -1;
                                   retStr = ret. ToString();
                                  stat = "有効期限は、" + retStr. Substring (0, 4) + "/" + retStr. Substring (4, 2) + "/" + retStr.
retStr. Substring(6, 2) + "までです。";
                                  stat = stat + Environment. NewLine + "有効期限が切れました。";
                                  MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK, MessageBoxIcon. Exclamation);
                                  return;
                      }
                       switch (ret)
                                  case 0:
                                             //期限切れ(猶予有効時)
                                             stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + Class1. myActivate. TrialPeriodName + "期
限が切れました。" + "¥r" + "メニューは実行できません。" + "¥r" + "「ライセンス管理」からライセン
スの認証登録を行ってください。";
                                              MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
                                             break;
                                  case 400:
                                              //未認証(猶予無効時)
                                              stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + "ライセンスが認証されていません。" + "\frac{4}{r}"
+ "メニューは実行できません。" + "\\" + "「ライセンス管理」からライセンスの認証登録を行ってくだ
さい。";
                                              MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
                                              break;
                                  case 500:
```

```
//認証済み
             //認証済みなので、Button1、Button2、Button3を含む
             //GroupBox1のEnabledプロパティをTrueにして有効とする。
             GroupBox1. Enabled = true;
             break:
         case 1000:
            //レンタル期限切れ
             stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + Class1. myActivate. RentalPeriodName + "
期限が切れました。"+"Yr"+"一度、認証解除を行ってから"+"Yr"+"新しいシリアルNo. を使って認
証登録を行ってください。";
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
            break;
         case -999:
             //認証済ハードウェア情報不一致
             stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + "認証済ですが認証時のハードウェア情報と
一致しない情報があります。";
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
             break;
         case -1:
             //その他エラー
             stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + "認証状況確認中に何らかのエラーが発生し
ました。";
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
             break:
         case 366:
            //日付データの取得失敗(猶予)
             stat = "日付データの取得に失敗しました。(猶予)";
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
            break;
         case 2101:
             //日付データの取得失敗 (レンタル)
             stat = "日付データの取得に失敗しました。 (レンタル)";
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
             break;
         case -21001232:
             //日付データの取得失敗(有効期限)
             stat = "日付データの取得に失敗しました。(有効期限)";
             MessageBox. Show(stat, "認証確認", MessageBoxButtons. OK,
MessageBoxIcon. Exclamation);
             break:
         default:
             stat = "[ID:" + ret. ToString() + "] " + "認証状況確認中に想定外のエラーが発生し
ました";
             MessageBox. Show(stat);
```

```
break;
       }
}
次の例では、認証状況表示ダイアログを呼び出しています。
public partial class Form2 : Form
   private void Button1_Click(object sender, EventArgs e)
       // 認証状況表示
       if (Class1.myActivate.ActivateStatusDisp() == false)
           MessageBox. Show ("エラー");
   }
}
以下の例では、認証の登録や解除に関する各処理を呼び出しています。
public partial class Form2 Form
   private void Button2_Click(object sender, EventArgs e)
       //認証登録/インターネット
       if (Class1.myActivate.ActivateRegisterInternet() == false)
           MessageBox. Show ("エラー");
   }
   private void Button3_Click(object sender, EventArgs e)
       //認証登録/電話
       if (Class1.myActivate.ActivateRegisterTelephone() == false)
           MessageBox. Show ("エラー");
   }
   private void Button4_Click(object sender, EventArgs e)
       //認証解除/インターネット
       if (Class1.myActivate. ActivateRemoveInternet() == false)
           MessageBox. Show ("\pm \overline{\neg} - ");
       }
   }
   private void Button5_Click(object sender, EventArgs e)
       //認証解除/電話
       if (Class1.myActivate.ActivateRemoveTelephone() == false)
```

```
MessageBox. Show ("\pm 5-");
}
private void Button6_Click(object sender, EventArgs e)
   //代理認証登録/準備
    if (Class1.myActivate.ProxyActivateRegisterPrepare() == false)
       MessageBox. Show ("\pm 5-");
}
private void Button7_Click(object sender, EventArgs e)
   //代理認証登録/確定
    if (Class1.myActivate.ProxyActivateRegisterFix() == false)
       MessageBox. Show ("\pm 5-");
}
private void Button8_Click(object sender, EventArgs e)
    //代理認証解除/準備
    if (Class1.myActivate.ProxyActivateRemovePrepare() == false)
       MessageBox. Show ("エラー");
}
```

### Visual Studio 6.0 (Visual Basic 6.0) の場合

付属のサンプルプロジェクト(NR2DLL\SampleProject\VisualBasic6.0\PackageApp)の例で説明します。

最初に、Newtone.NR.Activation クラスのインスタンスを作成します。 次の例では、2 つの Form で同一のインスタンスで使用するため標準モジュール Module1 内で Public で宣言しています。

Public myActivate As New Newtone NR. Activation

次に DLL のプロパティを設定します。 これらのプロパティは通常、最初に 1 回だけ固定的に設定するコードを記述します。

〈Form1 内のコード〉

Private Sub Form\_Load()

```
,_____
```

 $my Activate. \ Vendors Product Start Registry Key Path = "Software Newtone Ninsho Rescue NR-200 Sample Project"$ 

```
'電話で認証時の電話番号 (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
```

myActivate. TelephoneNumber = "012-345-6789"

myActivate. EncryptionPassword = "12345678ABCDEFGH"

myActivate. EncryptionSaltString = "認証レスキュー!"

myActivate.TrialPeriod = 0

'猶予期間の名称(デフォルト:"猶予(試用)")

myActivate.TrialPeriodName = "猶予 (試用)"

'レンタル日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100)

myActivate.RentalPeriod = 0

`レンタル期間の名称(デフォルト:"レンタル")

mvActivate. RentalPeriodName = "レンタル"

'MAC アドレスの使用(デフォルト: True)「代理認証」利用時は MAC アドレス必須

myActivate.UseMacAddress = True

'CPU 情報の使用(デフォルト:True)

myActivate. UseCpuInfo = True

'Web サービスの URL (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

myActivate.WebServiceURL = "http://localhost/NR2WebService/Service.asmx"

'Web サービス時の基本認証の使用(デフォルト: False)

mvActivate. WebServiceUseBasicAuthentication = False

Web サービス時の基本認証ユーザ名

myActivate.WebServiceBasicAuthenticationUserName = ""

Web サービス時の基本認証パスワード

myActivate.WebServiceBasicAuthenticationPassword = ""

<sup>&#</sup>x27;Newtone. NR. dll のプロパティの設定

<sup>′【</sup>重要】DLLの以下のプロパティは必ず適切なものを設定してください。

<sup>&#</sup>x27;ベンダ製品スタート開始レジストリキーパス(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

<sup>&#</sup>x27;暗号化時のパスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

<sup>&#</sup>x27;暗号化時の Salt 文字列 (8 バイト以上) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

<sup>&#</sup>x27;猶予日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~365日)(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

<sup>&#</sup>x27;Web サービス確認パスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)

```
mvActivate.WebServiceCheckPassword = "ABcd1234"
   'プロダクト ID の桁数 (デフォルト: 17) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   myActivate. ProductIdNumberOfDigits = 17
   'シリアル No. の桁数(デフォルト:8)(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   myActivate. SerialNoNumberOfDigits = 8
   'Web サービスのタイムアウト(デフォルト:60 秒)
   myActivate.WebServiceTimeout = 60
   '認証登録時の設定プロダクト ID (デフォルト:空文字列)
   myActivate.SetProductID = ""
   <sup>'</sup>認証登録時の設定シリアル No. (デフォルト:空文字列)
   myActivate.SetSerialNo = ""
   CertificationStatus '認証状況の確認
End Sub
後は、必要に応じて DLL のメソッドを呼び出します。
次の例では、ActivateStatusCheck()メソッドで「認証状態確認」を行います。
〈Form1 内のコード〉
Private Sub CertificationStatus()
   '認証状況の確認
   'Command1、Command2、Command3、Frame1のEnabledプロパティをFalseにして無効とする。
   Frame1. Enabled = False
   Command1. Enabled = Flase
   Command2. Enabled = Flase
   Command3. Enabled = Flase
   Dim ret As Integer
   Dim stat As String '表示メッセージ
   ret = myActivate. ActivateStatusCheck()
   '認証状況確認
   Select Case ret
      Case 0 <sup>′</sup>期限切れ (猶予有効時)
          stat = "[ID:" + Str(ret) + "] " + myActivate. TrialPeriodName + "期限が切れました。"
+ vbCr + "メニューは実行できません。" + vbCr + "「ライセンス管理」からライセンスの認証登録を行っ
てください。"
          MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"
      Case 1 To 365 ' 猶予日数有
          stat = "[ID:" + Str(ret) + "] " + myActivate. TrialPeriodName + "期間残日数は" + Str
(ret) + "日です。" + vbCr + "続行します。
          MsgBox stat, vbInformation, "認証確認"
          ′猶予(試用)残日数があるので、Button1、Button2、Button3 を含む
          'Frame1 の Enabled プロパティを True にして有効とする。
          Frame1. Enabled = True
          'Command1、Command2、Command3 を有効にする。
          Command1. Enabled = True
          Command2. Enabled = True
          Command3. Enabled = True
```

Case 400 '未認証(猶予無効時)

stat = "[ID:" + Str(ret) + "]" + "ライセンスが認証されていません。" + vbCr + "メニューは実行できません。" + vbCr + "「ライセンス管理」からライセンスの認証登録を行ってください。" MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case 500 '認証済み

'認証済みなので、Button1、Button2、Button3 を含む

'Frame1 の Enabled プロパティを True にして有効とする。

Frame1. Enabled = True

'Command1、Command2、Command3 を有効にする。

Command1. Enabled = True

Command2. Enabled = True

Command3. Enabled = True

Case 1000 'レンタル期限切れ

stat = "[ID:" + Str(ret) + "]" + myActivate.RentalPeriodName + "期限が切れました。" + vbCr + "一度、認証解除を行ってから" + vbCr + "新しいシリアル No.を使って認証登録を行ってください。"

MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case 1001 To 2100 'レンタル日数有

stat = "[ID:" + Str(ret) + "]" + myActivate.RentalPeriodName + "期間残日数は" + Str(ret - 1000) + "日です。" + vbCr + "続行します。"

MsgBox stat, vbInformation, "認証確認"

'Frame1 の Enabled プロパティを True にして有効とする。

Frame1. Enabled = True

'Command1、Command2、Command3 を有効にする。

Command1. Enabled = True

Command2. Enabled = True

Command3. Enabled = True

Case -999 '認証済ハードウェア情報不一致

stat = "[ID:" + Str(ret) + "]" + "認証済ですが認証時のハードウェア情報と一致しない情報があります。"

MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case -1 'その他エラー

stat = "[ID:" + Str(ret) + "]" + "認証状況確認中に何らかのエラーが発生しました。" MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case 20000101 To 21001231 '「有効期限」以内

stat = "有効期限は、" + Mid(ret, 1, 4) + "/" + Mid(ret, 5, 2) + "/" + Mid(ret, 7, 2) + "までです。"

MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Frame1. Enabled = True

Case -21001231 To -20000101 '「有効期限」以外

ret = ret \* -1

stat = "有効期限は、" + Mid(ret, 1, 4) + "/" + Mid(ret, 5, 2) + "/" + Mid(ret, 7, 2) + "までです。"

stat = stat + vbCr + "有効期限が切れました。"

MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case 366 '日付データの取得失敗 (猶予)

stat = "日付データの取得に失敗しました。(猶予)"

MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case 2101 '日付データの取得失敗 (レンタル)

stat = "日付データの取得に失敗しました。(レンタル)"

MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"

Case -21001232 '日付データの取得失敗(有効期限)

```
stat = "日付データの取得に失敗しました。(有効期限)"
          MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"
      Case Else '想定外
          stat = "[ID:" + Str(ret) + "] " + "認証状況確認中に想定外のエラーが発生しました"
          MsgBox stat, vbExclamation, "認証確認"
   End Select
End Sub
次の例では、認証状況表示ダイアログを呼び出しています。
〈Form2 内のコード〉
Private Sub Command1_Click()
   '認証状況表示
   If myActivate. ActivateStatusDisp() = False Then
      MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
以下の例では、認証の登録や解除に関する各処理を呼び出しています。
〈Form2 内のコード〉
Private Sub Command2_Click()
   "認証登録/インターネット
   If myActivate.ActivateRegisterInternet() = False Then
      MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
Private Sub Command3_Click()
   '認証登録/電話
   If myActivate. ActivateRegisterTelephone() = False Then
      MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
Private Sub Command4_Click()
   "認証解除/インターネット
   If myActivate.ActivateRemoveInternet() = False Then
      MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
Private Sub Command5_Click()
   '認証解除/電話
```

If myActivate. ActivateRemoveTelephone() = False Then

```
MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
Private Sub Command6_Click()
   '代理認証登録/準備
   If myActivate.ProxyActivateRegisterPrepare() = False Then
       MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
Private Sub Command7_Click()
   '代理認証登録/確定
   If myActivate.ProxyActivateRegisterFix() = False Then
       MsgBox "エラー"
   End If
End Sub
Private Sub Command8_Click()
   '代理認証解除/準備
   If myActivate.ProxyActivateRemovePrepare() = False Then
       MsgBox "エラー"
   End If
```

End Sub

## Visual C++の場合

付属のサンプルプロジェクト(NR2DLL¥SampleProject¥VC++2010¥PackageApp)の例で説明します。

最初に、NewtoneNRvcpp.IActivationクラスを使用するためにタイプライブラリのインポートをします。 次の例では、2つのダイアログで同一のインスタンスで使用するためPackgeApp.h内でタイプライブラ リのインポート、クラスの宣言をしています。

次にPackageAppDlg.cpp内のOnInitDialogイベント内でvcppActivationクラスのinterfaceポインタを 作成してNewtoneNRvcpp.IActivationクラスのインスタンスを作成します。

次に DLL のプロパティを設定します。これらのプロパティは通常、最初に 1 回だけ固定的に設定するコードを記述するので PackageAppDlg.cpp 内の OnInitDialog イベント内に記述します。

```
//【重要】DLLの以下のプロパティは必ず適切なものを設定してください。
   //ベンダ製品スタート開始レジストリキーパス(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp.m_pActivation->VendorsProductStartRegistryKeyPath =
"Software\\Newtone\\NinshoRescue\\NR-200\\SampleProject";
   //電話で認証時の電話番号(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp.m pActivation->TelephoneNumber = "012-345-6789";
   //暗号化時のパスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp. m_pActivation->EncryptionPassword = "12345678ABCDEFGH";
   //暗号化時のSalt文字列(8バイト以上)(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp. m_pActivation->EncryptionSaltString = "認証レスキュー!";
   //猶予日数(デフォルト:0日、設定可能範囲:1~365日)(※最終的には必ず貴社のものに変更して
ください)
   theApp.m_pActivation->TrialPeriod = 0;
   //猶予期間の名称 (デフォルト: "猶予 (試用)")
   theApp. m_pActivation->TrialPeriodName = "猶予 (試用)";
   //レンタル日数 (デフォルト:0日、設定可能範囲:1~1100)
   theApp.m_pActivation->RentalPeriod = 0;
   //レンタル期間の名称(デフォルト:"レンタル")
   theApp. m_pActivation->RentalPeriodName = "レンタル";
   //MACアドレスの使用(デフォルト: True)「代理認証」利用時はMACアドレス必須
   theApp.m_pActivation->UseMacAddress = true;
   //CPU情報の使用(デフォルト: True)
   theApp.m pActivation->UseCpuInfo = true;
   //WebサービスのURL(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp. m_pActivation->WebServiceURL = "http://localhost/NR2WebService/Service.asmx";
   //Webサービス時の基本認証の使用(デフォルト:False)
   theApp.mpActivation->WebServiceUseBasicAuthentication = false;
   //Webサービス時の基本認証ユーザ名
   theApp. m pActivation->WebServiceBasicAuthenticationUserName = "";
   //Webサービス時の基本認証パスワード
   theApp.m_pActivation->WebServiceBasicAuthenticationPassword = "";
   //Webサービス確認パスワード(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp. m_pActivation->WebServiceCheckPassword = "ABcd1234";
   //プロダクトIDの桁数(デフォルト:17)(※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp.m_pActivation->ProductIdNumberOfDigits = 17;
   //シリアルNo. の桁数 (デフォルト:8) (※最終的には必ず貴社のものに変更してください)
   theApp.m_pActivation->SerialNoNumberOfDigits = 8;
   //Webサービスのタイムアウト(デフォルト:60秒)
   theApp.m pActivation->WebServiceTimeout = 60;
   //認証登録時の設定プロダクトID(デフォルト:空文字列)
   theApp. m_pActivation->SetProductID = "";
   //認証登録時の設定シリアルNo. (デフォルト:空文字列)
   theApp.m_pActivation->SetSerialNo = "";
   CertificationStatus(); //認証状況の確認
        . . .
}
アプリケーションの終了時にCOMの終了処理をします。
//例:ダイアログの「×」ボタンで終了した時の処理
void CPackageAppDlg::OnClose()
   // TODO: ここにメッセージ ハンドラー コードを追加するか、既定の処理を呼び出します。
```

```
CDialogEx::OnClose();
    // Uninitialize COM.
    CoUninitialize();
}
後は、必要に応じてDLLのメソッドを呼び出します。
次の例では、ActivateStatusCheck()メソッドで「認証状態確認」を行います。
void CPackageAppDlg::CertificationStatus()
    //認証状況の確認
    //Button1、Button2、Button3を無効とする。
    Button1. EnableWindow(false);
    Button2. EnableWindow(false);
    Button3. EnableWindow(false);
    CString stat;
    //表示メッセージ
    long ret = theApp.m pActivation->ActivateStatusCheck();
    CString strRet;
    strRet. Format (_T ("%d"), ret);
    CString tpName = theApp.m_pActivation->TrialPeriodName;
    CString rpName = theApp.m_pActivation->RentalPeriodName;
    if (ret >= 1 && ret <= 365)
        //猶予日数有
        stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] ") + tpName + _T("期間残日数は") + strRet + _T("日で
す。¥r続行します。");
        MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
        //猶予(試用)残日数があるので、Button1、Button2、Button3を有効とする。
        Button1. EnableWindow(true);
        Button2. EnableWindow(true);
        Button3. EnableWindow(true);
        return:
    }
    if (ret >= 1001 && ret <= 2100)
        //レンタル日数有
        CString strRet2;
        strRet2. Format (T("%d"), ret - 1000);
        stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] ") + rpName + _T("期間残日数は") + strRet2 + _T("日
です。¥r続行します。");
        MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
        Button1. EnableWindow(true);
        Button2. EnableWindow(true);
```

```
Button3. EnableWindow(true);
        return:
    }
    if (ret >= 20000101 && ret <= 21001231)
        //「有効期限」内
        stat = T("有効期限は") + strRet.Mid(0, 4) + T("/") + strRet.Mid(4, 2) + T("/") +
strRet. Mid(6, 2) + _T("までです。");
        MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
        Button1. EnableWindow(true);
        Button2. EnableWindow(true);
        Button3. EnableWindow(true);
        return:
    }
    if (ret \ge -21001231 \& ret \le -20000101)
        //「有効期限」外
        stat = _T("有効期限は") + strRet.Mid(0, 4) + _T("/") + strRet.Mid(4, 2) + _T("/") +
strRet. Mid(6, 2) + _T("までです。")
                + _T("¥r有効期限が切れました。");
        MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
        Button1. EnableWindow(true);
        Button2. EnableWindow(true);
        Button3. EnableWindow(true);
        return:
    }
    switch (ret)
        case 0:
            //期限切れ(猶予有効時)
            stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] ") + tpName + _T("期限が切れました。\fr メニュー
は実行できません。¥r「ライセンス管理」からライセンスの認証登録を行ってください。");
            MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
            break;
        case 400:
            //未認証(猶予無効時)
            stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] ライセンスが認証されていません。\frac{\text{\text{r}}}{\text{\text{c}}} = _T("] ます。
行できません。¥r「ライセンス管理」からライセンスの認証登録を行ってください。");
            MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
            break:
        case 500:
            //認証済み
            //認証済みなので、Button1、Button2、Button3を有効とする。
            Button1. EnableWindow(true);
            Button2. EnableWindow(true);
            Button3. EnableWindow(true);
            break;
        case 1000:
            //レンタル期限切れ
            stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] ") + rpName + _T("期限が切れました。\fr 一度、認
```

```
証解除を行ってから¥r新しいシリアルNo.を使って認証登録を行ってください。");
          MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
          break;
       case -999:
          //認証済ハードウェア情報不一致
          stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] 認証済ですが認証時のハードウェア情報と一致しな
い情報があります。");
          MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
          break:
       case -1:
          //その他エラー
          stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] 認証状況確認中に何らかのエラーが発生しました。
");
          MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
          break;
       case 366:
          //日付データの取得失敗(猶予)
          stat = "日付データの取得に失敗しました。(猶予)";
          MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
          break;
       case 2101:
          //日付データの取得失敗 (レンタル)
          stat = "日付データの取得に失敗しました。 (レンタル) ";
          MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
          break;
       case -21001232:
          //日付データの取得失敗(有効期限)
          stat = "日付データの取得に失敗しました。(有効期限)";
          MessageBox(stat, _T("認証確認"), MB_OK);
          break;
       default
          stat = _T("[ID:") + strRet + _T("] 認証状況確認中に想定外のエラーが発生しました");
          MessageBox(stat);
          break;
   }
}
```

以下では諸々の具体的な使用法の例を紹介します。PackageAppサンプルでは、Dlg1ダイアログの各ボタンクリックで実行します。

次の例では、認証状況表示ダイアログを呼び出しています。

// 認証状況表示

```
void Dlg1::OnBnClickedButton1()
{
     if (theApp.m_pActivation->ActivateStatusDisp() == false)
         MessageBox (_T(" \pm \overline{\neg} -"));
}
以下の例では、認証の登録や解除に関する各処理を呼び出しています。
//認証登録/インターネット
void Dlg1::OnBnClickedButton2()
     if (theApp.m_pActivation->ActivateRegisterInternet() == false)
         MessageBox (_T(" \pm \neg \neg"));
}
//認証登録/電話
void Dlg1::OnBnClickedButton3()
     if (theApp.m_pActivation->ActivateRegisterTelephone() == false)
         MessageBox (_T(" \pm \overline{\neg} -"));
}
//認証解除/インターネット
void Dlg1::OnBnClickedButton4()
     if (theApp.m_pActivation->ActivateRemoveInternet() == false)
         MessageBox (_T(" \pm \overline{\neg} -"));
}
//認証解除/電話
void Dlg1::OnBnClickedButton5()
     if (theApp.m_pActivation->ActivateRemoveTelephone() == false)
         MessageBox (_T(" \pm \overline{\neg} -"));
}
//代理認証登録/準備
void Dlg1::OnBnClickedButton6()
{
     if (theApp.m_pActivation->ProxyActivateRegisterPrepare() == false)
         MessageBox( T("エラー"));
}
//代理認証登録/確定
void Dlg1::OnBnClickedButton7()
{
     if (theApp.m_pActivation->ProxyActivateRegisterFix() == false)
         MessageBox (T(" \pm \neg \neg"));
//代理認証解除/準備
void Dlg1::OnBnClickedButton8()
     if (theApp.m_pActivation->ProxyActivateRemovePrepare() == false)
         MessageBox (T(" \pm \neg \neg "));
}
```

```
//認証状態オンライン確認
void Dlg1::OnBnClickedButton9()
{
    long ret = theApp.m_pActivation->ActivateStatusCheckOnline();
   CString strRet;
   strRet. Format(_T("%d"), ret);
   CString msg = _T("戻り値は「") + strRet + _T("」でした。\frac{\frac{\text{YrYr}}{\text{T}}}
               +_T(" (0:PCレベルで認証されていない(PCのレジストリには認証登録情報がない)
¥r")
                       1:0K (PCレベルとデータベースで認証登録情報が一致した) ¥r")
               + _T("
               + _T("
                       2:NG(PCレベルと一致する認証登録情報がデータベースにない)¥r")
               + _T("
                       3:NG (認証済ハードウェア情報不一致)¥r")
               + _T("
                       4:NG (日付データの取得失敗(猶予)) ¥r")
               + _T("
                       5:NG(日付データの取得失敗(レンタル)) \r")
               + _T("
                      6:NG(日付データの取得失敗(有効期限))¥r")
               + T(" -11:接続できない(認証時は電話) ¥r")
               + _T(" -12:接続できない(認証時は代理) ¥r")
               + _T("-999:その他エラー(接続できないなど)¥r")
               + _T(" -1:エラー(未設定や範囲を超えているプロパティがある)");
   MessageBox (msg, _T("【認証状態オンライン確認メソッド】"));
}
//認証登録状態復元メソッド
void Dlg1::OnBnClickedButton10()
    if (theApp.m_pActivation->RestoreRegisterStatus() == false)
       MessageBox(_T(" \pm \overline{\neg} - "));
}
//認証解除状態復元メソッド
void Dlg1::OnBnClickedButton11()
    if (theApp.m_pActivation->RestoreCancelStatus() == false)
       MessageBox(_T(" \pm \overline{\neg} - "));
}
```

## ■認証 UI ライブラリ(DLL)の配布

### ・配布が必要なファイル

お客様(エンドユーザ)向けに配布するアプリケーションとともに次のファイルを配布する必要があります。この場合のアプリケーションは、認証 UI ライブラリ(DLL)を使用したアプリケーションを指します。

### Newtone.NR.dll

Newtone.NR.tlb (Visual Basic 6.0 で作成したアプリケーションの配布時)
NewtoneNRvcpp.dll (Visual C++で作成したアプリケーションの配布時)
NewtoneNRvcpp.tlb (Visual C++で作成したアプリケーションの配布時)

これらは、認証レスキュー!2の「認証 UI ライブラリ」をインストールしてインストール先がデフォルトの場合、次のフォルダ内にあります。

#### .NET Framework4.0 用の DLL

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0
<64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework4.0

### .NET Framework3.5 用の DLL

<32bitOS の場合> C:\Program Files\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework3.5 <64bitOS の場合> C:\Program Files (x86)\Newtone\NR2\NR2DLL\NRDLL\Framework3.5

※認証 UI ライブラリ(DLL)の動作には、NET Framework4.0 または、Framework4.5 が必要です。

### ・お客様(エンドユーザ)PC 上での配置

認証 UI ライブラリ(DLL)をお客様(エンドユーザ)向けに配布するアプリケーションとともに配布する場合、インストーラなどでお客様(エンドユーザ)の PC 上でアプリケーション実行時にパスが通るように配置してください。

配布するアプリケーションと同じフォルダに配置するのが最も簡単な方法です。

## **<配布するアプリケーションが Visual Basic 6.0 で作成したアプリケーションの場合>** インストーラなどでお客様(エンドユーザ)の PC 上で DLL の登録も必要です。 詳しくは、

SampleProject¥VisualBasic6.0 フォルダまたは SampleProject\_API¥VisualBasic6.0 フォルダの 【認証 UI ライブラリ(DLL)を VB6 から利用する方法】.txt をご覧ください。

#### <配布するアプリケーションが Visual C++で作成したアプリケーションの場合>

インストーラなどでお客様(エンドユーザ)の PC 上で DLL の登録も必要です。

また、Visual C++で作成するアプリケーション内で、VC++用のタイプライブラリ(NewtoneNRvcpp.tlb)の Path をコードで指定する必要があります。

詳しくは、

SampleProject¥VC++2010 フォルダまたは SampleProject\_API¥VC++2010 フォルダの 【認証 UI ライブラリ(DLL)を VC++から利用する方法】.txt をご覧ください。

# ●認証レスキュー!で使う主なテーブルの概要

ここでは、「認証レスキュー!」で扱う SQL Server のテーブルを確認します。 テーブルは、以下の3種類について説明します。

- · <認証キーテーブル>
- ・ < 認証データテーブル>
- ・<認証ログテーブル>

以降でそれぞれを詳しく見て行きましょう。

### <認証キーテーブル>

このテーブルは、ライセンス認証のキーとなるテーブルで、出荷する(アプリケーション)製品1本毎に1レコードが追加されます。

たとえば、出荷する製品の 1 本が 4 ライセンス製品であれば、ライセンス数には 4 と入力します。 実際のレコード追加や削除は、社内システムの「認証キー作成」および「認証キー削除」処理で行います。

## <認証キーテーブルの例>

製品の定	義例	プロダクト ID	シリア	ライセ	プラス
製品名	ライセンス	フロメットロ	ル No.	ン <mark>ス数</mark>	許可数
AAA システム Ver.2.0	1 ライセンス	00001-00002-00001	A01-0001	1	0
"	<i>II</i>	"	A01-0002	1	0
//	"	"	A01-0003	1	0
"	4 ライセンス	00001-00002-00004	A04-0001	4	0
BBB システム Ver.1	1 ライセンス	00002-00001-00001	B01-0001	1	0
11	11	"	B01-0002	1	0
//	10 ライセンス	00002-00001-00010	B10-0001	10	0

## ・プラス許可数

これはライセンス認証登録済みのエンドユーザの PC がクラッシュなどに見舞われ、エンドユーザの PC ではライセンス認証解除をできないため、OS を再セットアップした PC や別の PC に、再度アプリケーションのライセンス認証登録ができない場合に使う特別な項目です。

初期値は0です。「認証レスキュー!」では、処理の入力項目ではありません。

認証業務用社内 PC の「認証管理システム」の「電話認証解除の対応」処理で、「クラッシュ」オプションを指定して認証解除を行った場合にこの「プラス許可数」項目が+1 されます。

この項目の必要性は、後で説明します。

### <認証データテーブル>

このテーブルは、出荷した製品をエンドユーザがライセンス認証登録を行って成功した場合に 1 レコード追加されます。このテーブルのプロダクト ID とシリアル No.が同一なレコード数がそのまま現在のライセンス数になります。

たとえば、このテーブルに同一の「プロダクト ID とシリアル No.」の組み合わせで 3 レコード存在する

場合は、現在3ライセンス分の認証が登録済みであることになります。

「認証レスキュー!」のライセンス認証のロジックでは、そのことを使用してライセンス数の上限を、前述の<認証キーテーブル>に登録した「ライセンス数」項目(と「プラス許可数」項目を足したもの)と比較しチェックしています。

このテーブルへの実際のレコード追加と削除は、次のタイミングで行われます。

インターネットで認証の場合、エンドユーザ PC で実行されるパッケージに組み込まれたプログラムからの呼び出しによる Web サービス内で行われます。

また、電話によるライセンス認証では社内システムの「電話認証登録の対応」、および「電話認証解除の対応」処理で行われます。

## <認証データテーブルの例>

製品の定義例					ライセンス
製品名	ライセン ス	プロダクト ID	シリアル No.	認証 ID	キー
AAA シ ステム Ver.2.0	1 ライセ ンス	00001-00002-00001	A01-0001	11111-1111	****** *****
"	"	"	A01-0002	22222-22222	****** *****
"	"	"	A01-0003	33333-33333	****** *****
<i>''</i>	4 ライセ ンス	00001-00002-00004	A04-0001	44444-44444	****** *****
"	"	"	"	55555-55555	****** *****
"	"	"	"	66666-66666	****** *****
BBB シ ステム Ver.1	1 ライセ ンス	00002-00001-00001	B01-0001	77777-77777	******
"	10 ライ センス	00002-00001-00010	B10-0001	88888-88888	****** *****
"	"	"	"	99999-99999	****** *****

4 ライセンス分の 3 ライセンスが既に認証登録されている

### -認証 ID

5桁-5桁(数字のみ)

エンドユーザ PC 側の認証登録処理時に自動的に発生します。

### ・ライセンスキー

15 桁 (数字のみ)

上記の「認証 ID」とプロダクト ID、シリアル No.をもとに生成されます。

このライセンスキーは、インターネットでの認証の場合は、Web サービスで生成後エンドユーザPC側の認証登録処理(のプログラム)に返され、プログラムが自動的に処理します。

また、電話での認証登録時はオペレータに電話で伝えられたライセンスキーをエンドユーザが 画面で入力して登録します。 ここでは、<認証キーテーブル>と<認証データテーブル>の両方のテーブルの項目説明が終わったところで、両テーブルに密接に関連する「プラス許可数」項目について説明します。

## **<認証キーテーブル>の「プラス許可数」項目の必要性**

通常、ライセンス認証登録済みの PC がクラッシュすると、エンドユーザは製品に添付されているプロダクト ID とシリアル No.しかわかりません。認証解除には認証 ID も必要です。

たとえば、製品が 4PC ライセンスといった複数ライセンスの場合、プロダクト ID+シリアル No.は同一ですからこの情報だけでは、4 台中でクラッシュした個体 PC1 台を特定できません。

この場合、<認証データテーブル>には、同一のプロダクトID+シリアル No.を持つレコードは最大で 4レコード存在することになりますが、認証 ID やライセンスキーが分からないのでどのレコードがクラッシュした PC 分なのか判定できません。

### <認証キーテーブル>

製品の定義例		プロダクト ID	シリアル No.	ライセンス	プラ ス許
製品名	ライセンス	フロメシトロ	2777 NO.	数	可数
AAA システム Ver.2.0	1 ライセンス	00001-00002-00001	A01-0001	1	0
"	4 ライセンス	00001-00002-00004	A04-0001	4	0
BBB システム Ver.1	1 ライセンス	00002-00001-00001	B01-0001	1	0

### <認証データテーブル>

製品の 製品名	定義例 ライセン ス	プロダクト ID	シリアル N o.	認証 ID	ライセン スキー		
AAA シ ステム Ver.2.0	1 ライセ ンス	00001-00002-00001	A01-0001	11111-1111	****** ****		
"	4 ライセ ンス	00001-00002-00004	A04-0001	44444-44444	****** ****		
"	"	" " 55555-		55555-55555	****** ****		
"	"	"	"	66666-66666	****** ****		
"	"	11	" 12345-12345		****** ****		
BBB シ ステム Ver.1	1 ライセンス	00002-00001-00001	B01-0001	77777-77777	****** ****		

認証 ID が分からないと、これら 4 レコード分のどの PC 分(レコード)がクラッシュしたのか分からない

また消去法で考えたとして、クラッシュしていない残りの 3 台すべての PC の認証情報をエンドユーザから聞き出し煩雑な対応をすることは、エンドユーザはもちろん貴社にとっても得策ではありませんし、仮に 50 ライセンスだったらどうでしょう? PC49 台分の認証情報をエンドユーザから教えてもらわねばなりません。

そこでこれらの解決方法として、前述の通り社内システムの「電話認証解除の対応」処理で、「クラッシュ」オプションを指定して認証解除を行い「プラス許可数」項目が+1 されると、「ライセンス数」+「プラス許可数」の合計が最大ライセンス数としてみなされ、未登録のライセンス数に 1 ライセンス分の猶予ができるわけです。

## く認証キーテーブル>

製品の定義例		プロダクト ID	シリアル No.	シス	プラ ス許
製品名	ライセンス	フロメシトロ	ンリアル NO.	数	可数
AAA システム Ver.2.0	1 ライセンス	00001-00002-00001	A01-0001	1	0
"	4 ライセンス	00001-00002-00004	A04-0001	4	1
BBB システム Ver.1	1 ライセンス	00002-00001-00001	B01-0001	1	7

合計 5 ライセンス(<認証 データ テーブル>上での 5 レコード)まで登録可能となる

## <認証データテーブル>

	製品の 製品名	定義例 ライセン ス	プロダクト ID	シリアル N o.	認証 ID	ライセンスキー	
	AAA シ ステム Ver.2.0	1 ライセ ンス	00001-00002-00001	A01-0001	11111-1111	****** ****	
	//	4 ライセ ンス	00001-00002-00004	A04-0001	44444-44444	****** ****	
	"	"	"	"	55555-5555	****** ****	
	"	"	"	"	66666-66666	****** ****	
_	"	"	"	"	12345-12345	****** *****	
l	11	//	<i>II</i>	"	xxxxx-xxxxx	-	<u> </u>
	BBB シ ステム Ver.1	1 ライセ ンス	00002-00001-00001	B01-0001	77777-77777	****** ****	

その際、クラッシュした PC 分の<認証データテーブル>内のレコードは、以降活用されることのないデッドレコードとなりますが、システム上の問題はありません。

## <認証ログテーブル>

このテーブルには、ライセンス認証に関わる様々な処理結果がログとして1レコードずつ記録されます。

このテーブルの内容は、社内システムの「ログの表示」処理で確認、また必要に応じて削除することができます。

<認証ログテーブルの例>

自動No.	日時	処理	ステータス	認証区分	玐	プロダクトID	シリアルNo.	12HID	MACアドレス1	CPU情報
1	2014/02/24 15:38:00	1字一作成	1:正常登録	1オンライン		00001-00001-00001	A0000001		E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
2	2014/02/24 15:38:00	1:キー作成	1:正常登録	1:オンライン		00001-00001-00001	A0000002		E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
3	2014/02/24 15:38:00	1字一作成	1:正常登録	1:オンライン		00001-00001-00001	A0000003		E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
4	2014/02/24 15:39:00	1:字一作成	1:正常登録	1:オンライン		00001-00001-00001	A0000004		E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
5	2014/02/24 15:39:00	1:キー作成	1:正常登録	1オンライン		00001-00001-00001	A0000005		E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i8-212
6	2014/03/24 15:42:00	3認証登録	1:正常登録	1オンライン		00001-00001-00001	A0000001	50533-21818	E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
7	2014/03/24 15:42:00	3:認証登録	1:正常登録	1:オンライン		00001-00001-00001	A0000003	17958-26503	E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
8	2014/03/24 15:42:00	3:認証登録	1:正常登録	1オンライン		00001-00001-00001	A0000002	78359-54685	E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
9	2014/03/25 18:17:00	1:字一作成	1:正常登録	1:オンライン		12345-12345-12345	1234ABCD		E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
10	2014/03/27 10:47:13	3.認証登録	1:正常登録	1:オンライン		12345-12345-12345	1234ABCD	25672-67548	E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212
11	2014/03/27 10:47:18	4:認証解除	1:正常解除	1オンライン		12345-12345-12345	1234ABCD	25672-67548	E840F260C430	Intel(R) Core(TM) i3-212

## •自動 No.

レコード追加時に自動的に付番されます。 初期値(シード)、増分(インクリメント)ともに 1 です。

## •日時

ログが記録された日時です。

## •処理区分

ログが書き込まれる際に、行われていた処理を示します。

## ・ステータスフラグ

ログが書き込まれる際に、その処理における結果状態を示します。

## 「処理区分」と「ステータスフラグ」の定義は次の通りです。

処理区分	ステータスフラグ
1:キー作成	1:正常登録
	2:重複データ
	3:何らかの原因
	11:同時実行違反
2:キー削除	1:正常削除
	2:該当キーなし
	3:何らかの原因
3:認証登録	1:正常登録
	2:ライセンス超え
	3:該当キーなし
	4:何らかの原因
	5:重複データ
4:認証解除	1:正常解除
	3:該当データなし
	4:何らかの原因
5:キー作成	1:正常登録
(自動ナンバリング)	2:重複データ
	3:何らかの原因
	11:同時実行違反
6:キー作成	1:正常登録
(表形式)	2:重複データ
	3:何らかの原因
	11:同時実行違反

7:キー編集	1:正常登録
(表形式)	2:重複データ
	3:何らかの原因
	11:同時実行違反
8:キー削除	1:正常削除
(選択削除)	2:該当キーなし
	3:何らかの原因
9:キー削除	1:正常削除
(全行削除)	2:該当キーなし
	3:何らかの原因
10:クラッシュ解除	1:正常解除
	2:該当データなし
	3:何らかの原因
11:キー作成	1:正常登録
(インポート)	2:重複データ
	3:何らかの原因
	11:同時実行違反
12:キー作成	1:正常登録
(ランダム生成)	2:重複データ
	3:何らかの原因
	11:同時実行違反
13:有効期限の更新	1:正常更新

#### ・メモ

認証キー編集時の検索条件や認証登録時の有効期限などさまざまな情報を記録します。

### -MAC アドレス

認証 UI ライブラリ(DLL)の UseMacAddress プロパティ、または APIUseMacAddress プロパティが True に設定されている場合、ログが書き込まれる際に、エンドユーザ PC の MAC アドレスを最大で 5 個記録します。

MAC アドレスは LAN ポートなどのネットワーク機器に固有な物理アドレスです。これを利用することでエンドユーザ PC の不正利用時の認証識別情報の精度を上げます。

## ·CPU 情報

認証 UI ライブラリ(DLL)の UseCpuInfo プロパティ、または APIUseCpuInfo プロパティが True に設定されている場合、ログが書き込まれる際に、エンドユーザ PC の CPU 情報を記録します。

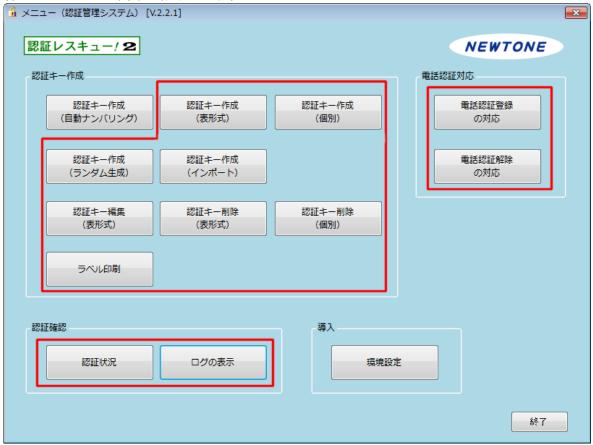
これを利用することでエンドユーザ PC の不正利用時の認証識別情報の精度を上げます。

# •IP アドレス

ログが書き込まれる際にエンドユーザ PC 側の(グローバル)IP アドレスを記録します。 なお、ローカル PC で Web サービスを実行している場合などの localhost を表す IP アドレスは、 IPv4 で"127.0.0.1"、IPv6 で"::1"が記録されます。

## ●「認証管理システム」のその他の処理説明

認証業務用社内 PC の「認証管理システム」の処理で先の初期設定で説明していない下図中の赤枠の処理について簡単に説明します。



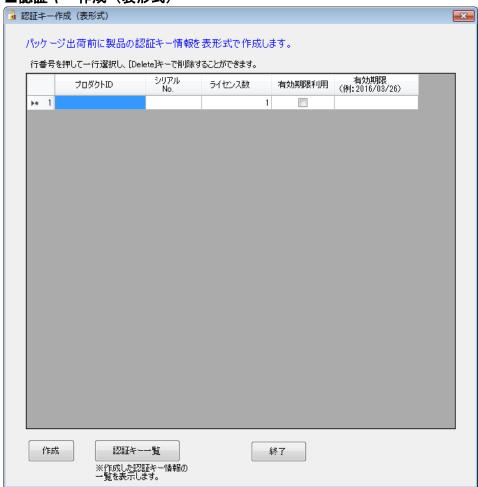
### ※検索結果の表示上限数について

以降の各処理中の認証キーテーブルや認証データテーブル、およびログテーブルの検索機能では、検索条件の結果が 1 万行を超えるとメッセージが表示され検索条件を絞り込むように案内されます。

ただし、「認証状況」における認証データテーブルの検索結果の行数に関しては、Excel ファイルへの出力機能があるため制限はありません。

それでは、各処理を簡単に説明します。

## ■認証キー作成(表形式)



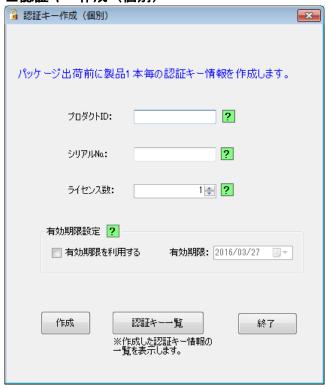
パッケージ出荷前に製品1本毎の認証キー情報を表形式で一度に複数作成できます。

## 「作成」ボタン:

表に入力された内容で、<認証キーテーブル>に追加します。

## 「認証キー一覧」ボタン:

## ■認証キー作成(個別)



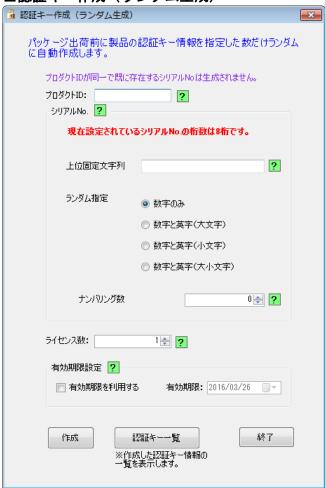
パッケージ出荷前に製品1本毎の認証キー情報を作成します。

## 「作成」ボタン:

入力された内容で、く認証キーテーブル>に1レコード追加します。

## 「認証キー一覧」ボタン:

## ■認証キー作成(ランダム生成)



パッケージ出荷前に製品の認証キー情報を指定した数だけランダムに自動生成します。

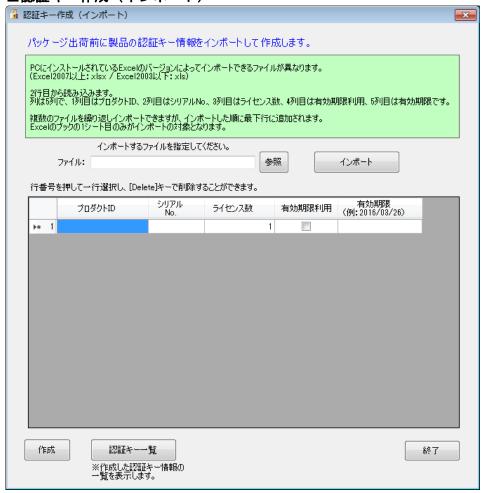
「上位固定文字列」の指定や「ランダム指定」の選択ができます。

## 「作成」ボタン:

入力された内容で、<認証キーテーブル>に追加します。

# 「認証キー一覧」ボタン:

## ■認証キー作成(インポート)



パッケージ出荷前に製品の認証キー情報をインポートして作成します。

PC にインストールされている Excel のバージョンによってインポートできるファイルが異なります。

(Excel2007 以上:.xlsx / Excel2003 以下:.xls)

2行目から読み込みます。

列は 5 列で、1 列目はプロダクト ID、2 列目はシリアル No.、3 列目はライセンス数、4 列目は有効期限利用、5 列目は有効期限です。4 列目の有効期限利用は $\lceil 0:$  利用しない、1: 利用する」として設定しておきます。

複数のファイルを繰り返しインポートできますが、インポートした順に最下行に追加されます。 Excel のブックの 1 シート目のみがインポートの対象となります。

## 「参照」ボタン:

インポートするファイルを選択します。

## 「インポート」ボタン:

インポートを実行します。

## 「作成」ボタン:

インポートされた内容で、<認証キーテーブル>に追加します。

### 「認証キー一覧」ボタン:

### ■認証キー編集(表形式)



既に存在する認証キーを表形式で編集します。

※ライセンス形態が有効期限形式の場合で、特定のプロダクト ID とシリアル No に新しい有効期限を設定する場合は、当処理を利用します。

### 「検索実行」ボタン:

入力された検索条件で、<認証キーテーブル>の該当するレコードを表示します。

検索結果に対して表上で編集できます。

その際、既に(子データである)認証データが存在する認証キーの行や、入力不可項目はグレーで表示され編集はできません。

### 「登録」ボタン:

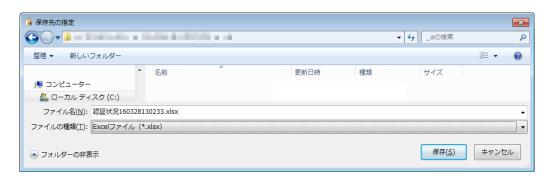
表に入力された内容で、<認証キーテーブル>を更新します。

### 「有効期限の一括設定」

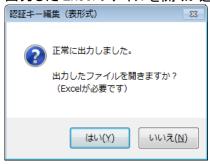
現在表示されている表内の認証キーすべての「有効期限」を一括で同日に設定できます。

### 「Excel ファイル出力 Iボタン:

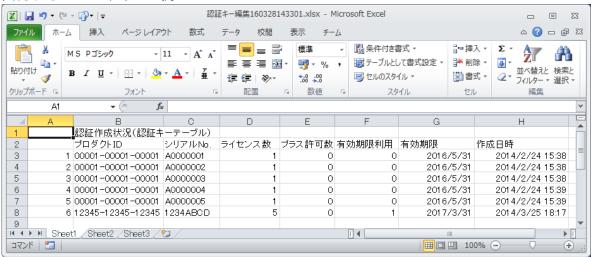
現在の表示内容を Excel ファイル(.xlsx)として出力します。ボタンを押すと出力先を指定するダイアログが表示されます。



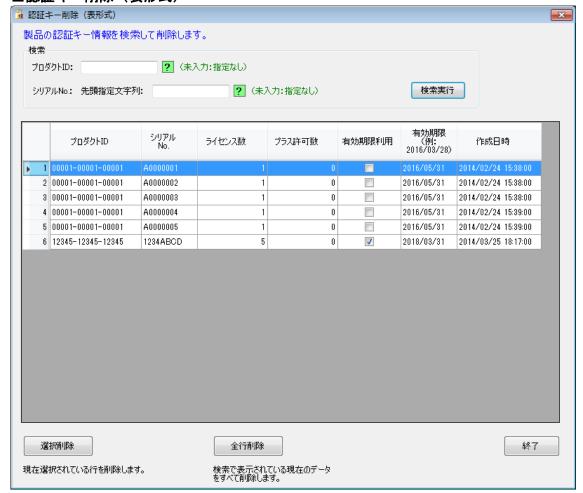
#### 出力した Excel ファイルを開くか選択します。



#### 出力した Excel ファイルの例:



#### ■認証キー削除(表形式)



#### 「検索実行」ボタン:

入力された検索条件で、<認証キーテーブル>の該当するレコードを表示します。 検索結果に対して表上で削除する行を指定します。

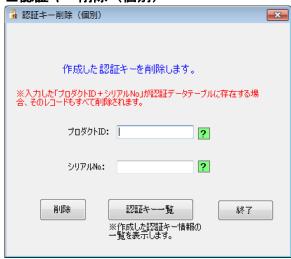
#### 「選択削除」ボタン:

現在選択されている行を削除します。複数行の選択も可能です。

#### 「全行削除」ボタン:

検索結果として表示されている現在のデータをすべて削除します。

#### ■認証キー削除(個別)



既存の認証キーを<認証キーテーブル>から削除します。 この際、入力した「プロダクト ID+シリアル No.」が(子データの)<認証データテーブル>に存在する 場合は、そのレコードも削除されます。

#### 「削除」ボタン:

入力された内容の認証キーを削除します。

#### 「認証キー一覧」ボタン:

登録されているく認証キーテーブル>の一覧を検索条件を指定して表示します。

#### ■認証状況



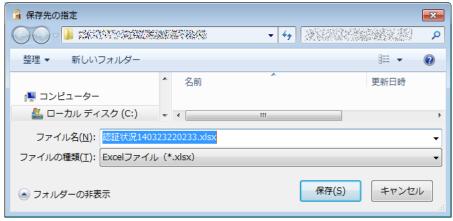
パッケージ出荷前に作成した認証キー情報(上表)と現在のエンドユーザによるライセンスの認証登録状況(下表)を表示します。

#### 「検索実行」ボタン:

入力された検索条件で、該当するデータを表示します。

#### 「Excel ファイル出力」ボタン:

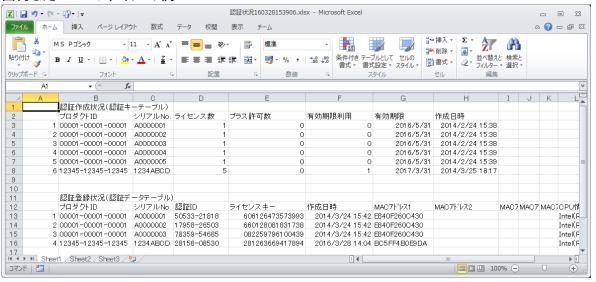
現在の表示内容を Excel ファイル(.xlsx)として出力します。ボタンを押すと出力先を指定するダイアログが表示されます。



出力した Excel ファイルを開くか選択します。



#### 出力した Excel ファイルの例:



#### ■ログの表示



認証登録、認証解除、認証キー作成、認証キー削除時のログを表示します。また、ログの削除もできます。

#### 「検索実行」ボタン:

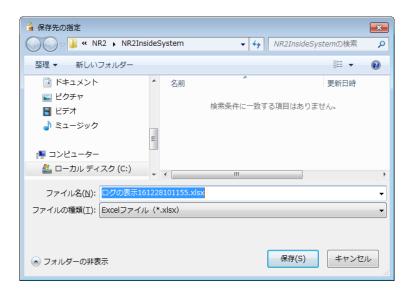
入力された検索条件で、該当するデータを表示します。

#### 「ログの削除実行」ボタン:

削除する条件を、「全削除」か「日付指定」から選択し、「日付指定」の場合はいつまでのログを削除するかを年月で指定後、この「ログの削除実行」ボタンを押すと指定した条件のログデータが削除されます。

#### 「Excel ファイル出力」ボタン:

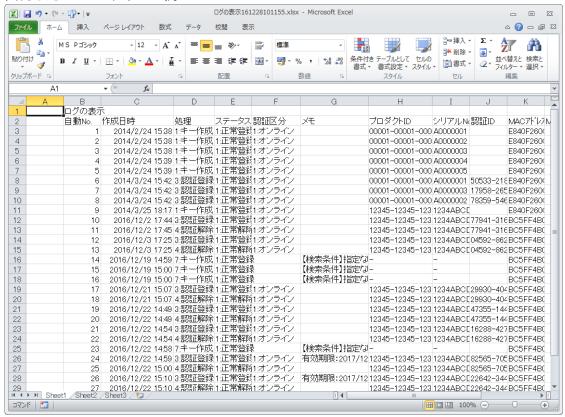
現在の表示内容を Excel ファイル(.xlsx)として出力します。ボタンを押すと出力先を指定するダイアログが表示されます。



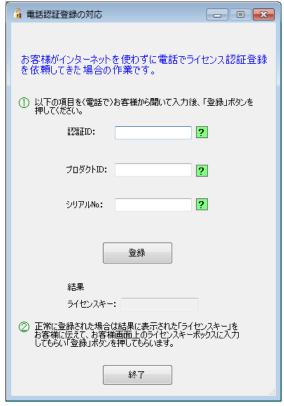
#### 出力した Excel ファイルを開くか選択します。

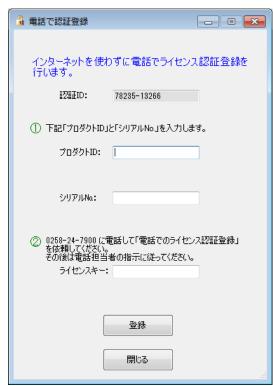


#### 出力した Excel ファイルの例:



#### ■電話認証登録の対応





本処理(貴社の認証業務用 PC)の画面

エンドユーザ PC 上の画面

エンドユーザがインターネットを使わずに電話でライセンス認証登録を依頼してきた場合の作業です。

上記の項目を電話でユーザから聞いて入力し、「登録」ボタンを押します。 その後、表示されたライセンスキーをエンドユーザに伝えて、エンドユーザ画面上の「ライセンスキーボックス」に入力してもらい「登録」ボタンを押してもらいます。

※上図のように貴社の認証業務用の PC とエンドユーザ用の PC の画面を並べて表示すると、ユーザとの電話対応がイメージできます。

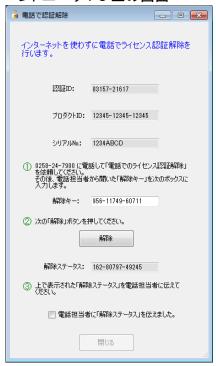
#### ■電話認証解除の対応

#### ・オフライン(ユーザの PC が動作している場合)

本処理(貴社の認証業務用 PC)の画面



#### エンドユーザ PC 上の画面



エンドユーザがインターネットを使わずに電話でライセンス認証解除を依頼してきた場合の作業です。

上記の項目を電話でエンドユーザから聞いて入力し、「解除キーの表示」ボタンを押します。 その後、表示された解除キーをユーザに伝えて、エンドユーザ画面上の「解除キーボックス」に入力 してもらい「解除」ボタンを押してもらいます。エンドユーザが正常に解除できたか確認したら社内用 PC 上の「解除」ボタンを押します。

#### 「解除キー」、「解除ステータス」について

この解除キーと解除ステータスは、この処理でしか使用しません。また、データベースやエンドユーザ PC のレジストリにも保存しません。

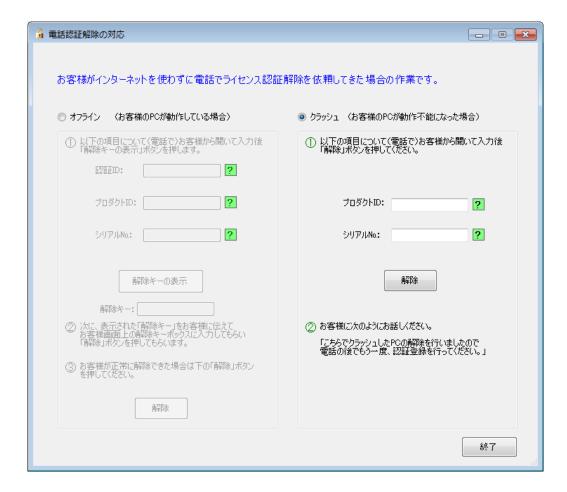
解除キーはインターネット以外で認証解除をする場合に、必ず貴社に電話をかけさせるための手段 として用意されています。

「電話認証解除の対応」の画面の「オフライン(ユーザの PC が動作している場合)」を見ると分かりますが、この解除キーの入力が無いとすると、「解除」ボタンを押すだけでエンドユーザが勝手に PC 上で認証解除ができてしまいます。この場合、エンドユーザ PC 上は認証解除状態になっても、貴社のデータベース上は認証解除にはなりません。情報のやり取りがないのですから当たり前です。そのままでは、再度エンドユーザが認証登録をしなおした場合に貴社のデータベースは解除されていないので登録は拒否されます。

そこでこのようなトラブルを避けるため、オフラインでの認証解除にはこの解除キーを必要とし、エンドユーザは貴社へ電話をして解除キーを聞かなければいけない仕組みになっているのです。

また、解除ステータスはエンドユーザがこの「電話で認証解除」を利用した不正ライセンスの流用防止のために使われます。

#### ・クラッシュ(ユーザの PC が動作不能になった場合)



エンドユーザの PC がクラッシュしてしまい、OS などを入れなおした PC や別の PC に貴社のパッケージを再インストールする場合で、そのために以前の認証解除をしなければいけない状況への対応処理です。

この場合、エンドユーザはパッケージに添付されているプロダクト ID とシリアル No.しか分かりません。

この処理では、上記の項目を電話でエンドユーザから聞いて入力後、「解除」ボタンを押します。

前述の「<認証キーテーブル>の「プラス許可数」項目の必要性」に書きましたが、この処理により データベースには新たに認証登録できる猶予が作成されます。

#### ●有効期限機能の利用方法

認証レスキュー!では、貴社はお客様(エンドユーザ)に対して通常の認証登録による無期限のラ イセンスとは別に、有効期限によるライセンスを設定することができます。 以下にその基本的な利用手順を示します。

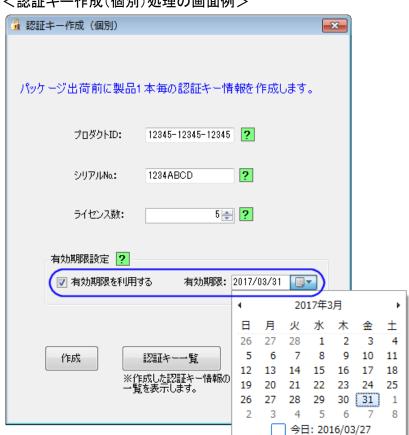
#### ■貴社側作業① - 認証キー作成処理時に有効期限を設定する

「認証管理システム」内の認証キー作成処理には、自動ナンバリング、表形式、個別、ランダム 生成、インポートの5種類があります。

これらの認証キー作成処理を使用して出荷前に最初の有効期限を設定します。

各処理の画面には指定したプロダクト ID とシリアル No.に対する「有効期限利用(する)」と「有効 期限」の項目があります。

有効期限を設定するには、「有効期限利用(する)」をチェックして「有効期限」項目に有効期限と したい日付を設定します。



<認証キー作成(個別)処理の画面例>

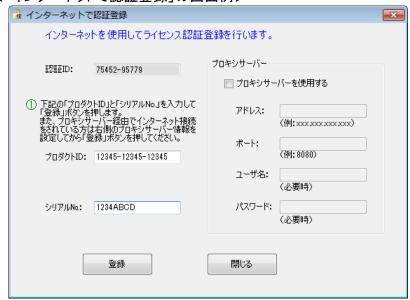
上記の画面例では5ライセンス(マルチライセンス)に対して共通な有効期限を設定しています。

#### ■エンドユーザ(お客様)側作業① - 認証登録を行う

エンドユーザに配布された貴社のアプリケーションから、通常の有効期限のない認証登録と同様 に、認証 UI ライブラリ(DLL)を呼び出すことにより認証登録を実行してもらいます。

認証登録・解除の方法としてインターネットでの認証登録・解除、電話での認証登録・解除、代理 認証登録・解除の 3 種類がありますが、有効期限によるライセンスの場合は「電話での認証登 録・解除」は利用できませんので、ご注意ください。

#### <「インターネットで認証登録」の画面例>



く貴社のアプリケーションから「認証状況表示」を呼び出した場合の画面例> 下図のように、貴社が出荷前に「認証管理システム」の「認証キー作成」処理で設定した有効期限がエンドユーザの PC にも設定されます。



# ■貴社側作業② - 有効期限によるライセンスの有効期限更新に備え、新しい有効期限を設定する

有効期限によるライセンスで使用していたエンドユーザの有効期限が迫ってきていて、貴社とエンドユーザの間で継続して使用するライセンスを更新する契約が合意されたとします。 その場合、貴社はエンドユーザが使用しているプロダクトIDとシリアル No.に対し新しい有効期限

を設定する必要があります。

「認証管理システム」の「認証キー編集(表形式)」処理で新しい有効期限を設定します。

#### <認証キー編集(表形式)の画面例>



上図の例では、プロダクト ID「12345-12345-12345」、シリアル No.「1234ABCD」のライセンスに対して、2017/03/31 までだった有効期限を新しく2018/03/31 までと、一年間更新しています。この処理後は、貴社はエンドユーザに対し有効期限を延長したことを何らかの形で通知します。

#### ■エンドユーザ(お客様)側作業② - 有効期限の更新を行う

エンドユーザは、貴社からの有効期限延長の通知を受け取ります。 次にエンドユーザに、貴社のアプリケーションから認証 UI ライブラリ(DLL)を呼び出すことにより 「有効期限の更新」を実行してもらいます。

この処理は、エンドユーザ PC が有効期限による認証済みでない場合は、実行することはできません。

#### <「有効期限の更新」の画面例>

下図のように、プロダクト ID、シリアル No.、現在の有効期限が自動的に表示されます。 エンドユーザが「更新」ボタンを押すと、貴社が「認証管理システム」の「認証キー編集(表形式)」 処理で設定した新しい有効期限が「新しい有効期限」として表示されます。



<貴社のアプリケーションから「認証状況表示」を呼び出した場合の画面例> 下図のように、新しい有効期限がエンドユーザの PC にも設定されます。



#### ◆Web アプリケーション(ASP.NET)から有効期限の更新を行う

Ver.2.6.0 以降で利用できる ASP.NET(Web アプリケーション)用の DLL には Web ページから「有効期限の更新」を実行できる、<u>APIxEditOfExpirationDate</u> メソッドが用意されています。それを利用すれば、貴社が作成した Web ページの UI からエンドユーザに「有効期限の更新」を行わせることができます。

具体的な利用方法は、次の ASP.NET(Web アプリケーション)用のサンプルプロジェクトをご覧ください。

•SampleProject\_Web フォルダ (ASP.NET 系サンプルプロジェクト)

#### ●アプリケーション難読化の必要性

ここでは、貴社が考慮するべき大変重要な事項について記載いたします。 それは、、NET アプリケーションの難読化の必要性です。

.NET 用に作成したアプリケーションのアセンブリ(.EXE や.DLL など)は、中間言語(IL)で作成されているので、簡単にリバースエンジニアリングをされてしまいます。

.NET アプリケーションの逆コンパイルは、無償の逆コンパイラなどを利用していとも簡単に実行できます。逆コンパイルにより、単にコードの内容を知られるだけにとどまらず、パスワードなどのログイン情報や暗号化情報などの文字列も明らかになります。これらを放置するとその危険性がシステム全体におよび、貴社のソフトウェアビジネスに大きな損害を与えかねません。

これらのことは「認証レスキュー!」に関わらず一般的な問題なのですが、「認証レスキュー!」の場合を考えてみます。

最終的にエンドユーザに配布されるのは「認証レスキュー!」で提供される認証 UI ライブラリ(DLL) とそれを利用して作成した貴社のアプリケーションです。

この内、認証 UI ライブラリ(DLL)は難読化を施した上で弊社(ニュートン)より出荷されています。 しかし、貴社のアプリケーションが Visual Basic(.NET)や C#で作成された場合は貴社サイドで難読 化が必要となります。

貴社のアプリケーションを難読化すれば、悪意を持ったエンドユーザ(または第三者)が逆コンパイルしてもパスワードなどのログイン情報や暗号化情報などが露呈することはありません。

不正逆コンパイル対策のために弊社の難読化ツールなどで.NET アプリケーションを「難読化」されることを強く推奨いたします。

「難読化ツール」の詳細につきましては、弊社の「Spices.NET JP」Web サイトをご覧ください。

## 「認証レスキュー!2」ユーザーズガイド(2.6.8)

2014年3月24日 初版発行 2023年10月18日 第27版発行

### NEWTONE 株式会社ニュートン

著者 株式会社ニュートン 発行所 株式会社ニュートン

新潟県長岡市本町 2-2-15 シャングリラ本町 1F

www.newtone.co.jp

Copyright © Newtone Corporation

本書は、法律に定めのある場合または権利者の承諾のある場合を除いて、いかなる方法においても複製・複写することはできません。